

*More For You*

もっと、街・暮らし・笑顔のために

**MUSASHINO BANK**

**DISCLOSURE**  
**2024.9**

中間ディスクロージャー誌

 **武蔵野銀行**

## 経営理念

### 「地域共存」

豊かな地域社会の実現に寄与し、  
地域とともに発展します。

### 「顧客尊重」

変化を先取りした果敢な経営を展開し、  
組織を挙げて最良のサービスを提供します。

## ごあいさつ

平素より武蔵野銀行をご利用、お引き立ていただき誠にありがとうございます。

経済環境につきましては、長年に亘る異次元金融緩和に終止符が打たれるとともに「超円安」の一部修正がなされるといった動きがある一方、深刻化する人手不足に対応する生産性向上が喫緊の課題となっております。

このようななか、当行では長期ビジョン「MCP(Musashino mirai-Creation Plan)～多彩な価値を結集し、地域No.1のソリューションで埼玉の未来を切り拓く～」の第1ステージである中期経営計画「MCP 1/3」のもと諸戦略の遂行に努めております。

企業の皆さんに寄り添い、円滑な資金供給と最適なコンサルティングを行う本業支援に注力とともに、全てのお客さまの最善の利益を実現する業務運営にも引き続き全力で取組んでおります。

また、デジタル化を一層加速させていくとともに、人事制度の全面改正に取組むなど人的資本経営の実践に努めております。

このほか、地域活性化やサステナビリティの分野でも、これまで蓄積してきたノウハウやネットワークを活用し、積極的に取組んでおります。

こうした取組みを展開するなか、2024年9月期につきましては、預金および貸出金の伸長が続いております。最終利益も中間期ベースで4年連続の増益となり、2025年3月期の通期業績予想を上方修正させていただいております。

これもひとえに皆さま方の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後につきましても、創業以来変わらぬ「地域共存」「顧客尊重」の経営理念のもと、地域になくてはならない銀行としての真価を従来以上に發揮し、全てのステークホルダーの皆さんとともに永続的発展を目指し、役職員一同研鑽を重ねてまいります。

皆さまからの変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2025年1月

頭取 長堀和正



# 長期ビジョン・中期経営計画

当行では、2023年に10年間の長期ビジョン「MCP (Musashino mirai-Creation Plan)」～多彩な価値を結集し、地域No.1のソリューションで埼玉の未来を切り拓く～を策定し、その実現に向けた第1ステージである中期経営計画「MCP 1/3 (ワンサード)」を2023年4月からスタートさせています。デジタル化の取組みを一層加速させていくとともに、課題解決力を有するプロフェッショナル人材の育成など人的資本経営の実践に努めています。

## 長期ビジョン「MCP (Musashino mirai-Creation Plan)」

### 多彩な価値を結集し、 地域No.1のソリューションで埼玉の未来を切り拓く

#### 実現に向けた『2つの基本方針』

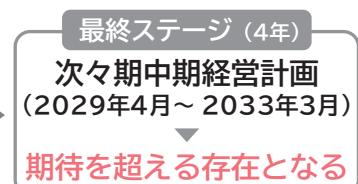
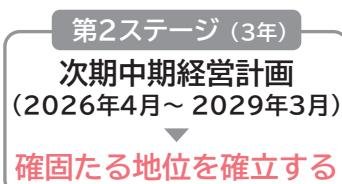
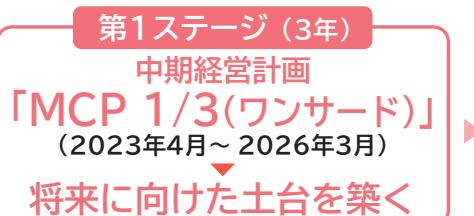
##### 基本方針 I ▶ 地域・お客さまの期待を超える存在へ

- 金融・非金融の両面からお客さまの暮らしや事業に深く入り込み、課題解決にコミットし続けることで、期待以上の価値を提供する
- 地域が潜在的に抱える課題の解決に貢献し、魅力ある地域の創造と成長を支援することで、豊かな未来を実現する

##### 基本方針 II ▶ 組織・従業員の力を最大化

- 地域になくてはならない金融機関として、環境変化に対応できるレジリエンスの高い組織を構築する
- 全ての従業員が銀行グループで働く喜びを分かち合い、個々の能力を最大限発揮するため、高度な専門性や多様な働き方を提供する

#### ビジョン実現に向けた10年



## 中期経営計画「MCP 1/3(ワンサード)」(2023年4月～2026年3月)

### 2つのテーマ

リアルとデジタルを融合し、地域・お客さまと共に歩む

あらゆる価値を認め合い、多彩な人材が躍動する

### 目指すビジネスモデル

デジタル・人的資本への投資を通じてサステナブルな経営基盤を構築するとともに、サービスレベル向上・顧客接点の増強によって、お客さま満足の最大化を目指していく

### 具体的戦略

営業推進態勢

法人戦略

個人戦略

地域活性化戦略

グループ戦略

チャネル戦略

デジタル戦略

人材戦略

有価証券戦略

アライアンス戦略

サステナビリティ戦略

経営管理態勢

# 財務情報ハイライト

## 単体決算

### ▶ 2024年9月期（2024年度中間期）の損益状況

#### ▶ 主要損益等の推移

■ コア業務純益 ■ 経常利益 ■ 中間純利益

(億円)

100 -

80 -

60 -

40 -

20 -

0 -

85

73

49

82

69

54

88

80

63

91

94

71

2021年9月期

2022年9月期

2023年9月期

2024年9月期

#### ▶ 損益状況等

(単位:百万円、%)

	2024年9月期	前年同期比	
			2023年9月期
業務粗利益	25,989	328	25,661
資金利益	23,316	1,223	22,093
役務取引等利益	5,719	627	5,091
その他業務利益	△3,045	△1,522	△1,523
うち債券関係損益(5勘定戻)	△778	△172	△605
経費(除く臨時処理分)(△)	17,596	193	17,402
実質業務純益	8,393	134	8,259
コア業務純益	9,172	307	8,864
除く投資信託解約損益	8,495	345	8,150
一般貸倒引当金繰入額(△)	△207	261	△469
臨時損益	株式関係損益(3勘定戻)	416	219
	不良債権処理費用(△)	542	△850
	償却債権取立益	208	△337
	その他臨時損益	746	766
経常利益	9,428	1,370	8,057
特別損益	△13	4	△18
税引前中間純利益	9,415	1,375	8,039
法人税等(△)	2,221	509	1,711
中間純利益	7,193	865	6,328
自己資本比率	9.90	0.93	8.97
(参考)与信関係費用(△)	127	△251	378

①コア業務純益は、資金利益が国内外の金利上昇の影響から貸出金利息や有価証券利息を主因に増加したこと、及び役務取引等利益が法人関連・個人関連とも増加したこと等から、前年同期比3億7百万円増加し91億72百万円となりました。

②経常利益は、与信関係費用の減少や株式関係損益の改善等から、同13億70百万円増加し94億28百万円となりました。中間純利益は、同8億65百万円増益の71億93百万円となりました。

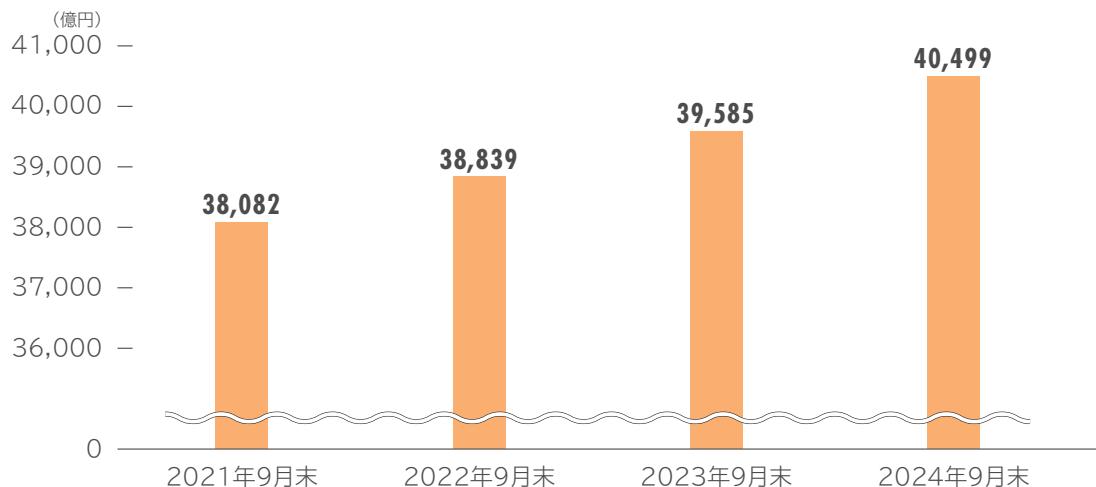
## ▶ 主要勘定の状況

(単位:億円、%)

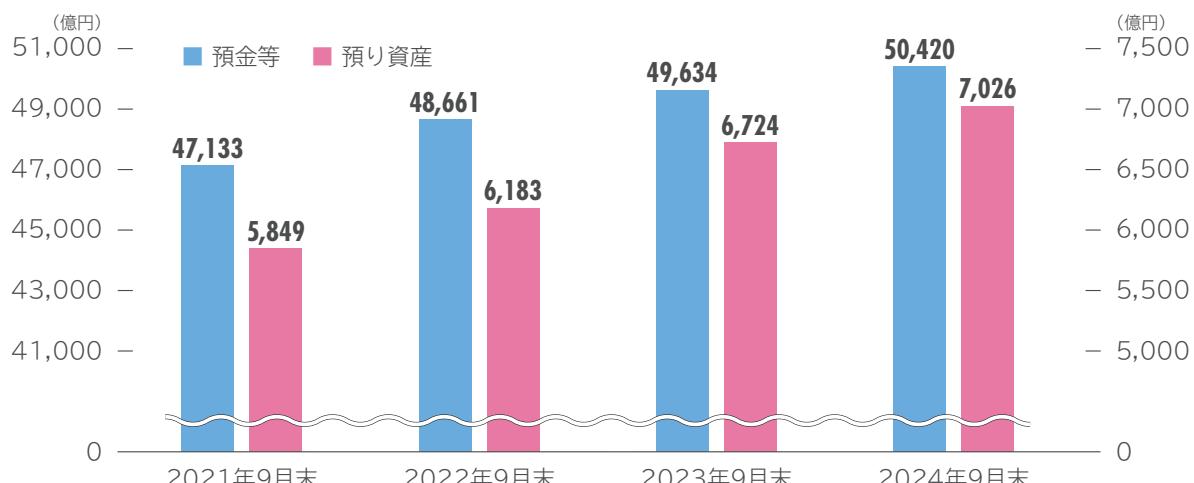
	2024年9月末	前年同期末比		2023年9月末	2024年3月末
		増加額	増加率		
貸出金	40,499	914	2.3	39,585	40,067
うち事業性貸出	22,322	426	1.9	21,895	22,251
うち非事業性貸出	16,067	515	3.3	15,552	15,794
預金等(譲渡性含む)	50,420	786	1.5	49,634	50,277
預り資産(投信等)	7,026	302	4.5	6,724	6,981
(預金等+預り資産)	57,446	1,088	1.9	56,358	57,258

- ・貸出金残高は、県内企業及び個人のお客さまの資金繰り支援に積極的かつ迅速にお応えした結果、前年同期末比914億円(年率2.3%)増加し、4兆499億円となりました。
- ・預金等残高は、地域に密着した営業基盤の拡充や総合取引の推進等に努めました結果、前年同期末比786億円(年率1.5%)増加し、5兆420億円となりました。
- ・預り資産残高は、中長期の資産形成ニーズにきめ細かくお応えした結果、前年同期末比302億円(年率4.5%)増加し、7,026億円となりました。

### ▶ 貸出金の推移



### ▶ 預金等・預り資産の推移



預金等…………預金及び譲渡性預金。

預り資産…………投資信託、生命保険、国債等の合計。投資信託は時価ベース残高、生命保険は有効契約残高。

## 連結決算

### 連結対象会社

対象となる子会社は、以下の8社です。

ぶぎん総合リース株式会社  
ぶぎん保証株式会社  
むさしのカード株式会社  
ぶぎんシステムサービス株式会社  
株式会社ぶぎん地域経済研究所  
株式会社ぶぎんキャピタル  
むさしのハーモニー株式会社  
むさしの未来パートナーズ株式会社

### 連結営業成績

(単位:百万円、%)

	経常収益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	自己資本比率
2024年9月期	40,989	9,533	7,036	10.31
2023年9月期	40,904	8,005	6,045	9.37
前年同期比	84	1,527	991	0.94

## 大株主

株主名	持株数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く)総数に対する持株数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,834	11.56
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,637	7.95
株式会社千葉銀行	925	2.79
QRファンド投資事業有限責任組合 無限責任組合員 株式会社QRインベストメント	914	2.75
明治安田生命保険相互会社	735	2.22
住友生命保険相互会社	702	2.12
武蔵野銀行従業員持株会	702	2.11
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	672	2.02
前田硝子株式会社	604	1.82
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ 東京支店)	510	1.54

注1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は自己株式(263千株)を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。なお、自己株式には、役員報酬BIP信託に係る信託口が保有する当行株式(60千株)は含まれておりません。

# サステナビリティ経営の取組み

当行では、サステナビリティの視点を銀行経営に積極的に採り入れ、「武蔵野銀行SDGs宣言」や「サステナビリティ基本方針」のもとステークホルダーの皆さんと手を携えながら、持続可能な地域社会の実現に向け取組んでいます。

## 武蔵野銀行SDGs宣言

SDGsの目標達成に貢献するため、グループ全役職員が取組むことを宣言します。

### 「持続的成長の源泉としての企業統治」

企業統治を持続的成長の源泉と位置づけ、創業以来不变の経営理念に基づく確固たる銀行経営を志向します。



### 「持続可能な地域経済」

地元産業のイノベーションや地産地消の促進、快適かつ強靭なまちづくりに貢献し、持続可能な経済成長を実現します。



### 「いつまでも自分らしく暮らせる地域社会」

全ての人々が自分らしく、健康で幸福に生活できる社会をつくるため、積極的な取組みを行います。



### 「気候変動への対応と生物多様性の維持向上」

地球規模の気候変動に対応するとともに、地域の豊かな生物多様性の維持向上に取組みます。



## サステナビリティ基本方針等

気候変動や人権といったグローバルな課題や国内外の金融経済における脱炭素の動きに対応するとともに、より実効性のあるサステナビリティ経営の実践を目指していきます。

サステナビリティ基本方針

環境方針

投融資方針

人権方針

## 気候変動への対応

## TCFD提言への取組み

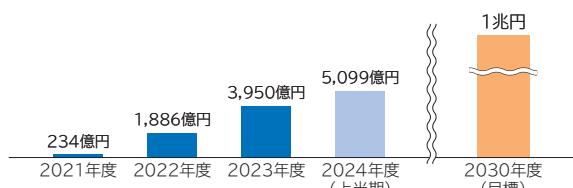
TCFD

TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

気候変動への取組みを重要な経営課題と位置づけ、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言を踏まえたガバナンスおよびリスク管理体制の構築や気候変動がもたらす機会とリスクの把握に努めています。また、サステナブルファイナンスおよび温室効果ガス排出量削減に関する目標を定め開示しています。

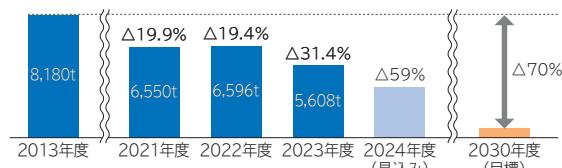
### サステナブルファイナンス

地域の脱炭素化等に資する融資について、2021年度から2030年度までの10年間で累計1兆円の実行を目指しています。



### 温室効果ガス排出量削減

当行グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量について、2030年度には2013年度比70%削減することを目指しています。



## 事業者の皆さまのサステナビリティ経営を支援

事業者の皆さまのESG及び脱炭素への取組み支援を目的とした対話ツール「ESG評価シート」を導入しているほか、1社1社の取組みの見える化から、環境へのインパクト評価まで行えるさまざまなファイナンスやコンサルティング商品のラインナップを揃えています。

### 取組み状況

### 取組みの見える化

### 取組みの高度化

### 目標の設定

### インパクト評価

#### 商品

・SDGs診断サポート

・SDGsフレンズローン

・優良企業サステナブルファンド

・SDGsコンサルティング

・脱炭素コンサルティング

・サステナビリティ・リンク・ローン

・サステナビリティ・フレームワーク・ローン

## 事業者の皆さまの脱炭素化を支援

2024年10月より、CO<sub>2</sub>排出量測定サービス「C-checker」の取扱いを開始しました。電気・ガソリン等の使用量を入力するだけで、会社全体や事業所ごとのCO<sub>2</sub>排出量が可視化され、各年度の排出量比較や排出源分析が簡単に行えます。



当行ホームページ  
から無料でご利用  
いただけます

C-checkerの  
特長

CO<sub>2</sub>排出量の  
可視化と分析

事業所ごとのCO<sub>2</sub>排出量、  
排出源の分析が可能

初期費用、ランニング  
費用ともに無料



# 地域密着型金融の推進

地域密着型金融の推進こそが当行の使命であると認識し、お客さまに対する円滑な資金供給や本業支援の実践に取組んでいます。また、その取組状況をホームページ等で定期的に公表しています。

## ▶ 中小企業の経営支援に関する取組み

### 取組み方針

当行は地域密着型金融を銀行の本分として、お客さまに対する円滑な資金供給や経営支援など、その実践に取組んでまいりました。

また、経済環境などの大きな変化を背景に、金融仲介機能の発揮への社会的要請が一層高まりを見せるなか、お客さまの成長ステージに合わせた、より適切かつきめ細かな対応を行っていくため、右の基本方針の遵守に努めています。

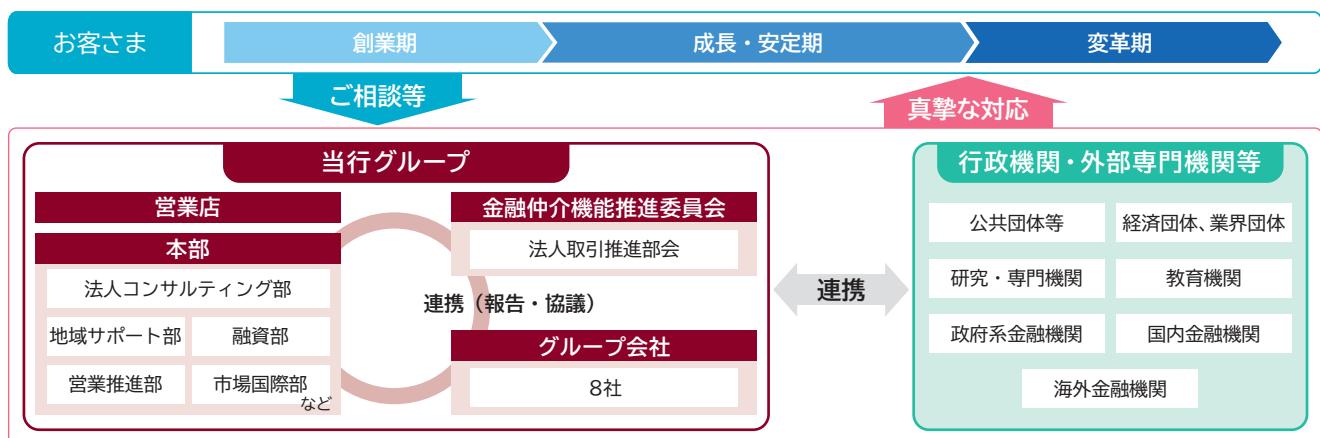
本方針のもと、お客さまの経営支援に関するさまざまな取組みを組織的かつ継続的に推進しています。

#### 基本方針

1. 金融仲介機能の発揮
  - ・地域への円滑な資金供給
  - ・取引先企業への成長支援
2. コンサルティング機能の発揮
  - ・ライフステージに応じたソリューション営業
  - ・担保、保証に過度に依存しない融資姿勢
  - ・金融円滑化に向けた継続的な取組み
3. 地方創生・地域活性化への積極的な関与
4. 地域に対する積極的な情報発信

### 態勢整備の状況

お客さまの成長ステージに合わせて、経営全般の課題に応じたソリューションを提供するとともに、必要に応じて外部専門機関等と連携しながらコンサルティング機能を発揮し、きめ細かな対応を行っています。



### コンサルティング機能の強化

当行ではかねてより、営業店と本部、グループ会社が一体となり、金融・非金融分野におけるコンサルティング機能の発揮に努めてまいりました。こうした機能の更なる強化に向け、2024年4月には本部組織の再編を行い、「法人コンサルティング部」を中心とした態勢を構築し、企業や経営者の皆さまが有するさまざまな課題の解決に取組んでいます。



## ▶ 創業期における具体的な取組み

### 創業・新事業支援

起業される方や創業間もない企業の皆さんに向けて、本部の「創業・新事業支援チーム」と営業店が連携し、きめ細かな支援を行っています。

また、埼玉県よろず支援拠点と連携し、事業計画策定や販路拡大といった創業・起業時のお悩みに専門スタッフが対応する相談会を継続的に開催しているほか、日本政策金融公庫と連携し、事業拡大のヒントとなるセミナーや経営者同士の交流会なども開催しています。

「むさしの創業支援融資」や「むさしの創業応援サービスパック」の取扱い

各種補助金の申請支援

埼玉県信用保証協会や日本政策金融公庫との連携

埼玉県よろず支援拠点との連携

公的機関の支援サービス紹介

ご相談やお問い合わせにお応えする「創業サポートデスク」を設置しています。



アクセスは  
こちらから

## ▶ 成長・安定期における具体的な取組み

### 本業支援態勢の強化

本業支援の専門組織「コンサルティング営業室」をはじめとした本部と営業店が一体となり、経営者の皆さまとの対話を通じてニーズを共有するとともに、さまざまな経営課題の解決に向けた総合的な支援を行っています。

事業性評価カルテや、知的資産マネジメント支援機構株式会社と連携した事業性評価ツールを活用し、1社1社の経営課題や潜在的ニーズを的確に把握することで、本業支援の更なる充実に繋げています。

### 多様な融資手法の取扱い

事業のキャッシュフローに着目し融資を行う「プロジェクトファイナンス」や、資金調達とあわせて企業のイメージアップに繋がる「私募債」、お客さまが保有する商品在庫や売掛金等を活用した「ABL」など、さまざまな融資手法の提案を行っています。

#### ● シンジケートローン

複数の金融機関による協調融資団を組成し、調達手段の多様化・財務合理化を図るシンジケートローン手法を活用した資金供給に取組んでいます。

また、「千葉・武蔵野アライアンス」や「TSUBASAアライアンス」にもとづく地銀連携のネットワークを活用したシンジケートローンの組成にも取組んでいます。

#### ● SDGs私募債

私募債の発行とあわせて、発行金額の0.2%相当額を地域の学校や社会福祉施設、環境基金などへ寄付・寄贈を行うことができるSDGs私募債「みらいのちから」を取扱っています。

### 課題解決を支援するコンサルティングサービス

お取引先企業の経営課題解決や新たな事業展開をサポートする各種コンサルティングサービスをご用意しています。

事業計画の策定

BCP(事業継続計画)の作成

補助金の活用

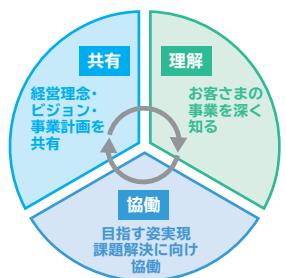
### 人材に関する課題解決支援

#### ● 人材紹介サービス

お取引先企業の事業拡大や新たな事業展開などに貢献する最適な人材を紹介しています。更に業務を「求職対応」まで拡大し、お取引先企業と求職者双方のニーズにワンストップでお応えできる態勢を整えています。

#### ● ES(従業員満足度)診断サービス

自社の従業員のESを診断し、エンゲージメントや企業価値の向上に繋げるコンサルティングサービスを取扱っています。



## ビジネスマッチング

お取引先企業のニーズに独自のネットワークを活かした最適なビジネスパートナーの紹介を行っています。  
(2024年12月現在、232社と業務提携)

## 商流支援プラットフォーム

IBUSHIGIN  
いぶしぎん

当行100%出資の地域商社「むさしの未来パートナーズ」では、お取引先企業の優れた商品等をより多くの方々に知っていただるために、クラウドファンディングやECサイトを活用し、企画から開発・プランディング・販売に至るまでの商流全体の伴走支援を行っています。

### 購入型クラウドファンディング 「IBUSHIGIN(いぶしぎん)」

事業者と応援者を繋ぐプラットフォームとして、新商品・サービスのテストマーケティングやプロモーション、ファンづくりの機会を提供しています。



### ECサイト 「IBUSHIGIN公式ストア」

「IBUSHIGIN」で取扱を行った人気の商品・サービスを通年販売しています。  
また、贈答用にストアの商品を厳選したカタログギフトをご用意しています。



## 公的支援制度の活用

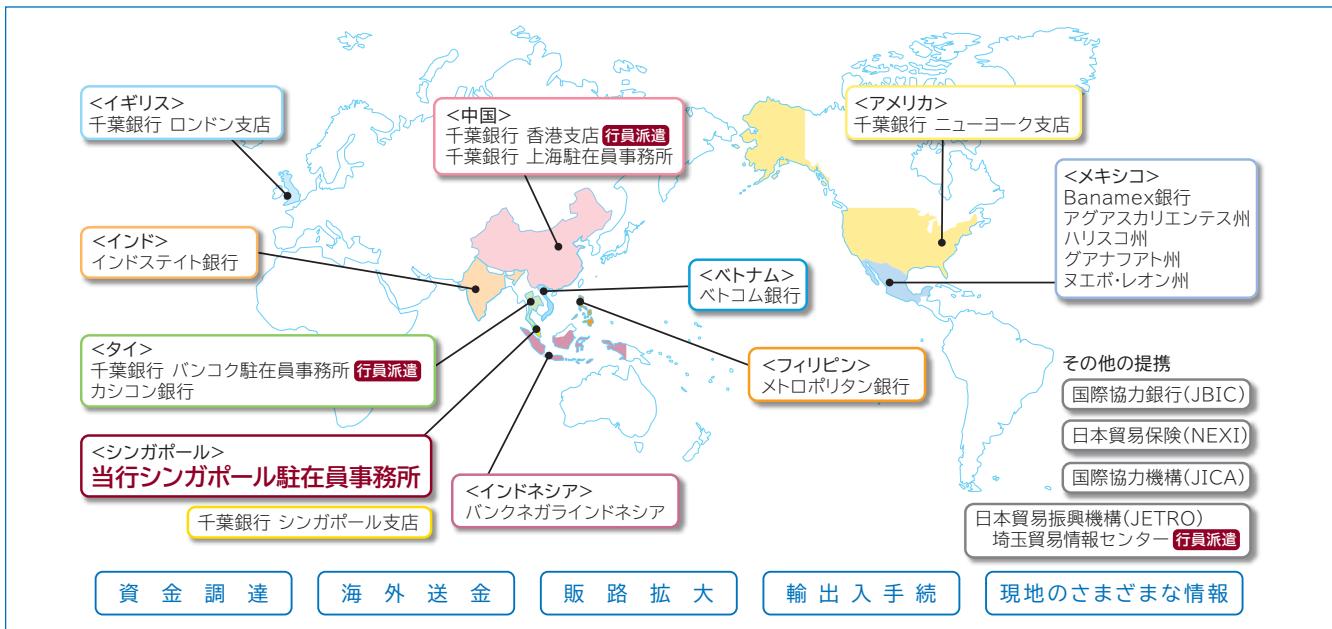
関東財務局および関東経済産業局が認定する「経営革新等支援機関」として、中小企業等の経営課題解決のため、行政機関等と連携した支援を行っています。

また、埼玉県が創設した「価格転嫁センター制度」に参加しています。お取引先企業との接点となる行員1,000名超がセンターとなっており、継続的な情報提供や働きかけを行っていくことで、実効性ある支援に繋げています。

## 海外進出支援

### 連携・協働のネットワーク

お取引先企業の海外進出や事業展開を支援するため、シンガポールに駐在員事務所を設置し、現地ニーズに機動的にお応えしています。また、連携・協働による海外ネットワークを通じ、きめ細かな支援を行っています。



### 公的機関との連携

日本貿易振興機構(JETRO)や国際協力機構(JICA)などと連携し、お取引先企業の海外進出や販路開拓を支援するとともに、海外市場の動向や成功事例を紹介するお客さま向けセミナーを共同開催しています。

## 医療・福祉分野への取組み

2005年より県内でいち早く専門チームを設置し、医療・福祉分野の課題解決に向けた活動を行っています。

医療機関専用融資商品「むさしのメディカルパートナー」を取扱いしているほか、医療機関や社会福祉法人の方々に対し、制度改革への対応やICT導入による業務改革などをテーマとしたセミナーを開催しています。

## デジタルを活用した生産性向上の支援

### ● ICTコンサルティング

お取引先企業の生産性向上等の経営課題に対し、デジタル化やITツール導入を支援するコンサルティングサービスを取扱っています。



### ● デジタルエンジニアリングアカデミー

製造業のデジタル化を伴走支援する連続講座「デジタルエンジニアリングアカデミー」を、東洋大学工業技術研究所と連携し継続開催しています。



IoTを安価に実践できるインテリジェント端末として注目されている「M5Stack」を用いた実習や、ローコードツールやコミュニケーションアプリとの連携等の講義のほか、生産性向上を実現した工場の見学等を行い、デジタルを活用した生産現場の課題解決に繋げています。

### ● デジタルソリューション提供事業者とのビジネスマッチング

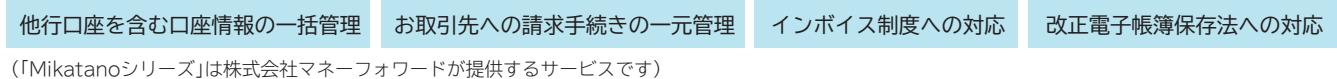
お取引先企業の経営課題に適したデジタルソリューション提供事業者の紹介を行っています。



## 業務効率化に繋がるサービスの提供

### ● クラウドサービス「Mikatanoシリーズ」

インボイス制度や改正電子帳簿保存法等にも対応するクラウドサービス「Mikatanoシリーズ」を提供しています。



### ● キャッシュレス加盟店サービス

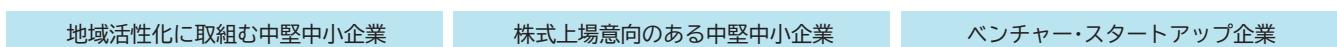
さまざまな種類のキャッシュレス決済に1台で対応できるマルチ決済端末の提供や、POSレジと連携したシステムの構築により業務効率化を支援しています。



## 出資による資金調達支援-むさしの地域創生推進ファンド-

2024年1月、総額5億円のファンド「むさしの地域創生推進ファンド2号投資事業有限責任組合」を設立しました。出資による資金調達を通じて、株式上場を目指す地元企業等の伴走支援を中長期のスパンで行っています。

### ● 投資対象となる主な企業



### ● 支援実績

先進的なサービスを提供し社会課題解決に繋げているベンチャー・スタートアップ企業3社に対して支援を行っています。  
(2024年12月現在)

#### 株式会社レグミン(深谷市)

先端技術を用いた農作業ロボットの開発・販売



#### 株式会社SPACER(東京都中央区)

スマートロッカー「SPACER」の開発・製造・販売



#### 株式会社コーケッキング(東松山市)

フードシェアリングアプリ「TABETE」の開発・運営



## ▶ 変革期における具体的な取組み

### 事業承継支援

後継者問題や事業の承継・多角化などのお悩みに、総合的な支援を行う独自のコンサルティングサービスを用意しているほか、専門機関と連携したサポートを行っています。

#### ● むさしの事業承継サポート

後継者に関するお悩みや株式移転の時期や方法などの重要な課題を解決し、円滑な事業の承継を行うため、1社1社のご意向および状況に合った計画策定を行っています。

後継者不在

事業領域拡大

自社株移転

事業承継対策

#### ● 円滑な事業承継を支援する共同ファンド

2022年に設立した総額20億円の千葉銀行との共同ファンド「千葉・武蔵野アライアンス2号投資事業有限責任組合」では、株式の一時保有を通じ、お取引先企業の皆さまの円滑な事業承継の支援を行っています。

後継者による  
株式買い戻し資金確保

相続税支払原資の確保

M&Aによる第三者への事業売却の  
準備などにかかる時間の猶予

金融機関借入以外の  
株式買収資金の確保

### M&A支援

株式会社日本M&Aセンターや埼玉県事業承継・引継ぎ支援センターなどと連携し、お取引先企業の将来を見据えた最適なご提案を行っています。

#### ● M&Aサポートサービス

M&Aに関する情報収集、相手先企業とのマッチングと利害調整、交渉のサポート、実務面のアドバイスなどのメニューをご用意しています。

#### ● 「M&Aシニアエキスパート」資格保有者を全店に配置

経営者の高齢化や後継者不足などの課題に適切にお応えするため、事業承継・M&A関連の最上位資格である「M&Aシニアエキスパート」の資格保有者を全店に配置しています。

### その他の支援サービス

お取引先企業の経営改善・事業再生に向け、経営改善計画の策定など専門的なサポートを行っています。

経営改善支援・事業再生支援  
－計画策定等－

ファンドを通じた支援  
●千葉・武蔵野パートナーファンド  
●広域復興支援ファンド

外部機関・専門家と連携した支援

## ▶ 「経営者保証に関するガイドライン」への取組み

中小企業のさらなる成長や円滑な事業承継などに積極的に貢献していくため、「経営者保証に関するガイドライン」の導守および活用促進に努めています。あわせて、地域密着型金融の実践における「融資慣行」として、本ガイドラインの浸透・定着を図るため、従業員一人ひとりの理解向上にも取組んでいます。

## ▶ 地域密着型金融の取組実績（データ集） 2024年度上半期

### お客さまとのリレーション強化

お客さまとの顔の見える関係を活かしながら、さまざまな課題の解決に取組んでいます。

法人貸出先数	21,665社
中堅・中小企業向け融資残高	1兆7,288億円

### 企業のライフサイクルに応じた最適なソリューションの提供

1社1社の成長ステージごとに、最適なソリューションをきめ細かく提供しています。

当行が関与した創業件数	658件
販路開拓支援先数	1,526社
中小企業向け人材支援先数	276社
事業承継支援先数	195社
M&A支援先数	346社
デジタル化支援先数	78社

### 事業性評価を活用したコンサルティングの強化

事業性評価を活用するとともに、経営者保証ガイドラインを遵守し、担保や保証に過度に依存しない融資の推進と経営支援の強化に努めています。

事業性評価に基づく融資先数	9,722社
事業性評価に基づくソリューション提案件数	6,930件
経営者保証ガイドライン活用件数割合 (新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の件数割合)	64.8%

### サステナビリティ経営の支援

ファイナンスやコンサルティングを通じ、お取引先企業のサステナビリティ経営を支援しています。

サステナビリティ関連コンサルティング支援件数	32件
サステナビリティ関連融資実行額	1,149億円

## 地域の活性化に関する取組み

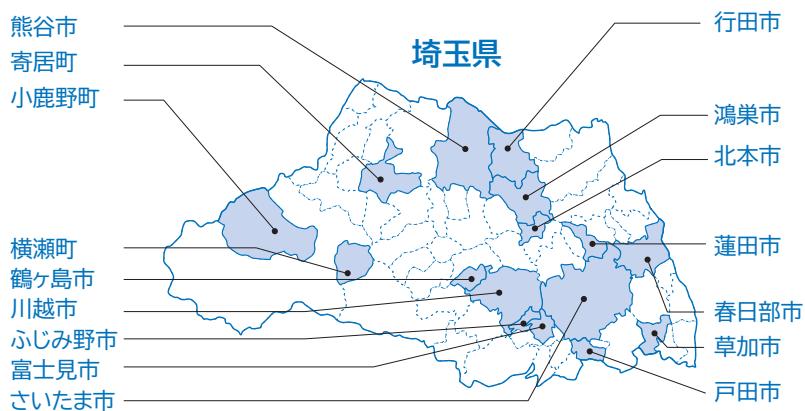
当行では、地域活性化の取組みを最重要課題の一つと認識し、地方公共団体の取組みを支援することはもとより、主体的な担い手の一人として、地域のさまざまな課題解決と新たな価値創造に向け、行政や企業、NPO法人、教育機関等と連携し、引き続き積極的に取組んでまいります。



### ▶ 地方公共団体との連携・協働

地域活性化や住民サービス向上に向け、地方公共団体との連携・協働を進め、さまざまな取組みを展開しています。

包括協定の締結  
埼玉県および16市町  
(2024年12月現在)



### TOPICS 「さいたま市みんなのアプリ」をサポート

- ・2024年6月、さいたま市および地元経済団体・企業と共同で、地域商社「株式会社つなぐ」の設立に参画しました。
- ・地域商社「株式会社つなぐ」では、デジタル地域通貨機能を備えた市民アプリ「さいたま市みんなのアプリ」を通じ、様々な公共サービス・民間サービスと市民をつなぎ、持続可能なさいたまを次の世代につないでいくことを目指しております、当行では本アプリに関する情報発信など普及に向けたサポートを行っています。



### ▶ 地方公共団体との取引推進

地方公共団体や諸団体との取引推進、コンサルティング活動の充実に取組み、県内全ての市町村とお取引しています。

指定金融機関	横瀬町、朝霞地区一部事務組合、朝霞和光資源循環組合、草加八潮消防組合、茨城県五霞町
総括出納取扱金融機関	埼玉県下水道局の公金事務取扱
指定代理金融機関	埼玉県、さいたま市、朝霞市、日高市、幸手市

### ▶ 地域活性コンソーシアム

産学官金の連携による地域活性化を目的に設立した「ふざん地域活性コンソーシアム」では、さまざまな課題解決と新たなビジネス創出に向け、情報交換やノウハウ共有に取組んでいます。

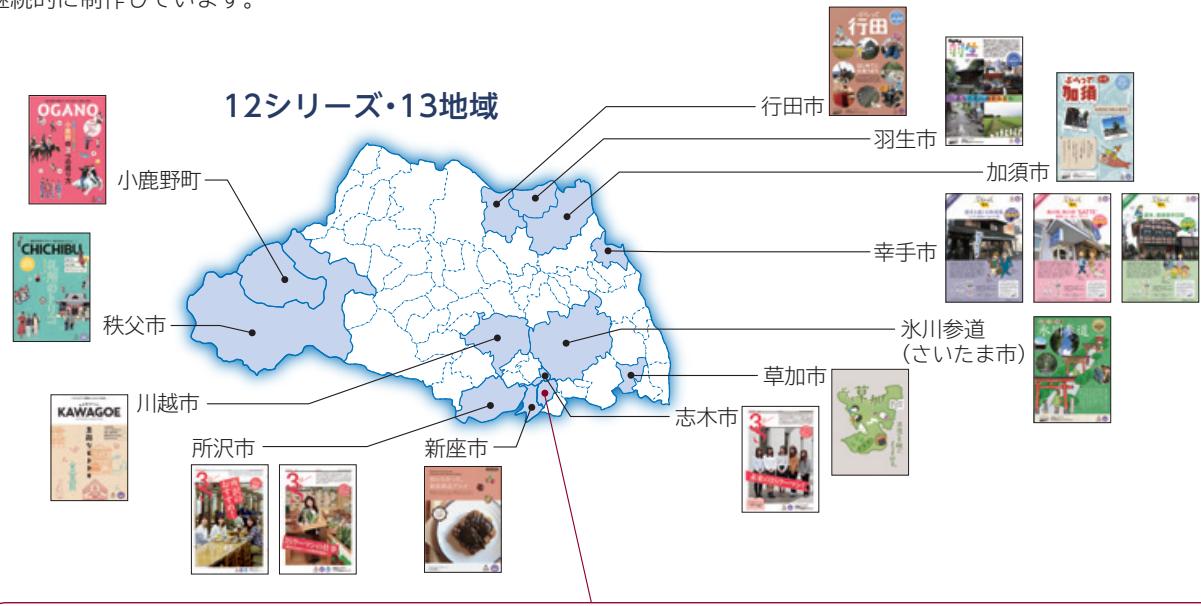
## ▶ シティプロモーションの取組み

交流・関係・定住の各人口の増加という地方公共団体の課題に対応し、地域の持続的発展や活性化に貢献するため、その地域の魅力発信に取組んでいます。

2024年2月には、嵐山町と「シティプロモーションに関する連携協定」を締結し、全国に向けた情報発信のサポート等に取組んでいます。

### 地域情報紙「ぶらって」シリーズ

2007年より立教大学と連携し、観光を通じた地域活性化に向け、学生の視点や思いを込めたまち歩きマップ「ぶらって」シリーズを継続的に制作しています。



#### NEW ぶらって朝霞「朝霞の坂～まさかの視点で読み解くあさか～」

- ・「坂を主軸に朝霞を巡る」をテーマに、生活では不便と感じることもある坂(高低差のある地形)を地域の魅力と捉え、「坂であふれる朝霞」の日常を独自の視点で表現しています。
- ・本マップは、当行各支店のほか朝霞市内の公共施設や鉄道駅などで配布しています。



## 「ふるさと納税」に関する取組み

地域の魅力発信と認知向上に繋がる「ふるさと納税」の活用促進や取組強化に向け、県および市町村職員を対象とした「ふるさと納税研究会」を継続的に実施しているほか、県内の魅力的な返礼品の情報を発信するイベントを開催しています。

また、「企業版ふるさと納税」についても市町村と企業のマッチング等に取組んでいます。



体験型ショーケースイベント  
「埼玉ふるさと納税商店街」

## ▶ 地域課題解決に向けて

### 空き家問題の解決支援

埼玉県内自治体および株式会社クラッソーネと連携し、空き家問題解決のため、市民向けセミナーの開催や「空き家活用ローン」を通じた資金面の支援に取組んでいます。

#### 連携自治体

朝霞市、熊谷市、さいたま市、飯能市  
(50音順)

### NPO法人との連携

活気ある地域社会づくりの重要な担い手であるNPO法人の皆さまを総合的にサポートするため、埼玉県との「共助社会づくりのための協力に関する協定」のもと連携し、課題解決に取組んでいます。

## 自然災害等の危機対応支援

### ● 災害に備えた取組み支援

埼玉県内自治体および株式会社デベロップと連携し、災害時におけるレスキューホテル提供や、市民の皆さまへの情報発信を支援しています。

#### 連携自治体

加須市、川口市、草加市、戸田市、東松山市、吉見町(50音順)



災害時に仮宿泊施設となるレスキューホテル(移動式コンテナ客室)

### ● 本店ビルを帰宅困難者の一時滞在施設として提供

さいたま市との協定に基づき、大規模災害時に帰宅困難者200名の受け入れを行います。市や大宮駅周辺事業者と合同で訓練を実施するなど、有事の際の対応力向上を図っています。

#### ● 食料・飲料・毛布など物資の提供 ● トイレ・水道など設備提供



帰宅困難者を受け入れる大会議室



合同訓練

## TOPICS 防災をテーマとした情報発信

2024年7月、災害時における食と地域の絆をテーマとしたイベント「子ども食堂防災シンポジウム in 埼玉県」の開催に協力し、災害時のコミュニティ拠点となる子ども食堂の重要性と可能性の発信・共有を行いました。



防災備蓄品「アルファ化米」の試食

## ▶ 農業分野への取組み

農業分野に特化した専門チームを中心に、異業種による新規参入支援など地元銀行ならではのソリューションを提供しています。

### 新規就農・異業種からの参入支援

### 資金調達(専用融資商品)

### セミナー等を通じた経営革新支援

### 販路拡大に向けたビジネスマッチング

### 地域産品を活用した新商品開発支援

### 県内農業の課題解決プロジェクト展開

#### ● 「むさしのアグリイノベーションプロジェクト」

2023年6月、農業分野における新たな取組みとして、米づくりに挑戦する「むさしのアグリイノベーションプロジェクト」を開始しました。米づくりや加工品製造等で得られるノウハウや知見をもとに、県内農業を取り巻く地域課題の解決を目指していきます。



地域課題					
・休耕地解消	・スマート農業導入	・担い手増加	・有機農業普及		
・地産地消促進	・特産品づくり	・ブランド化	・企業参入推進		

2024年度は、ドローンを活用した種まきや農薬散布、収穫米を用いた商品の開発に取組むなど、県内農業の新たな可能性に繋がる実践を重ねています。



ドローンの活用 「玄米米粉クッキー」の開発

## ▶ 新たな産業の創造へ 「見沼たんぼ“小麦”6次産業創造プロジェクト」

さいたま市の「見沼たんぼ」での小麦の生産復活と新たな産業の創造に向け、「見沼たんぼ“小麦”6次産業創造プロジェクト」を立ち上げ、事業者の方々や行政、教育機関と連携し、6次産業化の実績を積み上げています。これまでに、収穫した小麦を用いたクラフトビールやベーグル、うどん等の商品を開発しました。



### TOPICS 地産地消の促進に向けて

「見沼たんぼ“小麦”6次産業創造プロジェクト」および「むさしのアグリイノベーションプロジェクト」で収穫した小麦や米は、子ども食堂への寄贈や料理体験教室等にも活用され、子ども支援の輪の拡大や地産地消を学ぶ「食育」の契机づくりに役立てられています。



子ども食堂イベントで収穫米を用いたお弁当を提供

## ▶ 地域商社による高齢者（アクティブシニア）支援



地域商社「むさしの未来パートナーズ」では、これまでの銀行業務の枠組みを超えた非金融の取組みを通じ、地域の皆さまの課題や困りごとを解決し、経済および社会の活性化に貢献することを目指しています。

有料会員制サービス「彩・発見」では、アクティブシニアの方々をはじめとした高齢者の皆さまの日常生活における困りごとの解決や、暮らしを彩る体験の提供を行っています。

### つかう

- ・家事代行や庭の手入れといった日常生活の困りごとを解決します。
- ・食事や趣味など暮らしを彩る体験を提供します。

### もらえる

厳選した県内の逸品を年2回お届けします。



### 参加する

スマートフォン教室やフォトコンテストなど、会員の皆さま限定のイベントを開催しています。

## ▶ ものづくり支援の取組み

業務効率化やカーボンニュートラルへの対応等の経営課題を有する製造業のお客さまに向けて、外部機関との連携により課題解決を支援しています。また、県内製造業の競争力強化を目指す「ぶぎんものづくり経営塾」や、生産現場のデジタル化をテーマとした「デジタルエンジニアリングアカデミー」等を継続的に開催しています。

### 主な連携機関

- ITコーディネータ協会
- 埼玉県DX推進支援ネットワーク
- 埼玉県産業振興公社
- 埼玉県よろず支援拠点
- など

## ▶ 産学官連携を通じた支援

県内に拠点を置く8大学と連携し、お取引先企業の研究開発・経営革新等の経営課題解決を支援しています。

### 連携大学と主な専門分野

- |                             |                           |                              |
|-----------------------------|---------------------------|------------------------------|
| ● 東洋大学(川越市) ▶ 製造・工業分野       | ● 立教大学(新座市) ▶ 観光産業        | ● 西武文理大学(狭山市) ▶ サービス産業       |
| ● 埼玉県立大学(越谷市) ▶ 介護・福祉分野     | ● 埼玉工業大学(深谷市) ▶ 電気分野      | ● 日本工業大学(宮代町) ▶ AIやIoTなど先進工学 |
| ● 埼玉大学(さいたま市) ▶ 文系・理系の広汎な分野 | ● 平成国際大学(加須市) ▶ 健康・スポーツ分野 |                              |

# データファイル

## Contents

### ●連結情報

主要な経営指標	17~20
中間連結貸借対照表	21
中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	22
中間連結株主資本等変動計算書	23
中間連結キャッシュ・フロー計算書	24
注記事項	25~29

### ●単体情報

主要な経営指標	30~33
中間貸借対照表	34
中間損益計算書	35
中間株主資本等変動計算書	36~37
注記事項	38~39
預金に関する指標	40
貸出金に関する指標	41~43
有価証券に関する指標	44~45
為替・外貨建資産残高	45
有価証券時価情報	46~47
金銭の信託関係	47
その他有価証券評価差額金	47
デリバティブ情報	48
電子決済手段	49
暗号資産	49
信託業務	50
●法定開示項目一覧	88

# 主要な経営指標

連結情報

単体情報

## 主要な経営指標等の推移

(単位：百万円)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
連結経常収益	39,296	40,904	40,989	81,901	81,068
うち連結信託報酬	33	15	9	63	25
連結経常利益	7,184	8,005	9,533	15,634	16,261
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	5,272	6,045	7,036	10,865	11,264
連結(中間)包括利益	△22	6,360	2,275	5,607	25,442
連結純資産額	248,798	256,717	274,594	252,917	274,138
連結総資産額	5,306,540	5,328,917	5,416,742	5,327,096	5,404,015
営業活動によるキャッシュ・フロー	△211,329	△43,077	△23,738	△225,615	△29,676
投資活動によるキャッシュ・フロー	△51,361	△125,704	10,634	△77,621	△219,482
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,733	△2,530	△1,819	△3,244	△4,191
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	525,706	312,336	215,375	483,649	230,299
信託財産額	6,788	8,042	8,038	7,756	8,063

(単位：円)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
1株当たり純資産額	7,434.17	7,759.08	8,299.02	7,557.42	8,285.94
1株当たり中間(当期)純利益	157.47	181.86	212.71	324.62	339.68
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	157.41	181.84	212.70	324.49	339.65

(単位：%、倍)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
自己資本比率	4.68	4.81	5.06	4.74	5.07
連結自己資本比率(国内基準)	8.58	9.37	10.31	9.44	10.27
連結自己資本利益率	—	—	—	4.31	4.27
連結株価収益率	—	—	—	6.84	8.68

(単位：人)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
従業員数	2,135	2,087	2,044	2,048	2,002
[外、平均臨時従業員数]	[739]	[737]	[734]	[739]	[734]

- (注) 1. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は当行1行であります。
2. 当行は、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当行株式を(中間)連結財務諸表において自己株式として計上しております。これに伴い、役員報酬BIP信託が保有する当行株式は、1株当たり中間(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式及び、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数の計算において控除する自己株式に含めております。
3. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権 - (中間)期末非支配株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
4. 連結自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出において2022年度中間については標準的手法を、2022年度からは基礎的内部格付手法を採用しております。また、オペレーション・リスク相当額に係る額の算出において、バーゼルⅢ最終化の適用により、2023年度中間以前については粗利益配分手法を、2023年度からは標準的計測手法を採用しております。

## 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権

(単位：百万円)

項目	2023年度中間		2024年度中間	
	金額	割合(%)	金額	割合(%)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	11,915	0.29	11,937	0.29
危険債権	29,601	0.73	29,902	0.72
要管理債権	27,158	0.67	25,406	0.61
三月以上延滞債権	820	0.02	246	0.00
貸出条件緩和債権	26,338	0.65	25,159	0.61
合計	68,675	1.70	67,246	1.63
正常債権	3,949,665	98.29	4,044,337	98.36

(注) 割合は、総与信に占める各債権額の比率を示しております。

## セグメント情報等

### 1.セグメント情報

#### 1.報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議等においてその業績を評価するため、経営成績を定期的に検討する銀行業セグメント、リース業セグメント及び信用保証業セグメントを対象としております。

銀行業セグメントでは、銀行の主要業務である預金業務、貸出業務、為替業務、有価証券投資業務等を行っております。また、リース業セグメントでは、金融関連業務としてのリース業務を、信用保証業セグメントでは、金融関連業務としての信用保証業務を行っております。報告セグメントに含まれていない事業については「その他」に集約し一括して計上しております。

#### 2.報告セグメントごとの経常収益、利益、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は経常利益ベースの数値であり、また、セグメント間の内部経常収益は第三者間取引価格に基づいております。

#### 3.報告セグメントごとの経常収益、利益、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計		
<b>経 常 収 益</b>						
外部顧客に対する経常収益	34,166	5,481	550	40,198	847	41,045
セグメント間の内部経常収益	1,018	112	222	1,353	375	1,728
<b>計</b>	<b>35,185</b>	<b>5,593</b>	<b>772</b>	<b>41,551</b>	<b>1,223</b>	<b>42,774</b>
<b>セ グ メ ン ト 利 益</b>	<b>8,070</b>	<b>54</b>	<b>708</b>	<b>8,833</b>	<b>246</b>	<b>9,080</b>
<b>セ グ メ ン ト 資 産</b>	<b>5,307,618</b>	<b>28,699</b>	<b>14,827</b>	<b>5,351,145</b>	<b>9,746</b>	<b>5,360,891</b>
<b>セ グ メ ン ト 負 債</b>	<b>5,063,213</b>	<b>23,691</b>	<b>6,746</b>	<b>5,093,651</b>	<b>4,290</b>	<b>5,097,941</b>
<b>そ の 他 の 項 目</b>						
減 価 償 却 費	1,833	74	8	1,916	12	1,929
資 金 運 用 収 益	24,302	38	50	24,391	143	24,535
資 金 調 達 費 用	2,209	39	—	2,249	2	2,251
持 分 法 投 資 利 益	—	—	—	—	5	5
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	114	114
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,725	8	—	1,734	0	1,734

(注) 1.一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2.「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、以下の業務を含んでおります。

クレジットカード（JCB・VISA）、金銭の貸付、カード業務に係る信用保証業務、コンピュータシステムの開発・販売・保守管理業務、県内経済・産業の調査研究、経営・税務等の相談、各種セミナーの開催、ベンチャー企業等への投資、経営相談、事務代行業務、地域商社業務、コンサルティング業務、投資運用、投資助言業務

# 主要な経営指標

当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計		
<b>経 常 収 益</b>						
外部顧客に対する経常収益	34,092	5,567	647	40,307	876	41,184
セグメント間の内部経常収益	1,055	107	200	1,363	310	1,673
<b>計</b>	<b>35,148</b>	<b>5,674</b>	<b>847</b>	<b>41,670</b>	<b>1,187</b>	<b>42,857</b>
<b>セ グ メ ン ト 利 益</b>	<b>9,442</b>	<b>139</b>	<b>782</b>	<b>10,364</b>	<b>213</b>	<b>10,578</b>
<b>セ グ メ ン ト 資 産</b>	<b>5,391,803</b>	<b>31,033</b>	<b>14,927</b>	<b>5,437,764</b>	<b>11,004</b>	<b>5,448,769</b>
<b>セ グ メ ン ト 負 債</b>	<b>5,130,313</b>	<b>25,872</b>	<b>6,470</b>	<b>5,162,656</b>	<b>5,285</b>	<b>5,167,941</b>
<b>そ の 他 の 項 目</b>						
減 価 償 却 費	1,922	42	3	1,969	10	1,979
資 金 運 用 収 益	26,174	36	34	26,245	113	26,358
資 金 調 達 費 用	2,858	57	—	2,915	2	2,918
持 分 法 投 資 利 益	—	—	—	—	3	3
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	120	120
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,785	1	—	1,787	—	1,787

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、以下の業務を含んでおります。

クレジットカード（JCB・VISA）、金銭の貸付、カード業務に係る信用保証業務、コンピュータシステムの開発・販売・保守管理業務、県内経済・産業の調査研究、経営・税務等の相談、各種セミナーの開催、ベンチャー企業等への投資、経営相談、事務代行業務、地域商社業務、コンサルティング業務、投資運用、投資助言業務

4. 報告セグメント合計額と中間連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(1) 報告セグメントの経常収益の合計額と中間連結損益計算書の経常収益計上額

(単位：百万円)

経常収益	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報 告 セ グ メ ン ト 計	41,551	41,670
「その他」の区分の経常収益	1,223	1,187
セ グ メ ン ト 間 取 引 消 去	△1,728	△1,673
貸倒引当金戻入益の調整額	△140	△194
中間連結損益計算書の経常収益	40,904	40,989

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

(2) 報告セグメントの利益の合計額と中間連結損益計算書の経常利益計上額

(単位：百万円)

利益	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報 告 セ グ メ ン ト 計	8,833	10,364
「その他」の区分の利益	246	213
セ グ メ ン ト 間 取 引 消 去	△1,074	△1,044
中間連結損益計算書の経常利益	8,005	9,533

(3) 報告セグメントの資産の合計額と中間連結貸借対照表の資産計上額

(単位：百万円)

資産	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報 告 セ グ メ ン ト 計	5,351,145	5,437,764
「その他」の区分の資産	9,746	11,004
セ グ メ ン ト 間 取 引 消 去	△31,974	△32,027
中間連結貸借対照表の資産合計	5,328,917	5,416,742

(4) 報告セグメントの負債の合計額と中間連結貸借対照表の負債計上額

(単位：百万円)

負債	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
報 告 セ グ メ ン ト 計	5,093,651	5,162,656
「その他」の区分の負債	4,290	5,285
セ グ メ ン ト 間 取 引 消 去	△25,740	△25,793
中間連結貸借対照表の負債合計	5,072,200	5,142,147

## (5) 報告セグメントのその他の項目の合計額と当該項目に相当する科目の中間連結財務諸表計上額

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		中間連結財務諸表計上額	
	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
減価償却費	1,916	1,969	12	10	—	—	1,929	1,979
資金運用収益	24,391	26,245	143	113	△1,082	△1,060	23,453	25,297
資金調達費用	2,249	2,915	2	2	△23	△32	2,227	2,885
持分法投資利益	—	—	5	3	—	—	5	3
持分法適用会社への投資額	—	—	114	120	—	—	114	120
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,734	1,787	0	—	—	—	1,734	1,787

## 2.関連情報

前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

## 1.サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	19,607	8,137	5,481	7,678	40,904

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

## 2.地域ごとの情報

## (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3.主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがいたため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

## 1.サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	20,561	7,366	5,567	7,494	40,989

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

## 2.地域ごとの情報

## (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3.主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがいたため、記載を省略しております。

## 3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計		
減損損失	11	—	—	11	—	11

## 4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

## 5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

## 中間連結貸借対照表

当行の前中間連結会計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）及び当中間連結会計期間（自2024年4月1日至2024年9月30日）の中間連結財務諸表（中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書）は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

### 中間連結貸借対照表

## [資産の部]

(单位：百万円)

					前中間連結会計期間 (2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
(	資	産	の	)		
現	金	預	け	金	313,009	216,217
買	入	金	錢	債	851	873
商	品	有	価	証	20	1
金	錢	の	信	託	1,496	1,495
有	価	価	証	券	943,663	1,021,489
貸				金	3,947,027	4,038,715
外				替		
					4,524	5,720
					17,951	19,838
リ	ース	債	権	及	び	
そ	の	其	他	リ	ス	
有	形	固	定	ス	投	
無	形	固	定	資	資	
退	職	固	定	産	産	
継	給	付	係	資	産	
支	延	付	に	資	産	
貸	払	税	係	見	返	
		承	る		金	
					△18,826	△15,545
資	倒	引	当	計	5,328,917	5,416,742
産	の	部	合			

### 「負債の部及び純資産の部」

(单位：百万円)

前中間連結会計期間 (2023年9月30日)			当中間連結会計期間 (2024年9月30日)		
( 負 債 の 部 )					
預 譲 渡 性 預 金		4,934,433			5,012,963
コ ー ル マ ネ ー 及 び 売 渡 手 形		14,950			14,650
債 券 貸 借 取 引 受 入 担 保 金		41,284			41,677
借 借 外 信 託 の 賞 役 と そ れ に 付 け ら れ る 金 額		16,052			6,856
外 借 用 金		10,893			13,392
外 借 用 金	国 為	193			300
外 借 用 金	勘 定	8,042			8,038
外 借 用 金	其 他 負 債	32,172			26,975
外 借 用 金	引 当 金	1,132			1,200
外 借 用 金	賞 与 引 当 金	12			13
外 借 用 金	職 給 付 与 に 係 る 負 債	2,727			2,397
外 借 用 金	職 退 役 利 息 返 睡 眠 休 息	28			19
外 借 用 金	職 退 役 利 息 返 睡 眠 休 息	33			27
外 借 用 金	職 退 役 利 息 返 睡 眠 休 息	142			98
外 借 用 金	職 退 役 利 息 返 睡 眠 休 息	119			120
外 借 用 金	職 退 役 利 息 返 睡 眠 休 息	188			235
外 借 用 金	株 式 繰 延 税 金	68			81
外 借 用 金	株 式 繰 延 税 金	398			3,342
外 借 用 金	再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金	4,227			4,227
外 借 用 金	支 払 承 諾	5,097			5,529
負 債 の 部 合 計		5,072,200			5,142,147
( 資 本 の 部 )					
資 本 余 金		45,743			45,743
資 本 余 金	本 剰 余 金	38,350			38,350
利 益 余 金	本 剰 余 金	159,640			168,415
自 己 株 式		△789			△790
株 主 資 本 合 計		242,945			251,720
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		4,086			9,048
緑 延 へ ツ ジ 損 益		2,472			2,406
土 地 再 評 価 差 額 金		8,286			8,286
退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額		△1,117			3,081
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		13,727			22,822
新 株 予 約 権		8			8
非 支 配 株 主 持 分		35			42
純 資 本 の 部 合 計		256,717			274,594
負 債 及 び 純 資 本 の 部 合 計		5,328,917			5,416,742

# 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>経 常 収 益</b>	40,904	40,989
資 金 運 用 収 益	23,453	25,297
( う ち 貸 出 金 利 息 )	(18,423)	(19,041)
( う ち 有 価 証 券 利 息 配 当 金 )	(4,816)	(5,996)
信 託 報 酬	15	9
役 務 取 引 等 収 益	7,305	7,883
そ の 他 業 務 収 益	3,128	849
そ の 他 経 常 収 益	7,002	6,949
<b>経 常 費 用</b>	32,899	31,456
資 金 調 達 費 用	2,227	2,885
( う ち 預 金 利 息 )	(287)	(922)
役 務 取 引 等 費 用	1,707	1,677
そ の 他 業 務 費 用	4,086	3,320
営 業 経 費	18,310	17,852
そ の 他 経 常 費 用	6,567	5,720
<b>経 常 利 益</b>	8,005	9,533
<b>特 別 損 失</b>	18	13
固 定 資 産 処 分 損	18	1
減 損 損 失	—	11
<b>税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益</b>	7,987	9,520
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	2,159	2,363
法 人 税 等 調 整 額	△219	116
法 人 税 等 合 計	1,939	2,479
<b>中 間 純 利 益</b>	6,047	7,040
非支配株主に帰属する中間純利益	2	4
親会社株主に帰属する中間純利益	6,045	7,036

## 中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>中 間 純 利 益</b>	6,047	7,040
<b>そ の 他 の 包 括 利 益</b>	312	△4,764
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△2,413	△5,012
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	2,625	640
退 職 給 付 に 係 る 調 整 額	101	△393
<b>中 間 包 括 利 益</b>	6,360	2,275
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	6,358	2,271
非支配株主に係る中間包括利益	2	4

連結情報

単体情報

# 中間連結株主資本等変動計算書

## 中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日） (単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	45,743	38,353	156,284	△951	239,430
当 中 間 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△1,676		△1,676
親会社株主に帰属する中間純利益			6,045		6,045
自 己 株 式 の 取 得				△911	△911
自 己 株 式 の 処 分		2		55	58
自 己 株 式 の 消 却		△1,018		1,018	—
利益剰余金から資本剰余金への振替		1,012	△1,012		—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当 中 間 期 変 動 額 合 計	—	△2	3,356	161	3,515
当 中 間 期 末 残 高	45,743	38,350	159,640	△789	242,945

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当 期 首 残 高	6,500	△152	8,286	△1,219	13,415	38	33	252,917
当 中 間 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当								△1,676
親会社株主に帰属する中間純利益								6,045
自 己 株 式 の 取 得								△911
自 己 株 式 の 処 分								58
自 己 株 式 の 消 却								—
利益剰余金から資本剰余金への振替								—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△2,413	2,625	—	101	312	△30	2	284
当 中 間 期 変 動 額 合 計	△2,413	2,625	—	101	312	△30	2	3,799
当 中 間 期 末 残 高	4,086	2,472	8,286	△1,117	13,727	8	35	256,717

当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日） (単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	45,743	38,350	163,202	△793	246,503
当 中 間 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△1,822		△1,822
親会社株主に帰属する中間純利益			7,036		7,036
自 己 株 式 の 取 得				△3	△3
自 己 株 式 の 処 分		0		6	7
自 己 株 式 の 消 却		—		—	—
利益剰余金から資本剰余金への振替		—	—		—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当 中 間 期 変 動 額 合 計	—	0	5,213	3	5,217
当 中 間 期 末 残 高	45,743	38,350	168,415	△790	251,720

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当 期 首 残 高	14,060	1,765	8,286	3,474	27,587	8	38	274,138
当 中 間 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当								△1,822
親会社株主に帰属する中間純利益								7,036
自 己 株 式 の 取 得								△3
自 己 株 式 の 処 分								7
自 己 株 式 の 消 却								—
利益剰余金から資本剰余金への振替								—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△5,012	640	—	△393	△4,764	—	4	△4,760
当 中 間 期 変 動 額 合 計	△5,012	640	—	△393	△4,764	—	4	456
当 中 間 期 末 残 高	9,048	2,406	8,286	3,081	22,822	8	42	274,594

# 中間連結キャッシュ・フロー計算書

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	7,987	9,520
減価償却費	1,929	1,979
減損損失	—	11
持分法による投資損益(△は益)	△5	△3
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△929	△1,540
賞与引当金の増減額(△は減少)	3	50
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△24	△19
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△255	△260
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△83	△92
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△7	△14
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	3	△6
ポイント引当金の増減額(△は減少)	9	3
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	△30	47
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	△14	6
資金運用収益	△23,453	△25,297
資金調達費用	2,227	2,885
有価証券関係損益(△)	408	362
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	1	4
為替差損益(△は益)	△7,459	4,595
固定資産処分損益(△は益)	18	1
商品有価証券の純増(△)減	△12	5
貸出金の純増(△)減	△37,174	△43,709
預金の純増減(△)	59,208	39,480
譲渡性預金の純増減(△)	△1,120	△24,850
借用金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	△57,383	1,012
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	72	△224
コールローン等の純増(△)減	△11	△114
コールマネー等の純増減(△)	△16,267	2,159
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	5,414	△4,099
外国為替(資産)の純増(△)減	2,733	△1,060
外国為替(負債)の純増減(△)	△197	△48
信託勘定借の純増減(△)	285	△24
資金運用による収入	22,621	24,993
資金調達による支出	△2,333	△2,512
その他の	2,565	△4,668
小計	△41,271	△21,426
法人税等の還付額	112	37
法人税等の支払額	△1,918	△2,349
〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉	△43,077	△23,738
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△372,155	△161,609
有価証券の売却による収入	144,387	100,960
有価証券の償還による収入	103,864	73,077
金銭の信託の増加による支出	△10	△7
有形固定資産の取得による支出	△897	△401
無形固定資産の取得による支出	△837	△1,385
資産除去債務の履行による支出	△54	—
〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉	△125,704	10,634
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△1,676	△1,822
自己株式の取得による支出	△911	△3
自己株式の売却による収入	58	7
〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉	△2,530	△1,819
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△171,312	△14,923
現金及び現金同等物の期首残高	483,649	230,299
現金及び現金同等物の中間期末残高	312,336	215,375

連結情報

単体情報

# 注記事項

## 注記事項

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社 8社

会社名 ぶざん総合リース株式会社  
ぶざん保証株式会社  
むさしのカード株式会社  
ぶざんシステムサービス株式会社  
株式会社ぶざん地域経済研究所  
株式会社ぶざんキャピタル  
むさしのハーモニー株式会社  
むさしの未来パートナーズ株式会社

#### (2) 非連結子会社 2社

会社名 むさしの地域創生推進ファンド投資事業有限責任組合  
むさしの地域創生推進ファンド2号投資事業有限責任組合

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の非連結子会社

該当事項はありません。

#### (2) 持分法適用の関連会社 1社

会社名 ちばざんアセットマネジメント株式会社

#### (3) 持分法非適用の非連結子会社 2社

会社名 むさしの地域創生推進ファンド投資事業有限責任組合  
むさしの地域創生推進ファンド2号投資事業有限責任組合

#### (4) 持分法非適用の関連会社 3社

会社名 千葉・武蔵野アライアンス株式会社  
千葉・武蔵野アライアンス1号投資事業有限責任組合  
千葉・武蔵野アライアンス2号投資事業有限責任組合

持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

9月末日 8社

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

②有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

#### (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

#### (4) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当行の有形固定資産は、定額法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 15年～50年

その他 4年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

##### ②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

##### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

#### (5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額（以下「非保全額」という。）のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。なお、破綻懸念先のうち非保全額が一定額以上の大口債務者に対する債権については、債務者の状況を総合的に判断してキャッシュ・フローによる回収可能額を見積もり、非保全額から当該キャッシュ・フローを控除した残額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー控除法）により計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間ににおける平均値と景気循環を勘案した長期平均値を比較のうえ高い方の率に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。その金額は4,048百万円であります。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

#### (6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

#### (7) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

#### (8) 役員退職慰労引当金の計上基準

連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当中間連結会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

#### (9) 利息返還損失引当金の計上基準

連結子会社の利息返還損失引当金は、利息制限法の上限金利を超過する貸付金利息の返還請求に備えるため、過去の返還実績等を勘案した見積返還額を計上しております。

#### (10) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

#### (11) ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、連結子会社が行っているクレジットカード業務に係る交換可能ポイントの将来の利用による負担に備えるため、当中間連結会計期間末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

#### (12) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会等に対する責任共有制度負担金及び保証協会負担金等の支払いに備えるため、過去の実績に基づき、将来の支払見込額を計上しております。

#### (13) 株式報酬引当金の計上基準

株式報酬引当金は、役員に対する将来の当行株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

#### (14) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定率法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

- なお、退職給付に係る負債の当中間連結会計期間末残高には、執行役員分34百円が含まれております。
- また、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (15) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建資産・負債は、中間連結決算日のみ替相場による円換算額を付しております。
- (16) 重要な収益及び費用の計上基準  
ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上基準  
リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
- (17) 重要なヘッジ会計の方法  
金利リスク・ヘッジ  
当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日)。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間毎にグループ化のうえ特定し評価しております。
- (18) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。
- (19) 消費税等の会計処理  
当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)の会計処理は、税抜方式によっております。  
ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間連結会計期間の費用に計上しております。
- (20) 投資信託の解約に伴う損益  
投資信託の解約に伴う損益については、個別銘柄毎に、投資信託解約益は「資金運用収益」の「有価証券利息配当金」として、投資信託解約損は「その他業務費用」として計上しております。

#### (会計方針の変更)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。これに伴う中間連結財務諸表に与える影響はありません。

#### (追加情報)

##### (役員向け株式報酬制度)

当行は、当行取締役(社外取締役及び国内非居住者である者を除く。以下同じ。)を対象とした、役員報酬BIP信託を導入しております。

##### 1. 取引の概要

役員報酬BIP信託は、中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を一層高めることを目的とした役員インセンティブ・プランであり、役位や業績目標の達成度等に応じたポイントが当行の取締役に付与され、そのポイントに応じた当行株式及び当行株式の換価処分金相当額の金額が取締役の退任時に交付及び給付される株式報酬型の役員報酬であります。

##### 2. 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じております。

##### 3. 信託が所有する自社の株式に関する事項

信託が所有する当行株式は株主資本に自己株式として計上しております。信託における自己株式の帳簿価額、期末株式数及び期中平均株式数は以下のとおりであります。

(1) 信託における帳簿価額	119百万円
(2) 期末株式数	60,748株
(3) 期中平均株式数	62,547株

なお、期末株式数及び期中平均株式数は1株当たり情報の算定上、控除する自己株式に含めております。

#### (中間連結貸借対照表関係)

##### 1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

株式	125百万円
出資金	989百万円

##### 2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

9,909百万円

##### 3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、中間連結貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中

の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸貸借契約によるものに限る。)であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	11,937百万円
危険債権額	29,902百万円
三月以上延滞債権額	246百万円
貸出条件緩和債権額	25,159百万円
合計額	67,246百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

6,707百万円

5. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(移管指針第1号 2024年7月1日)に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、中間連結貸借対照表上額は次のとおりであります。

1,141百万円

6. 担保に供している資産は次のとおりであります。

##### 担保に供している資産

有価証券	81,247百万円
貸出金	17,602百万円
計	98,849百万円

##### 担保資産に対応する債務

預金	3,769百万円
債券貸借取引受入担保金	6,856百万円
上記のほか、為替決済、公金事務取扱等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。	
預け金	7百万円
有価証券	2,071百万円
その他資産	148百万円

また、その他資産には、保証金、為替決済の取引の担保として中央清算機関差入証拠金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	2,024百万円
中央清算機関差入証拠金	10,000百万円

7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 425,310百万円

うち契約残存期間が1年以内のもの 390,048百万円

このほかに総合口座の当座貸越契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 217,701百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができます旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産、有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

# 注記事項

8. 土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1998年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法に基づいて、（奥行価格補正、側方路線影響加算、不整形地補正による補正等）合理的な調整を行つて算出。

## 9. 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額 31,721百万円

## 10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額

29,577百万円

## 11. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

金銭信託 8,038百万円

### （中間連結損益計算書関係）

#### 1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金戻入益	62百万円
償却債権取立益	208百万円
株式等売却益	644百万円
リース料収入	3,617百万円
延払収入	1,551百万円

#### 2. 営業経費には、次のものを含んでおります。

給料・手当	6,943百万円
退職給付費用	△424百万円
減価償却費	1,979百万円
外注委託料	2,565百万円

#### 3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金償却	0百万円
株式等売却損	227百万円
株式等償却	0百万円
リース原価	3,281百万円
延払原価	1,492百万円

#### 4. 減損損失

中間連結会計期間において、当行は埼玉県内の営業用店舗について減損損失を計上しております。

営業用店舗（賃借店舗）は、営業キャッシュ・フローの低下により帳簿価額を回収可能額まで減額し11百万円（建物11百万円）を減損損失として特別損失に計上しております。

営業用店舗については継続的な収支の把握を行っている単位である各営業店を、遊休資産については各資産をグルーピングの最小単位としており、連結子会社は各社を一つの単位としてグルーピングを行っております。また、本部、事務センター、厚生施設等については独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額であります。正味売却価額は、路線価を基準に奥行価格補正等の合理的な調整を加味した価額、又は固定資産税評価額からそれぞれ処分費用見込額を控除して算出しております。

### （中間連結株主資本等変動計算書関係）

#### 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項 (単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	33,405	—	—	33,405	
合計	33,405	—	—	33,405	
自己株式					
普通株式	326	1	3	324	(注)1.2.3
合計	326	1	3	324	

(注) 1. 当中間連結会計期間末の自己株式には、役員報酬BIP信託に係る信託口が保有する当行株式60千株が含まれております。

2. 自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3. 自己株式の株式数の減少は、単元未満株式の買増請求による減少0千株及び役員報酬BIP信託に係る信託口から対象者への給付による減少3千株であります。

## 2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				摘要
			当連結会計年度期首	当中間連結会計期間増加	当中間連結会計期間減少	当中間連結会計期間末	
当行	ストップ・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	8
	合計	—	—	—	—	—	8

## 3. 配当に関する事項

### (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日定時株主総会	普通株式	1,822	55	2024年3月31日	2024年6月27日

(注) 2024年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託に係る信託口が保有する当行株式に対する配当金3百万円が含まれております。

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年10月31日取締役会	普通株式	1,988	利益剰余金	60	2024年9月30日	2024年12月10日

(注) 2024年10月31日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託に係る信託口が保有する当行株式に対する配当金3百万円が含まれております。

### (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	216,217百万円
日本銀行以外の預け金	△841百万円
現金及び現金同等物	215,375百万円

### (リース取引関係)

#### (借手側)

##### ファイナンス・リース取引

##### 所有権移転外ファイナンス・リース取引

#### (1) リース資産の内容

- ①有形固定資産 器具及び備品であります。
- ②無形固定資産 ソフトウエアであります。

#### (2) リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

#### (貸手側)

##### 1. ファイナンス・リース取引

###### (1) リース投資資産の内訳

リース料債権部分	21,601百万円
見積残存価額部分	37百万円
受取利息相当額	△1,803百万円
リース投資資産	19,835百万円

(注) 転リース取引に係る金額を除いて記載しております。

###### (2) リース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結貸借対照表日後の回収予定額

1年以内	6,276百万円
1年超2年以内	4,979百万円
2年超3年以内	3,903百万円
3年超4年以内	3,010百万円
4年超5年以内	1,998百万円
5年超	1,432百万円
合計	21,601百万円

(注) 転リース取引に係る金額を除いて記載しております。

###### 2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	27百万円
1年超	41百万円
合計	68百万円

###### 3. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で中間連結貸借対照表に計上している額

リース投資資産	一百万円
リース債務	0百万円

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（（注）参照）。

また、現金預け金、外国為替（資産・負債）、コールマネー及び売渡手形、債券貸借取引受入担保金は、短期間に決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

また、中間連結貸借対照表計上額の重要性が乏しい科目については、記載を省略しております。

(単位：百万円)

	中間連結 貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 有価証券			
満期保有目的の債券	34,571	34,304	△267
その他有価証券	982,332	982,332	—
(2) 貸出金	4,038,715		
貸倒引当金（*1）	△12,760		
	4,025,955	4,009,062	△16,892
資産計	5,042,859	5,025,700	△17,159
(1) 預金	5,012,963	5,012,166	△797
(2) 借用金	13,392	13,392	—
負債計	5,026,355	5,025,558	△797
デリバティブ取引（*2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	4,812	4,812	—
ヘッジ会計が適用されているもの（*3）	3,460	3,460	—
デリバティブ取引計	8,273	8,273	—

（\*1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（\*2）その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（\*3）ヘッジ対象である有価証券及び貸出金の金利上昇リスクに備えるためにヘッジ手段として指定した金利スワップであり、主に継延ヘッジを適用しております。

（注）市場価格のない株式等及び組合出資金の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

非上場株式（*1）（*2）	1,786
組合出資金（*3）	2,798

（\*1）非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

（\*2）当間連結会計期間において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

（\*3）組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

## 2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合は、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## (1) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
その他有価証券				
国債・地方債等	294,386	237,103	—	531,490
社債	—	162,106	—	162,106
株式	57,058	—	—	57,058
その他	22,797	134,144	74,735	231,677
資産計	374,243	533,354	74,735	982,332
デリバティブ取引				
金利関連	—	3,875	—	3,875
通貨関連	—	4,397	—	4,397
デリバティブ取引計	—	8,273	—	8,273

## (2) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	1,462	3,415	—	4,878
社債	—	—	29,426	29,426
その他	—	—	—	—
貸出金	—	—	4,009,062	4,009,062
資産計	1,462	3,415	4,038,489	4,043,367
預金	—	5,012,166	—	5,012,166
借用金	—	13,392	—	13,392
負債計	—	5,025,558	—	5,025,558

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

## 資産

## 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価額又は取引金融機関から提示された価格によっております。

自行保証付私募債は、契約期間が3ヵ月以内のものは、短期間で市場金利を反映するため、対象先の信用状態が実行後大きく異なる限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額を時価としております。一方、契約期間が3ヵ月を超えるものは、自行保証付私募債の内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計を同様の新規取扱いを行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する自行保証付私募債については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

これらの取引につきましては、活発な市場における無調整の相場価格を利用できる場合にはレベル1の時価に分類しており、主に上場株式や国債が含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しており、主に地方債、社債が含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。

## 貸出金

貸出金のうち、金利更改期間が3ヵ月以内の変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なる限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。金利更改期間が3ヵ月を超える変動金利によるもの及び固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、固定約定期間が短期間（3ヵ月以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等について見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

# 注記事項

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

これらの取引につきましては、レベル3の時価に分類しております。

## 負債

### 預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(3ヶ月以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

これらの取引につきましては、レベル2の時価に分類しております。

### 借用金

借用金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借用金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

これらの取引につきましては、レベル2の時価に分類しております。

### デリバティブ取引

デリバティブ取引については、大部分は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて現在価値技法やオプション価格モデル等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であります。

これらの取引につきましては、観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でないためレベル2の時価に分類しており、金利スワップ取引、為替予約取引等が含まれます。

### (注2) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

#### (1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

当行では第三者から入手した価格を調整せず利用していることから注記を記載しておりません。

#### (2) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

期首 残高	当期の損益 又はその他の 包括利益		購入、売 却、発行 及び決済 の純額	レベル3 の時価へ の振替	レベル3 の時価か らの振替	期末 残高	当期の損益に 計上した額のうち 中間連結貸借対 照表日において 保有する金融資 産及び金融負債 の評価損益 (*)
	損益に 計上 (*)1	その他の 包括利益 に計上 (*)2					
有価証券							
その他有価証券							
その他	72,889	—	△154	2,000	—	—	74,735

(\*)1 中間連結損益計算書の「資金運用収益」に含まれております。

(\*)2 中間連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

#### (3) 時価の評価プロセスの説明

当行グループは市場部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って時価を算定しております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

## (ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	864百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	一百万円
時の経過による調整額	7百万円
資産除去債務の履行による減少額	一百万円
期末残高	871百万円

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

区分	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
役務取引等収益	7,883
うち預金・貸出業務	3,927
うち為替業務	869
うち信託関連業務	134
うち証券関連業務	1,060
うち代理業務	1,250
うち保護預り・貸金庫業務	242
うち保証業務	399
信託報酬	9

(注) 上記収益については、主に銀行業から発生しております。

## (1株当たり情報)

### 1. 1株当たり純資産額

1株当たり純資産額 8,299円02銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額 274,594百万円

純資産の部の合計額から  
控除する金額 50百万円

(うち新株予約権) 8百万円

(うち非支配株主持分) 42百万円

普通株式に係る中間期末の  
純資産額 274,543百万円

1株当たり純資産額の算定に  
用いられた中間期末の普通株  
式の数 33,081千株

(注) 当行は、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当行株式を中間連結財務諸表において自己株式として計上しております。株主資本において自己株式として計上されている当該信託が保有する当行株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。

1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は60千株であります。

### 2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び算定上の基礎

(1) 1株当たり中間純利益 212.71円

(算定上の基礎)

親会社株主に帰属する中間  
純利益 7,036百万円

普通株主に帰属しない金額 一百万円

普通株式に係る親会社株主  
に帰属する中間純利益 7,036百万円

普通株式の期中平均株式数 33,080千株

(2) 潜在株式調整後1株当  
たり中間純利益 212.70円

(算定上の基礎)

親会社株主に帰属する中間  
純利益調整額 一百万円

普通株式増加数 2千株

うち新株予約権 2千株

希薄化効果を有しないた  
め、潜在株式調整後1株当  
たり中間純利益の算定に  
含めなかつた潜在株式の  
概要

(注) 当行は、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当行株式を中間連結財務諸表において自己株式として計上しております。株主資本において自己株式として計上されている当該信託が保有する当行株式は、1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算  
定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は62千株であります。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

# 主要な経営指標

## 主要な経営指標等の推移

(単位：百万円)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
経常収益	33,381	35,185	35,148	69,584	68,535
うち信託報酬	33	15	9	63	25
経常利益	6,973	8,057	9,428	14,388	15,165
中間(当期)純利益	5,410	6,328	7,193	10,351	10,747
資本金	45,743	45,743	45,743	45,743	45,743
純資産額	237,352	245,558	258,445	241,706	257,354
総資産額	5,288,048	5,308,790	5,387,580	5,309,195	5,375,385
預金残高	4,831,942	4,938,457	5,017,368	4,880,863	4,978,220
貸出金残高	3,883,974	3,958,527	4,049,981	3,921,626	4,006,739
有価証券残高	783,202	943,062	1,020,666	809,893	1,044,788
信託財産額	6,788	8,042	8,038	7,756	8,063
信託勘定貸出金残高	—	—	—	—	—
信託勘定有価証券残高	—	—	—	—	—
信託勘定電子決済手段高及び履行保証電子決済手段高	—	—	—	—	—
信託勘定暗号資産残高及び履行保証暗号資産残高	—	—	—	—	—
信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高	—	—	—	—	—

(単位：円)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
1株当たり純資産額	7,092.99	7,422.83	7,812.16	7,223.32	7,779.72
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	45	50	60	95	105
1株当たり中間(当期)純利益	161.60	190.36	217.47	309.26	324.11
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	161.54	190.35	217.46	309.14	324.09

(単位：千株、倍、人)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
発行済株式総数	33,805	33,405	33,405	33,805	33,405
株価収益率	—	—	—	7.18	9.10
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	2,001 [718]	1,949 [716]	1,911 [705]	1,920 [719]	1,870 [711]

(単位：%)

	2022年度中間	2023年度中間	2024年度中間	2022年度	2023年度
自己資本比率	4.48	4.62	4.79	4.55	4.78
単体自己資本比率(国内基準)	8.22	8.97	9.90	9.01	9.83
自己資本利益率	—	—	—	4.30	4.30
配当性向	—	—	—	30.71	32.39

(注) 1. 当行は、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当行株式を(中間)財務諸表において自己株式として計上しております。これに伴い、役員報酬BIP信託が保有する当行株式は、1株当たり中間(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式及び、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。

3. 単体自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出において2022年度中間については標準的手法を、2022年度からは基礎的内部格付手法を採用しております。また、オペレーション・リスク相当額に係る額の算出において、バーゼルⅢ最終化の適用により、2023年度中間以前については粗利益配分手法を、2023年度からは標準的計測手法を採用しております。

## 部門別粗利益の状況

(単位：百万円)

	2023年度中間		2024年度中間			
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
資金運用収支	22,093	20,499	1,593	23,316	20,738	2,577
資金運用収益	(4)	20,767	3,539	(21)	21,856	4,338
資金調達費用	(4)	268	1,945	(21)	1,118	1,760
信託報酬	15	15	—	9	9	—
役務取引等収支	5,075	5,058	17	5,709	5,690	18
役務取引等収益	6,943	6,909	34	7,537	7,499	38
役務取引等費用	1,867	1,850	16	1,828	1,808	19
その他業務収支	△1,523	93	△1,616	△3,045	△709	△2,336
その他業務収益	2,563	2,562	1	274	215	59
その他業務費用	4,086	2,468	1,617	3,320	924	2,395
業務粗利益	25,661	25,666	△5	25,989	25,729	260
業務粗利益率(%)	1.04	1.05	△0.00	1.02	1.02	0.22

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2. 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(2023年度中間0百万円、2024年度中間0百万円)を控除しております。

3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国際業務部門と国内業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4. 業務粗利益 = (資金運用収支 + 金銭の信託運用見合費用) + 役務取引等収支 + その他業務収支

5. 業務粗利益率 =  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

6. 特定取引はありません。

連結情報

単体情報

# 主要な経営指標

## 業務純益

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
業務純益	8,728	—	—	8,600	—	—
実質業務純益	8,259	—	—	8,393	—	—
コア業務純益	8,864	—	—	9,172	—	—
コア業務純益(投資信託解約損益を除く。)	8,150	—	—	8,495	—	—

## 資金運用・調達勘定平均残高等

### (1) 2023年度中間

(単位：百万円、%)

	合計			国内業務部門			国際業務部門		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	4,907,935	24,302	0.98	(123,449) 4,834,000	(4) 20,767	0.85	197,384	3,539	3.57
貸出金	3,899,307	18,415	0.94	3,844,489	16,573	0.85	54,817	1,842	6.70
商品有価証券	42	0	0.15	42	0	0.15	—	—	—
有価証券	893,556	5,676	1.26	757,097	3,986	1.05	136,458	1,690	2.47
コールローン	106,830	△3	△0.00	106,830	△3	△0.00	—	—	—
預け金	9	0	0.00	9	0	0.00	—	—	—
資金調達勘定	5,068,145	2,209	0.08	4,994,389	268	0.01	(123,449) 197,205	(4) 1,945	1.96
預金	4,897,087	287	0.01	4,883,989	65	0.00	13,098	221	3.38
譲渡性預金	26,046	1	0.01	26,046	1	0.01	—	—	—
コールマネー	60,991	1,314	4.29	14,699	△3	△0.04	46,291	1,318	5.67
債券貸借取引受入担保金	47,644	403	1.68	33,509	1	0.00	14,135	401	5.66
借用金	28,680	0	0.00	28,680	0	0.00	—	—	—

### (2) 2024年度中間

(単位：百万円、%)

	合計			国内業務部門			国際業務部門		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	5,072,926	26,174	1.02	(164,012) 5,006,837	(21) 21,856	0.87	230,101	4,338	3.76
貸出金	3,976,438	19,040	0.95	3,913,349	17,001	0.86	63,088	2,038	6.44
商品有価証券	4	—	—	4	—	—	—	—	—
有価証券	1,051,619	6,877	1.30	893,060	4,589	1.02	158,558	2,287	2.87
コールローン	35,300	22	0.12	35,300	22	0.12	—	—	—
預け金	9	0	0.00	9	0	0.00	—	—	—
資金調達勘定	5,169,778	2,857	0.11	5,104,147	1,118	0.04	(164,012) 229,643	(21) 1,760	1.52
預金	4,961,266	922	0.03	4,949,016	687	0.02	12,250	235	3.82
譲渡性預金	42,877	5	0.02	42,877	5	0.02	—	—	—
コールマネー	67,969	1,293	3.79	22,743	9	0.08	45,225	1,283	5.66
債券貸借取引受入担保金	86,436	240	0.55	78,531	19	0.04	7,905	221	5.58
借用金	8	0	0.26	8	0	0.26	—	—	—

(注) 1. 区分欄には、資金運用勘定、資金調達勘定のうち、主な科目を表示しております。

2. 国内業務部門では、資金運用勘定から無利息預け金の平均残高（2023年度中間302,023百万円、2024年度中間243,701百万円）を、資金調達勘定から金銭の信託運用見合額の平均残高（2023年度中間1,498百万円、2024年度中間1,498百万円）及び利息（2023年度中間0百万円、2024年度中間0百万円）を、それぞれ控除しております。
3. 国際業務部門では、資金運用勘定から無利息預け金の平均残高（2023年度中間155百万円、2024年度中間154百万円）を控除しております。
4. 全店分では、資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2023年度中間302,178百万円、2024年度中間243,856百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（2023年度中間1,498百万円、2024年度中間1,498百万円）及び利息（2023年度中間0百万円、2024年度中間0百万円）を、それぞれ控除しております。

## 資金利鞘

(単位 : %)

資金運用利回り	資金調達原価	総資金利鞘	2023年度中間		2024年度中間	
			国内業務部門	0.85	0.87	
			国際業務部門	3.57	3.76	
合計			0.98	1.02		
国内業務部門	国際業務部門	合計	0.70	0.72		
			2.07	1.64		
			0.77	0.78		
国内業務部門	国際業務部門	合計	0.15	0.15		
			1.50	2.12		
			0.21	0.24		

## 受取・支払利息の分析

### (1) 2023年度中間

(単位 : 百万円)

		合計			国内業務部門			国際業務部門		
		残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,029	1,637	2,666	895	△97	798	210	1,654	1,864	
貸出金	347	1,053	1,400	337	113	451	△168	1,118	949	
商品有価証券	△0	0	0	△0	0	0	—	—	—	
有価証券	751	730	1,482	540	28	569	193	719	913	
コールローン	△0	△1	△2	△0	△1	△2	—	—	—	
預け金	△0	0	0	△0	0	0	—	—	—	
支払利息	△48	1,181	1,133	△7	△125	△132	115	1,147	1,262	
預金	7	98	105	2	△57	△54	△3	163	160	
譲渡性預金	△0	0	△0	△0	0	△0	—	—	—	
コールマネー	△980	1,796	816	9	△4	4	△48	859	811	
債券貸借取引受入担保金	147	149	296	0	—	0	36	259	295	
借用金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

### (2) 2024年度中間

(単位 : 百万円)

		合計			国内業務部門			国際業務部門		
		残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	852	1,018	1,871	754	334	1,089	616	182	799	
貸出金	368	256	624	298	129	427	267	△70	196	
商品有価証券	△0	△0	△0	△0	△0	△0	—	—	—	
有価証券	1,033	167	1,200	698	△96	602	318	278	597	
コールローン	△44	70	25	△44	70	25	—	—	—	
預け金	0	0	0	0	0	0	—	—	—	
支払利息	56	592	648	26	823	849	248	△433	△184	
預金	13	621	634	7	614	621	△16	29	13	
譲渡性預金	2	2	4	2	2	4	—	—	—	
コールマネー	132	△154	△21	3	9	13	△30	△4	△34	
債券貸借取引受入担保金	108	△270	△162	11	6	17	△174	△5	△180	
借用金	△38	38	0	△38	38	0	—	—	—	

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高による増減要因に含めております。

## 利益率

(単位 : %)

		2023年度中間			2024年度中間		
		総資産経常利益率	自己資本経常利益率	総資産中間純利益率	自己資本中間純利益率	総資産経常利益率	自己資本経常利益率
総資産経常利益率		0.30	6.59	0.23	5.18	0.34	7.29
自己資本経常利益率							
総資産中間純利益率							
自己資本中間純利益率							

(注) 分母となる自己資本平均残高は、(期首自己資本+期末自己資本) ÷ 2で算出しております。

自己資本 = 純資産の部合計 - 新株予約権

連結情報

単体情報

# 主要な経営指標

## ROE (株主資本利益率)

(単位 : %)

	2023年度中間	2024年度中間
コア業務純益ベース	7.25	7.09
実質業務純益ベース	6.76	6.49
業務純益ベース	7.14	6.65
中間純利益ベース	5.18	5.56

(注) 分母となる自己資本平均残高は、(期首自己資本+期末自己資本) ÷ 2で算出しております。

自己資本=純資産の部合計 - 新株予約権

## 従業員1人当たり及び1店舗当たりの預金・貸出金残高

(単位 : 百万円)

		2023年9月30日	2024年9月30日
預 金	従業員1人当たり	2,619	2,707
	1店舗当たり	50,135	50,420
貸 出 金	従業員1人当たり	2,088	2,175
	1店舗当たり	39,985	40,499

(注) 1. 預金は、譲渡性預金を含んでおります。

2. 従業員1人当たり及び1店舗当たりは、各年度の中間期末日現在の従業員数（本部人員を含む。）及び店舗数で算出しております。

## 役務取引等収支の状況

(単位 : 百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
役務取引等収益	6,943	6,909	34	7,537	7,499	38
預金・貸出業務	3,380	3,380	—	3,927	3,927	0
為替業務	869	837	31	869	834	35
信託関連業務	143	143	—	134	134	—
証券関連業務	959	959	—	1,060	1,060	—
代理業務	1,302	1,302	—	1,250	1,250	—
保護預り・貸金庫業務	239	239	—	242	242	—
保証業務	48	45	2	53	50	3
役務取引等費用	1,867	1,850	16	1,828	1,808	19
為替業務	125	109	16	135	115	19

## その他業務収支の状況

(単位 : 百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
その他業務収益	2,563	2,562	1	274	215	59
外國為替売買益	—	—	—	—	—	—
商品有価証券売買益	1	1	—	0	0	—
国債等債券売却益	2,279	2,279	—	211	164	46
国債等債券償還益	0	0	—	2	2	—
金融派生商品収益	282	281	1	60	47	12
その他の	—	—	—	—	—	—
その他業務費用	4,086	2,468	1,617	3,320	924	2,395
外國為替売買損	1,201	—	1,201	2,327	—	2,327
国債等債券売却損	2,431	2,015	416	490	422	67
国債等債券償還損	453	453	—	502	502	—
金融派生商品費用	—	—	—	—	—	—

## 営業経費の内訳

(単位 : 百万円)

	2023年度中間	2024年度中間
給料・手当	6,427	6,533
退職給付費	272	△434
福利厚生費	64	60
減価償却費	1,846	1,937
土地建物機械賃借料	679	652
官舎賃料	12	14
消耗品費	178	143
給水光熱費	185	189
旅費	28	27
通信費	422	440
広告宣伝費	191	289
租税公課	1,159	1,241
その他の	6,078	5,936
合計	17,548	17,030

(注) 中間損益計算書中「営業経費」の内訳であります。

## 中間貸借対照表

当行の前中間会計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）及び当中間会計期間（自2024年4月1日至2024年9月30日）の中間財務諸表（中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書）は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

## 中間貸借対照表

## [資産の部]

(単位：百万円)

### 「負債の部及び純資産の部」

(单位：百万円)

				前中間会計期間 (2023年9月30日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
(	負	債	の	部	)
預	渡	性	預	金	5,017,368
讓	一	ル	マ	金	24,650
口	貸	取	入	一	41,677
債	借	引	担	金	16,052
外	券	受	保	替	6,856
信	國	為	金	193	300
そ	託	勘	定	借	8,042
未	の	他	負	債	20,752
リ	払	法	人	等	1,921
資	一	ス	税	務	236
そ	産	除	債	務	869
賞	の	他	債	債	17,724
役	与	引	負	金	1,084
退	賞	与	當	金	6
睡	員	付	引	金	2,682
偶	職	引	當	金	142
株	給	引	當	金	188
緑	預	損	引	金	68
再	金	失	當	債	—
評	払	酬	當	債	4,227
支	に	報	當	債	5,097
負	係	延	金	諾	5,129,134
債	る	税	負		
の	る	金	負		
部	る	金	負		
合	る	金	負		
計	る	金	負		
(	純	資	産	の	5,063,232
資	資	本	本	部	
資	資	本	本	合	
そ	の	他	資	計	
利	益	利	資		
利	益	益	本		
そ	の	他	剩		
不	動	利	余		
別	產	益	備		
緑	压	積	余		
自	縮	立	立		
株	途	積	立		
主	利	剩	立		
資	益	余	立		
本	株	式			
合					
計					
そ	他	有	価	証	231,514
の	価	価	券	評	239,647
他	価	価	評	価	3,277
緑	価	価	価	差	8,096
延	価	価	差	額	2,472
へ	価	価	額	益	2,406
ツ	価	価	益	損	8,286
ジ	価	価	損	益	8,286
土	価	価	益	益	8,286
地	価	価	益	損	8,286
再	価	価	損	益	8,286
評	価	価	益	益	8,286
価	価	価	益	損	8,286
・	価	価	益	益	8,286
換	価	価	損	益	8,286
算	価	価	益	益	8,286
差	価	価	益	損	8,286
額	価	価	損	益	8,286
等	価	価	益	益	8,286
合	価	価	損	益	8,286
計	価	価	益	益	8,286
新	株	予	約	権	8
純	資	資	産	の	245,558
負	債	及	び	純	258,445
債	の	純	資	資	5,387,580
及	部	の	産	の	
び	合	部	合	計	

# 中間損益計算書

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

連結情報

単体情報

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
経 常 収 益	35,185	35,148
資 金 運 用 収 益	24,302	26,174
( う ち 貸 出 金 利 息 )	(18,415)	(19,040)
( う ち 有 価 証 券 利 息 配 当 金 )	(5,676)	(6,877)
信 託 報 酬	15	9
役 务 取 引 等 収 益	6,943	7,537
そ の 他 業 务 収 益	2,563	274
そ の 他 経 常 収 益	1,360	1,151
経 常 費 用	27,127	25,719
資 金 調 達 費 用	2,209	2,858
( う ち 預 金 利 息 )	(287)	(922)
役 务 取 引 等 費 用	1,867	1,828
そ の 他 業 务 費 用	4,086	3,320
営 業 経 費	17,548	17,030
そ の 他 経 常 費 用	1,415	682
経 常 利 益	8,057	9,428
特 別 損 失	18	13
税 引 前 中 間 純 利 益	8,039	9,415
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	1,889	2,096
法 人 税 等 調 整 額	△177	124
法 人 税 等 合 計	1,711	2,221
中 間 純 利 益	6,328	7,193

# 中間株主資本等変動計算書

## 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) (単位:百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計
当期首残高	45,743	38,351	2	38,353
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
不動産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
自己株式の取得				
自己株式の処分			2	2
自己株式の消却			△1,018	△1,018
利益剰余金から資本剰余金への振替			1,012	1,012
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△2	△2
当中間期末残高	45,743	38,351	—	38,351

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		不動産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	10,087	362	123,560	10,560	144,570	△951 227,716
当中間期変動額						
剰余金の配当				△1,676	△1,676	△1,676
中間純利益				6,328	6,328	6,328
不動産圧縮積立金の取崩		△3		3	—	—
別途積立金の積立			7,000	△7,000	—	—
自己株式の取得					△911	△911
自己株式の処分					55	58
自己株式の消却					1,018	—
利益剰余金から資本剰余金への振替				△1,012	△1,012	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)						
当中間期変動額合計	—	△3	7,000	△3,357	3,638	161 3,797
当中間期末残高	10,087	358	130,560	7,203	148,209	△789 231,514

	評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	5,817	△152	8,286	13,951	38	241,706
当中間期変動額						
剰余金の配当						△1,676
中間純利益						6,328
不動産圧縮積立金の取崩						—
別途積立金の積立						—
自己株式の取得						△911
自己株式の処分						58
自己株式の消却						—
利益剰余金から資本剰余金への振替						—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△2,540	2,625	—	84	△30	54
当中間期変動額合計	△2,540	2,625	—	84	△30	3,852
当中間期末残高	3,277	2,472	8,286	14,035	8	245,558

# 中間株主資本等変動計算書

連結情報

単体情報

当中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計
当 期 首 残 高	45,743	38,351	—	38,351
当 中 間 期 変 動 額				
剩 余 金 の 配 当				
中 間 純 利 益				
不動産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
自 己 株 式 の 取 得				
自 己 株 式 の 处 分		0	0	
自 己 株 式 の 消 却		—	—	
利益剰余金から資本剰余金への振替		—	—	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）				
当 中 間 期 変 動 額 合 計	—	—	0	0
当 中 間 期 末 残 高	45,743	38,351	0	38,351

	株主資本						株主資本 合計	
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計	自己株式		
		不動産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金				
当 期 首 残 高	10,087	354	130,560	9,969	150,971	△793	234,273	
当 中 間 期 変 動 額								
剩 余 金 の 配 当				△1,822	△1,822		△1,822	
中 間 純 利 益				7,193	7,193		7,193	
不動産圧縮積立金の取崩		△3		3	—		—	
別途積立金の積立			6,000	△6,000	—		—	
自 己 株 式 の 取 得						△3	△3	
自 己 株 式 の 处 分						6	7	
自 己 株 式 の 消 却						—	—	
利益剰余金から資本剰余金への振替				—	—		—	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）								
当 中 間 期 変 動 額 合 計	—	△3	6,000	△625	5,371	3	5,374	
当 中 間 期 末 残 高	10,087	350	136,560	9,344	156,342	△790	239,647	

	評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当 期 首 残 高	13,020	1,765	8,286	23,072	8	257,354
当 中 間 期 変 動 額						
剩 余 金 の 配 当						△1,822
中 間 純 利 益						7,193
不動産圧縮積立金の取崩						—
別途積立金の積立						—
自 己 株 式 の 取 得						△3
自 己 株 式 の 处 分						7
自 己 株 式 の 消 却						—
利益剰余金から資本剰余金への振替						—
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	△4,923	640	—	△4,283	—	△4,283
当 中 間 期 変 動 額 合 計	△4,923	640	—	△4,283	—	1,091
当 中 間 期 末 残 高	8,096	2,406	8,286	18,789	8	258,445

# 注記事項

連結情報

単体情報

## 注記事項

### (重要な会計方針)

#### 1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

#### 2. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他の有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

#### 3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

#### 4. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定額法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15年～50年

その他 4年～20年

##### (2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

#### 5. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のな  
お書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額（以下「非保全額」という。）のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。なお、破綻懸念先のうち非保全額が一定額以上の大口債務者に対する債権については、債務者の状況を総合的に判断してキャッシュ・フローによる回収可能額を見積もり、非保全額から当該キャッシュ・フローを控除した残額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー控除法）により計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値と景気循環を勘案した長期平均値を比較のうえ高い方の率に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は3,345百万円であります。

##### (2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定率法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理

なお、退職給付引当金の当中間会計期間末残高には、執行役員分34百万円が含まれております。

#### (5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

#### (6) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会等に対する責任共有制度負担金及び保証協会負担金等の支払いに備えるため、過去の実績に基づき、将来の支払見込額を計上しております。

#### (7) 株式報酬引当金

株式報酬引当金は、役員に対する将来の当行株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

#### 6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

#### 7. ヘッジ会計の方法

##### 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

#### 8. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

##### (2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

##### (3) 投資信託の解約に伴う損益

投資信託の解約に伴う損益については、個別銘柄毎に、投資信託解約益は「資金運用収益」の「有価証券利息配当金」として、投資信託解約損は「その他業務費用」として計上しております。

#### （会計方針の変更）

##### （法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）等を当中間会計期間の期首から適用しております。これに伴う中間財務諸表に与える影響はありません。

#### （追加情報）

##### （役員向け株式報酬制度）

役員に対し、信託を通じ当行株式を交付する等の取引に関する注記については、中間連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

# 注記事項

## (中間貸借対照表関係)

### 1. 関係会社の株式及び出資金の総額

株式	6,081百万円
出資金	973百万円

### 2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

9,909百万円

### 3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、中間貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は貯貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	11,596百万円
危険債権額	29,831百万円
三月以上延滞債権額	246百万円
貸出条件緩和債権額	24,656百万円
合計額	66,331百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

6,707百万円

### 5. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」（移管指針第1号 2024年7月1日）に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、中間貸借対照表計上額は次のとおりであります。

1,141百万円

### 6. 担保に供している資産は次のとおりであります。

#### 担保に供している資産

有価証券	81,247百万円
貸出金	17,602百万円
計	98,849百万円

#### 担保資産に対応する債務

預金	3,769百万円
債券貸借取引受入担保金	6,856百万円

上記のほか、為替決済、公金事務取扱等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

預け金	7百万円
有価証券	2,071百万円
その他の資産	148百万円

また、その他の資産には、保証金、為替決済の取引の担保として中央清算機関差入証拠金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	2,017百万円
中央清算機関差入証拠金	10,000百万円

### 7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	414,746百万円
うち契約残存期間が1年以内のもの	390,048百万円

このほかに総合口座の当座貸越契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	217,701百万円
---------	------------

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢

の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

### 8. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

29,577百万円

### 9. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

金銭信託	8,038百万円
------	----------

## (中間損益計算書関係)

### 1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

償却債権取立て益	208百万円
株式等売却益	644百万円

### 2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

有形固定資産	1,070百万円
無形固定資産	866百万円

### 3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金繰入額	124百万円
株式等売却損	227百万円
株式等償却	0百万円

## (有価証券関係)

### 子会社株式及び関連会社株式等

市場価格のある子会社株式及び関連会社株式等は該当ありません。

なお、市場価格のない子会社株式及び関連会社株式等の中間貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	当中間会計期間（2024年9月30日）
子会社株式	6,039
関連会社株式	41
組合出資金	973
合計	7,054

## (収益認識関係)

### 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

区分	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
役務取引等収益	7,537
うち預金・貸出業務	3,927
うち為替業務	869
うち信託関連業務	134
うち証券関連業務	1,060
うち代理業務	1,250
うち保護預り・貸金庫業務	242
うち保証業務	53
信託報酬	9

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

# 預金に関する指標

## 科目別預金残高

(単位：百万円)

		2023年度中間			2024年度中間		
		合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
預 金	流動性預金	中間期末残高	3,592,944	3,592,944	—	3,704,482	3,704,482
		平均残高	3,529,112	3,529,112	—	3,657,654	3,657,654
	有利息預金	中間期末残高	3,143,311	3,143,311	—	3,263,931	3,263,931
		平均残高	3,093,209	3,093,209	—	3,226,446	3,226,446
	定期性預金	中間期末残高	1,323,407	1,323,407	—	1,263,682	1,263,682
		平均残高	1,341,029	1,341,029	—	1,276,541	1,276,541
	固定金利定期預金	中間期末残高	1,322,570	1,322,570	—	1,262,928	1,262,928
		平均残高	1,340,021	1,340,021	—	1,275,774	1,275,774
譲 渡 性 預 金	変動金利定期預金	中間期末残高	673	673	—	685	685
		平均残高	675	675	—	675	675
	その他の定期預金	中間期末残高	22,105	9,847	12,257	49,202	37,693
		平均残高	26,945	13,846	13,098	27,070	14,820
	合計	中間期末残高	4,938,457	4,926,199	12,257	5,017,368	5,005,858
		平均残高	4,897,087	4,883,989	13,098	4,961,266	4,949,016
		中間期末残高	24,950	24,950	—	24,650	24,650
		平均残高	26,046	26,046	—	42,877	42,877
総合計		中間期末残高	4,963,407	4,951,149	12,257	5,042,018	5,030,508
		平均残高	4,923,134	4,910,035	13,098	5,004,143	4,991,893
(注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金(無利息型を含む)+貯蓄預金+通知預金 2. 有利息預金=流動性預金-当座預金-普通預金(無利息型) 3. 定期性預金=定期預金+定期積金							

(注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金(無利息型を含む)+貯蓄預金+通知預金

2. 有利息預金=流動性預金-当座預金-普通預金(無利息型)

3. 定期性預金=定期預金+定期積金

## 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	区分	2023年9月30日		2024年9月30日	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
定期預金	3か月未満	332,936	302,847	302,847	302,847
	3か月以上6か月未満	260,882	230,898	230,898	230,898
	6か月以上1年未満	494,510	471,554	471,554	471,554
	1年以上2年未満	34,203	37,524	37,524	37,524
	2年以上3年未満	26,979	33,832	33,832	33,832
	3年以上	21,416	31,911	31,911	31,911
	合計	1,170,929	1,108,568	1,108,568	1,108,568
固定金利定期預金	3か月未満	332,863	302,729	302,729	302,729
	3か月以上6か月未満	260,831	230,864	230,864	230,864
	6か月以上1年未満	494,374	471,430	471,430	471,430
	1年以上2年未満	33,888	37,278	37,278	37,278
	2年以上3年未満	26,879	33,668	33,668	33,668
	3年以上	21,416	31,911	31,911	31,911
	合計	1,170,255	1,107,882	1,107,882	1,107,882
変動金利定期預金	3か月未満	72	118	118	118
	3か月以上6か月未満	50	34	34	34
	6か月以上1年未満	135	123	123	123
	1年以上2年未満	315	245	245	245
	2年以上3年未満	99	163	163	163
	3年以上	—	—	—	—
	合計	673	685	685	685
その他	3か月未満	—	—	—	—
	3か月以上6か月未満	—	—	—	—
	6か月以上1年未満	—	—	—	—
	1年以上2年未満	—	—	—	—
	2年以上3年未満	—	—	—	—
	3年以上	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—

(注) 預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

## 預金者別預金残高

(単位：百万円)

	区分	2023年9月30日		2024年9月30日	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
個人預金	個人預金	3,619,479	73.29	3,657,169	72.89
法人預金	法人預金	1,251,074	25.33	1,295,589	25.82
その他預金	その他預金	67,903	1.37	64,608	1.29
総預金	総預金	4,938,457	100.00	5,017,368	100.00

(注) その他預金は、公的機関、金融機関より受入れた預金です。

## 財形貯蓄残高

(単位：百万円)

	区分	2023年9月30日		2024年9月30日	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
財形貯蓄	財形貯蓄	13,442	—	12,854	—

# 貸出金に関する指標

連結情報

単体情報

## 科目別貸出金残高

(単位:百万円)

		2023年度中間			2024年度中間		
		合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
手形貸付	中間期末残高	167,993	167,111	882	152,408	151,775	633
	平均残高	156,684	156,063	621	154,498	153,647	850
証書貸付	中間期末残高	3,477,672	3,420,190	57,481	3,565,027	3,507,536	57,491
	平均残高	3,441,832	3,387,635	54,196	3,521,063	3,458,824	62,238
当座貸越	中間期末残高	303,566	303,566	—	325,838	325,838	—
	平均残高	293,062	293,062	—	294,105	294,105	—
割引手形	中間期末残高	9,294	9,294	—	6,707	6,707	—
	平均残高	7,728	7,728	—	6,771	6,771	—
合計	中間期末残高	3,958,527	3,900,163	58,363	4,049,981	3,991,856	58,125
	平均残高	3,899,307	3,844,489	54,817	3,976,438	3,913,349	63,088

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

## 貸出金の残存期間別残高

(単位:百万円)

		区分	2023年9月30日	2024年9月30日
貸出金		1年以下	335,731	323,312
		1年超3年以下	303,283	317,589
		3年超5年以下	462,904	458,039
		5年超7年以下	297,432	332,520
		7年超	2,255,608	2,292,681
		期間の定めのないもの	303,566	325,838
		合計	3,958,527	4,049,981
		1年以下	—	—
固定金利		1年超3年以下	160,711	189,775
		3年超5年以下	252,071	210,858
		5年超7年以下	207,437	232,005
		7年超	1,319,196	1,216,889
		期間の定めのないもの	295,726	317,726
		合計	—	—
		1年以下	—	—
		1年超3年以下	142,572	127,814
変動金利		3年超5年以下	210,832	247,181
		5年超7年以下	89,995	100,514
		7年超	936,412	1,075,791
		期間の定めのないもの	7,840	8,111
		合計	—	—
		1年以下	—	—
		1年超3年以下	—	—
		3年超5年以下	—	—

(注) 1. 残存期間別1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

2. 「期間の定めのないもの」は当座貸越です。

## 貸出金業種別内訳

(単位:百万円)

		2023年9月30日		2024年9月30日	
		金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)
国内店分		3,958,527		4,049,981	
製造業	農業、林業	348,555	8.81	366,021	9.04
漁業		3,904	0.10	3,942	0.10
鉱業、採石業、砂利採取業		12	0.00	11	0.00
建設業	電気・ガス・熱供給・水道業	1,100	0.03	996	0.03
情報通信業		198,747	5.02	211,569	5.22
運輸業、郵便業	5年超7年以下	45,263	1.14	45,534	1.12
卸売業、小売業	7年超	14,463	0.37	13,583	0.34
金融業、保険業	期間の定めのないもの	165,180	4.17	166,818	4.12
不動産業、物品貯蔵業		309,699	7.82	304,205	7.51
各種サービス業	26.12	173,363	4.38	166,519	4.11
地方公共団体	211,910	1,033,808	26.19	1,060,564	26.19
その他の	28.15	1,114,267	5.35	199,285	4.92
特別国際金融取引勘定分	—	338,256	8.54	351,259	8.67
地方政府等	—	211,910	5.35	199,285	4.92
金融機関	—	1,114,267	28.15	1,159,675	28.63
その他の	—	—	—	—	—
合計	3,958,527	100.00	4,049,981	100.00	

## 貸出金使途別残高

(単位：百万円)

	2023年9月30日		2024年9月30日	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)
設備資金	2,221,577	56.12	2,292,600	56.61
運転資金	1,736,950	43.88	1,757,381	43.39
合計	3,958,527	100.00	4,049,981	100.00

## 中小企業等に対する貸出金残高

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
総貸出金残高(A)	3,958,527	4,049,981
中小企業等貸出金残高(B)	3,160,704	3,258,670
比率(B/A) (%)	79.84	80.46

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品販賣業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品販賣業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

## 個人ローン残高

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
個人ローン	1,528,023	1,579,581
住宅ローン	939,787	971,312
その他ローン	588,235	608,268

## 特定海外債権残高

該当事項はありません。

## 貸出金及び支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	2023年9月30日		2024年9月30日	
	貸出金	支払承諾見返	貸出金	支払承諾見返
有価証券	6,803	—	5,709	—
債権	4,414	—	4,785	—
商品	2,318	—	2,580	—
不動産	826,448	1,022	847,789	712
その他	139,296	987	142,677	1,651
計	979,281	2,010	1,003,541	2,363
保証	1,917,683	—	1,905,405	—
信用	1,061,562	3,087	1,141,034	3,165
合計	3,958,527	5,097	4,049,981	5,529

## 預貸率

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
預金	中間期末残高	4,963,407	4,951,149	12,257	5,042,018	5,030,508
	期中平均残高	4,923,134	4,910,035	13,098	5,004,143	4,991,893
貸出金	中間期末残高	3,958,527	3,900,163	58,363	4,049,981	3,991,856
	期中平均残高	3,899,307	3,844,489	54,817	3,976,438	3,913,349
預貸率 (%)	中間期末値	79.75	78.77	476.13	80.32	79.35
	期中平均値	79.20	78.29	418.50	79.46	78.39

(注) 預貸率 =  $\frac{\text{貸出金}}{\text{預金}} \times 100$

預金には、譲渡性預金を含んでおります。

# 貸出金に関する指標

## 貸倒引当金の内訳

(単位：百万円)

	2023年度中間					2024年度中間				
	期首残高	期中増加額	期中減少額 (目的使用)	期中減少額 (その他)	中期期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額 (目的使用)	期中減少額 (その他)	中期期末残高
一般貸倒引当金	10,808	10,339	—	10,808	10,339	7,830	7,623	—	7,830	7,623
個別貸倒引当金	5,550	5,283	625	4,925	5,283	6,357	5,298	1,391	4,966	5,298
合計	16,359	15,623	625	15,734	15,623	14,188	12,921	1,391	12,797	12,921

(注) 債却・引当基準

ア.一般貸倒引当金

正 常 先 債 権	今後1年間の予想損失額を貸倒実績率により算出し、一般貸倒引当金に計上
要 注 意 先 債 権	要管理債権（三月以上延滞債権もしくは貸出条件緩和債権のある要注意先債権）と要管理先債権以外の要注意先債権を区分し、その区分毎に今後の一定期間における予想損失額を一般貸倒引当金に計上
要 管 理 先 債 権	今後3年間の予想損失額を貸倒実績率により算出し、一般貸倒引当金に計上
要管理先債権以外の要 注意 先 債 権	今後1年間の予想損失額を貸倒実績率により算出し、一般貸倒引当金に計上

### イ.個別貸倒引当金

破 經 懸 念 先 債 権	担保・保証等により保全のない部分のうち、今後3年間の予想損失額を貸倒実績率により算出し、個別貸倒引当金に計上
実 質 破 經 先 債 権	予想損失額（担保・保証等により保全のない部分の全額）を個別貸倒引当金に計上
破 經 先 債 権	もしくは貸倒債却

## 貸出金償却額

(単位：百万円)

貸出金償却額	2023年度中間		2024年度中間	
	—	—	—	—

(注) 貸出金償却額は、貸出金及び貸出金利息の償却額から、すでに繰入済みの個別貸倒引当金の当該償却に係わる取崩額を控除した額を計上しております。

## 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権

(単位：百万円)

項 目	2023年9月30日		2024年9月30日	
	金額	割合 (%)	金額	割合 (%)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	11,416	0.28	11,596	0.28
危 険 債 権	29,370	0.73	29,831	0.72
要 管 理 債 権	26,695	0.66	24,903	0.60
三 月 以 上 延 滞 債 権	820	0.02	246	0.00
貸 出 条 件 緩 和 債 権	25,875	0.64	24,656	0.60
合 計	67,482	1.68	66,331	1.62
正 常 債 権	3,929,509	98.31	4,021,158	98.37

(注) 割合は、総与信に占める各債権額の比率を示しております。

## 金融再生法に基づく資産査定結果

### (1) 2023年9月30日

(単位：億円)

	与信残高	総与信残高比率 (%)	担保・保証による保全額	引当額	保全率 (%)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	114	0.28	85	29	100.00
危 険 債 権	294	0.73	207	23	78.50
要 管 理 債 権	267	0.66	157	50	78.10
小 計	675	1.68	449	103	81.98
正 常 債 権	39,295				
合 計	39,970				

### (2) 2024年9月30日

(単位：億円)

	与信残高	総与信残高比率 (%)	担保・保証による保全額	引当額	保全率 (%)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	116	0.28	88	27	100.00
危 険 債 権	298	0.72	229	25	85.56
要 管 理 債 権	249	0.60	143	30	69.58
小 計	663	1.62	461	82	82.08
正 常 債 権	40,212				
合 計	40,875				

(注) 資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(1998年法律第132号) 第6条に基づき、当行の中間貸借対照表の社債（当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法(1948年法律第25号) 第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。）、貸出金、外國為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに中間貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は質貸借契約によるものに限る。）について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。

#### ・破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

#### ・危険債権

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

#### ・要管理債権

要管理債権とは、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

#### ・正常債権

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権。

# 有価証券に関する指標

## 有価証券の種類別残高

(単位:百万円)

		2023年度中間			2024年度中間		
		合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
国 債	中間期末残高	244,896	244,896	—	294,386	294,386	—
	平均残高	205,134	205,134	—	324,656	324,656	—
地 方 債	中間期末残高	226,070	226,070	—	237,103	237,103	—
	平均残高	221,951	221,951	—	257,455	257,455	—
短 期 社 債	中間期末残高	—	—	—	—	—	—
	平均残高	31,637	31,637	—	—	—	—
社 債	中間期末残高	191,882	191,882	—	191,683	191,683	—
	平均残高	188,185	188,185	—	196,836	196,836	—
株 式	中間期末残高	55,706	55,706	—	63,033	63,033	—
	平均残高	25,654	25,654	—	25,995	25,995	—
その他の証券	中間期末残高	224,505	91,024	133,481	234,459	90,170	144,288
	平均残高	220,993	84,534	136,458	246,675	88,116	158,558
外国証券	中間期末残高	133,481	—	133,481	144,288	—	144,288
	平均残高	136,458	—	136,458	158,558	—	158,558
合 計	中間期末残高	943,062	809,581	133,481	1,020,666	876,377	144,288
	平均残高	893,556	757,097	136,458	1,051,619	893,060	158,558

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式を採用しております。外国株式・貸付有価証券はありません。

## 有価証券の残存期間別残高

(単位:百万円)

		区分	2023年9月30日	2024年9月30日
国 債	1年以下		—	9,980
	1年超3年以下		64,952	90,390
	3年超5年以下		104,441	59,450
	5年超7年以下		6,826	24,343
	7年超10年以下		30,983	27,806
	10年超		37,693	82,415
	期間の定めのないもの		—	—
	合計		244,896	294,386
	1年以下		22,372	23,095
	1年超3年以下		41,128	32,744
地 方 債	3年超5年以下		33,597	37,720
	5年超7年以下		24,616	36,857
	7年超10年以下		45,249	43,058
	10年超		59,105	63,627
	期間の定めのないもの		—	—
	合計		226,070	237,103
	1年以下		22,375	13,592
	1年超3年以下		35,879	35,135
	3年超5年以下		49,001	63,555
	5年超7年以下		5,499	3,253
社 債	7年超10年以下		288	697
	10年超		78,837	75,449
	期間の定めのないもの		—	—
	合計		191,882	191,683
	期間の定めのないもの		55,706	63,033
	1年以下		28,490	27,286
	1年超3年以下		41,555	22,301
	3年超5年以下		16,155	51,170
	5年超7年以下		14,067	31,062
	7年超10年以下		33,280	8,782
株 式	10年超		63,988	64,841
	期間の定めのないもの		26,968	29,014
	合計		224,505	234,459
	1年以下		26,187	22,361
	1年超3年以下		33,990	15,938
	3年超5年以下		5,952	39,426
	5年超7年以下		6,259	—
	7年超10年以下		—	4,097
	10年超		61,091	62,463
	期間の定めのないもの		0	0
外 国 証 券	合計		133,481	144,288

連結情報

単体情報

# 有価証券に関する指標／為替・外貨建資産残高

連結情報

単体情報

## 商品有価証券の売買高、平均残高

(単位：百万円)

	2023年度中間		2024年度中間	
	売買高	平均残高	売買高	平均残高
商品国債	672	4	987	4
商品地方債	803	37	—	—
合計	1,476	42	987	4

(注) 各期における商品政府保証債、その他の商品有価証券の取扱はありません。

## 預証率

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門
預金	中間期末残高	4,963,407	4,951,149	12,257	5,042,018	5,030,508
	期中平均残高	4,923,134	4,910,035	13,098	5,004,143	4,991,893
有価証券	中間期末残高	943,062	809,581	133,481	1,020,666	876,377
	期中平均残高	893,556	757,097	136,458	1,051,619	893,060
預証率(%)	中間期末値	19.00	16.35	—	20.24	17.42
	期中平均値	18.15	15.41	—	21.01	17.89

(注) 1. 預証率 =  $\frac{\text{有価証券}}{\text{預金}} \times 100$

預金には、譲渡性預金を含んでおります。

2. 2023年度中間および2024年度中間の国際業務部門の預証率は、1,000%を超えており、記載しておりません。

## 公共債の引受け額

(単位：百万円)

	2023年度中間		2024年度中間	
	合計	711	合計	2,799
地方債・政府保証債				
合計		711		2,799

## 公共債及び証券投資信託の窓口販売実績

(単位：百万円)

	2023年度中間		2024年度中間	
	国債	2,680	投信	7,302
地方債・政府保証債		1,320		700
合計		4,000		8,002
投信		19,358		25,845

## 為替・外貨建資産残高

### 内国為替取扱高

(単位：口、百万円)

	2023年度中間		2024年度中間	
	口数	金額	口数	金額
送金為替	各地へ向けた分	2,807,531	3,127,221	2,897,013
	各地より受けた分	3,973,619	3,431,394	4,082,233
代金取立	各地へ向けた分	18,018	33,699	13,360
	各地より受けた分	0	0	0

### 外国為替取扱高

(単位：百万米ドル)

	2023年度中間		2024年度中間	
	金額	金額	金額	金額
仕向為替	売渡為替	337		184
	買入為替	288		104
被仕向為替	支払為替	94		95
	取立為替	4		5
合計		723		390

### 外貨建資産残高

(単位：百万米ドル)

	2023年9月30日	2024年9月30日
外貨建資産残高	887	966

# 有価証券時価情報

## 1.満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2023年9月30日			2024年9月30日		
		中間貸借対照表 計上額	時価	差額	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が中間貸借対照表 計上額を超えるもの	社債	881	884	3	3,994	4,015	21
	小計	881	884	3	3,994	4,015	21
時価が中間貸借対照表 計上額を超えないもの	社債	28,953	28,698	△255	25,582	25,410	△172
	小計	28,953	28,698	△255	25,582	25,410	△172
	合計	29,834	29,583	△251	29,577	29,426	△151

## 2.その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2023年9月30日			2024年9月30日		
		中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株式	47,072	16,683	30,389	53,795	16,163	37,631
	債券	38,475	38,207	268	43,569	43,258	310
	国債	10,000	9,999	0	14,957	14,868	88
	地方債	10,577	10,460	117	13,391	13,300	91
	社債	17,897	17,746	150	15,219	15,089	129
	その他	72,082	71,317	764	88,290	87,257	1,032
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	小計	157,630	126,208	31,421	185,654	146,679	38,974
	株式	889	1,082	△192	1,507	1,728	△220
	債券	594,539	607,948	△13,408	650,027	668,008	△17,981
	国債	234,896	239,576	△4,680	279,429	287,890	△8,461
	地方債	215,492	220,482	△4,990	223,711	228,510	△4,798
	社債	144,150	147,888	△3,738	146,886	151,607	△4,720
	その他	150,021	163,527	△13,506	143,387	152,903	△9,516
	小計	745,450	772,557	△27,107	794,922	822,640	△27,717
	合計	903,080	898,766	4,314	980,577	969,320	11,256

(注) 市場価格のない株式等及び組合出資金の中間貸借対照表計上額は、次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

区分	2023年9月30日		2024年9月30日	
	中間貸借対照表計上額		中間貸借対照表計上額	
非上場株式（*1）（*2）		1,663		1,648
組合出資金（*3）		1,456		1,808
合計		3,120		3,457

(\*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(\*2) 前中間会計期間において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

当中間会計期間において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

(\*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

連結情報

単体情報

# 有価証券時価情報／金銭の信託関係／その他有価証券評価差額金

## 3.減損処理を行った有価証券

### 〈2023年度中間〉

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間会計期間における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、次のとおりであります。

ア.期末時価が帳簿価額の50%以上下落した場合

イ.期末時価が帳簿価額の30%以上50%未満下落し、かつ次のいずれかに該当する場合

- ① 時価が過去1年間にわたり帳簿価額の30%以上下落、又は格付の著しい低下
- ② 発行会社が債務超過
- ③ 発行会社が2期連続の赤字決算

### 〈2024年度中間〉

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間会計期間における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、次のとおりであります。

ア.期末時価が帳簿価額の50%以上下落した場合

イ.期末時価が帳簿価額の30%以上50%未満下落し、かつ次のいずれかに該当する場合

- ① 時価が過去1年間にわたり帳簿価額の30%以上下落、又は格付の著しい低下
- ② 発行会社が債務超過
- ③ 発行会社が2期連続の赤字決算

## 金銭の信託関係

### 1.満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

### 2.その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当事項はありません。

## その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

評価差額	2023年9月30日		2024年9月30日	
	その他有価証券	その他の金銭の信託	（△）繰延税金負債	その他有価証券評価差額金
	4,314	—	1,036	3,277
その他有価証券	4,314	—	1,036	3,277
その他の金銭の信託	—	—	—	—
（△）繰延税金負債	—	—	—	—
その他有価証券評価差額金	11,256	—	3,159	8,096

# デリバティブ情報

## デリバティブ情報

### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。

なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### (1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2023年9月30日			2024年9月30日				
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利先渡契約	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利スワップ								
店頭	受取固定・支払変動	23,922	23,910	△82	△82	30,623	30,614	△28	△28
	受取変動・支払固定	33,950	33,938	449	449	36,147	36,147	397	397
	受取変動・支払変動	9,610	9,610	9	9	3,951	3,951	45	45
	金利オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	376	376	—	—	414	414

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

#### (2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2023年9月30日			2024年9月30日				
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨スワップ	59,539	—	△2,427	△2,427	82,208	—	4,374	4,374
店頭	為替予約								
	売建	1,449	—	△79	△79	1,898	276	67	67
	買建	922	—	77	77	1,445	269	△44	△44
	通貨オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	△2,430	△2,430	—	—	4,397	4,397

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

(3) 株式関連取引、(4) 債券関連取引、(5) 商品関連取引及び(6) クレジット・デリバティブ取引については該当事項はありません。

### 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。

なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### (1) 金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	2023年9月30日			2024年9月30日				
		主なヘッジ対象	契約額等	うち1年超	時価	主なヘッジ対象	契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ	貸出金			—	貸出金			—
	受取固定・支払変動	—	—	—	—	その他有価証券	—	—	—
	受取変動・支払固定	(債券)	92,244	92,244	3,555	(債券)	141,476	141,476	3,460
金利スワップの特例処理	金利スワップ				—		—	—	—
	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	3,555	—	—	—	3,460

(注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(業種別委員会実務指針第24号)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は「連結情報 注記事項(金融商品関係)」の当該貸出金の時価に含めて記載しております。

(2) 通貨関連取引、(3) 株式関連取引及び(4) 債券関連取引については該当事項はありません。

連結情報

単体情報

# 電子決済手段／暗号資産

## 電子決済手段

(単位：百万円)

	2023年9月30日			2024年9月30日		
	取得価額又は 契約価額	時価	評価損益	取得価額又は 契約価額	時価	評価損益
	—	—	—	—	—	—

## 暗号資産

(単位：百万円)

	2023年9月30日			2024年9月30日		
	取得価額又は 契約価額	時価	評価損益	取得価額又は 契約価額	時価	評価損益
暗号資産	—	—	—	—	—	—

連結情報

単体情報

# 信託業務

## 信託業務

### 信託財産残高表

資産	2023年度中間	2024年度中間
銀行勘定貸	8,042	8,038
合計	8,042	8,038

(注) 共同信託他社管理財産については、取扱残高はありません。

### 元本補填契約のある信託

資産	2023年度中間	2024年度中間
銀行勘定貸	8,042	8,038
合計	8,042	8,038

### 受託残高

	2023年度中間	(単位：百万円)	
		2023年度中間	2024年度中間
金銭信託		8,042	8,038

(注) 年金信託、財産形成給付信託、貸付信託については取扱残高はありません。

### 信託期間別の元本残高

	区分	(単位：百万円)	
		2023年度中間	2024年度中間
金銭信託	1年未満	—	—
	1年以上2年未満	—	—
	2年以上5年未満	—	—
	5年以上	8,042	8,038
	その他のもの	—	—
	合計	8,042	8,038

(注) 貸付信託については、取扱残高はありません。

### 電子決済手段の種類別の残高

該当事項はありません。

### 暗号資産の種類別の残高

該当事項はありません。

以下の事項に該当するものはありません。

- ①金銭信託等の種類別の貸出金、有価証券、電子決済手段及び暗号資産の区分ごとの運用残高
- ②金銭信託等に係る貸出金の科目別（証書貸付、手形貸付及び割引手形の区分をいう。）の残高
- ③金銭信託等に係る貸出金の契約期間別の残高
- ④担保の種類別（有価証券、債権、商品、不動産、保証及び信用の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
- ⑤使途別（設備資金及び運転資金の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
- ⑥業種別の金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
- ⑦中小企業等（資本金3億円以下の会社若しくは常時使用する従業員が300人以下の会社又は個人をいう。ただし、卸売業にあっては資本金1億円以下の会社若しくは常時使用する従業員が100人以下の会社又は個人を、サービス業にあっては資本金5千万円以下若しくは常時使用する従業員が100人以下の会社又は個人を、小売業及び飲食店にあっては資本金5千万円以下若しくは常時使用する従業員が50人以下の会社又は個人をいう。）に対する金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
- ⑧金銭信託等に係る有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債及び株式その他の証券の区分をいう。）の残高
- ⑨元本補填契約のある信託に係る債権のうち破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額、三月以上延滞債権額並びに貸出条件緩和債権額に該当するものの額並びにこれらの合計額並びに正常債権額に該当するものの額

連結情報

単体情報

# 自己資本の充実(自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示)

## Contents

### ●自己資本の構成に関する開示事項

連結情報 ..... 52~53

単体情報 ..... 54~55

### ●定量的な開示事項

連結情報 ..... 56~71

単体情報 ..... 72~87

### ●自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示事項一覧 ..... 89

自己資本の構成に関する開示事項

定量的な開示事項(連結情報)

定量的な開示事項(単体情報)

当行は、銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、中間事業年度の開示事項を、本資料で開示しております。

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下「自己資本比率告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

また、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては基礎的内部格付手法（注）を採用しております。

(注) 基礎的内部格付手法とは、所定の算式に、銀行が推計した入力変数（パラメータ）を代入することで信用リスク・アセットを算出する方法のことです。

# 自己資本の構成に関する開示事項（連結情報）

## 一.自己資本の構成に関する事項

(前年度)

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
コア資本に係る基礎項目（1）	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	241,288
うち、資本金及び資本剰余金の額	84,094
うち、利益剰余金の額	159,640
うち、自己株式の額（△）	789
うち、社外流出予定額（△）	1,657
うち、上記以外に該当するものの額	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△1,117
うち、為替換算調整勘定	—
うち、退職給付に係るものとの額	△1,117
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	8
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	140
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	140
うち、適格引当金コア資本算入額	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	563
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	3
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	240,886
コア資本に係る調整項目（2）	
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものと除く。）の額の合計額	3,430
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	3,430
繰延税金資産（一時差異に係るものと除く。）の額	—
適格引当金不足額	8,736
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—
退職給付に係る資産の額	5,460
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—
少数出資金金融機関等の対象普通株式等の額	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
コア資本に係る調整項目の額（口）	17,627
自己資本	
自己資本の額（（イ）－（口））（ハ）	223,259
リスク・アセット等（3）	
信用リスク・アセットの額の合計額	1,792,978
資産（オン・バランス）項目	1,742,191
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△300
うち、他の金融機関等向けエクスポートジャー	—
うち、上記以外に該当するものの額	△300
オフ・バランス取引等項目	30,866
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	19,807
中央清算機関連エクスポートジャーに係る信用リスク・アセットの額	111
マーケット・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	—
オペレーションル・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	93,085
信用リスク・アセット調整額	494,191
オペレーションル・リスク相当額調整額	—
リスク・アセット等の額の合計額（二）	2,380,254
連結自己資本比率	
連結自己資本比率（（ハ）／（二））	9.37%

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的な開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(単体情報)

# 自己資本の構成に関する開示事項（連結情報）

(今年度)

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
<b>コア資本に係る基礎項目（1）</b>	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	249,732
うち、資本金及び資本剰余金の額	84,094
うち、利益剰余金の額	168,415
うち、自己株式の額（△）	790
うち、社外流出予定額（△）	1,988
うち、上記以外に該当するものの額	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	3,081
うち、為替換算調整勘定	—
うち、退職給付に係るもの額	3,081
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	8
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	121
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	121
うち、適格引当金コア資本算入額	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	252,943
<b>コア資本に係る調整項目（2）</b>	
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものと除く。）の額の合計額	3,738
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	3,738
繰延税金資産（一時差異に係るものと除く。）の額	—
適格引当金不足額	6,498
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—
退職給付に係る資産の額	10,182
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	1
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
コア資本に係る調整項目の額（口）	20,421
<b>自己資本</b>	
自己資本の額（（イ）－（口））（ハ）	232,522
<b>リスク・アセット等（3）</b>	
<b>信用リスク・アセットの額の合計額</b>	1,617,046
資産（オン・バランス）項目	1,538,964
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—
うち、上記以外に該当するものの額	—
オフ・バランス取引等項目	26,030
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	52,051
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—
マーケット・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	—
オペレーションナル・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	97,329
フロア調整額	540,079
リスク・アセット等の額の合計額（二）	2,254,454
連結自己資本比率	
連結自己資本比率（（ハ）／（二））	10.31%

(注) 2024年3月期から、バーゼルⅢ最終化を適用しております。

# 自己資本の構成に関する開示事項（単体情報）

## 一.自己資本の構成に関する事項

(前年度)

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
<b>コア資本に係る基礎項目（1）</b>	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	229,857
うち、資本金及び資本剰余金の額	84,095
うち、利益剰余金の額	148,209
うち、自己株式の額（△）	789
うち、社外流出予定額（△）	1,657
うち、上記以外に該当するものの額	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	8
<b>コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額</b>	—
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	—
うち、適格引当金コア資本算入額	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	563
<b>コア資本に係る基礎項目の額</b> (イ)	230,428
<b>コア資本に係る基礎項目（2）</b>	
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	3,387
うち、のれんに係るものの額	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	3,387
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—
<b>適格引当金不足額</b>	11,843
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—
<b>前払年金費用の額</b>	6,590
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—
<b>特定項目に係る十パーセント基準超過額</b>	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
<b>特定項目に係る十五パーセント基準超過額</b>	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—
<b>コア資本に係る調整項目の額</b> (口)	21,821
<b>自己資本</b>	
<b>自己資本の額（(イ) - (口)）</b> (ハ)	208,607
<b>リスク・アセット等（3）</b>	
<b>信用リスク・アセットの額の合計額</b>	1,771,733
<b>資産（オン・バランス）項目</b>	1,720,947
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—
うち、上記以外に該当する者の額	—
オフ・バランス取引等項目	30,866
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	19,807
中央清算機関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	111
マーケット・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	—
オペレーションル・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額	91,109
<b>信用リスク・アセット調整額</b>	461,400
オペレーションル・リスク相当額調整額	—
<b>リスク・アセット等の額の合計額</b> (二)	2,324,243
<b>自己資本比率</b>	
<b>自己資本比率（(ハ) / (二)）</b>	8.97%

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的な開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(単体情報)

# 自己資本の構成に関する開示事項（単体情報）

(今年度)

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
<b>コア資本に係る基礎項目 (1)</b>	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	237,659
うち、資本金及び資本剰余金の額	84,095
うち、利益剰余金の額	156,342
うち、自己株式の額 (△)	790
うち、社外流出予定額 (△)	1,988
うち、上記以外に該当するものの額	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	8
<b>コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額</b>	—
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	—
うち、適格引当金コア資本算入額	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—
<b>コア資本に係る基礎項目の額 (イ)</b>	237,667
<b>コア資本に係る基礎項目 (2)</b>	
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。) の額の合計額	3,709
うち、のれんに係るものの額	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	3,709
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。) の額	—
適格引当金不足額	9,106
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—
前払年金費用の額	7,220
自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。) の額	1
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—
<b>特定項目に係る十パーセント基準超過額</b>	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。) に関連するものの額	—
<b>特定項目に係る十五パーセント基準超過額</b>	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。) に関連するものの額	—
<b>コア資本に係る調整項目の額 (口)</b>	20,037
<b>自己資本</b>	
<b>自己資本の額 ( (イ) - (口) ) (ハ)</b>	217,630
<b>リスク・アセット等 (3)</b>	
<b>信用リスク・アセットの額の合計額</b>	1,594,473
<b>資産 (オン・バランス) 項目</b>	1,517,447
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—
うち、上記以外に該当する者の額	—
<b>オフ・バランス取引等項目</b>	24,973
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	52,051
中央清算機関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—
<b>マーケット・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額</b>	—
<b>オペレーションナル・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得た額</b>	87,735
<b>フロア調整額</b>	515,753
<b>リスク・アセット等の額の合計額 (二)</b>	2,197,961
<b>自己資本比率</b>	
<b>自己資本比率 ( (ハ) / (二) )</b>	9.90%

(注) 2024年3月期から、バーゼルⅢ最終化を適用しております。

# 定量的な開示事項（連結情報）

一. その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

2023年度中間	2024年度中間
該当ありません	該当ありません

## 二. 自己資本の充実度に関する事項

### イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
標準的手法が適用されるエクスポージャー	1,625
内部格付手法の段階的適用資産	1,151
内部格付手法の適用除外資産	473
内部格付手法が適用されるエクspoージャー	177,944
事業法人等向け	128,138
事業法人向け（特定貸付債権を除く）	122,882
特定貸付債権	1,619
ソブリン向け	1,297
金融機関等向け	2,337
リテール向け	21,001
居住用不動産向け	16,128
適格リボルビング型リテール向け	235
その他リテール（事業性）向け	3,263
その他リテール（消費性）向け	1,374
株式等	2,136
うちPD/LGD方式適用部分	1,680
うちマーケット・ベース方式の簡易手法適用部分	456
うちマーケット・ベース方式の内部モデル手法適用部分	—
うちリスク・ウェイト100%を適用部分	—
みなし計算	10,352
ルック・スルー方式	10,107
マンデート方式	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—
フォールバック方式	244
購入債権	910
その他資産等	15,405
証券化エクspoージャー	—
CVAリスク相当額を8%で除した金額	1,584
中央清算機関等	—
合 計	181,154

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的  
(連結情報)  
開示事項

定量的  
(単体情報)  
開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

## 口.信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日	
	信用リスク・アセットの額	所要自己資本の額
<b>標準的手法が適用されるエクスポージャー</b>	41,121	1,671
内部格付手法の段階的適用資産	31,208	1,257
内部格付手法の適用除外資産	9,912	413
<b>内部格付手法が適用されるエクspoージャー</b>	1,523,873	161,000
事業法人等向け	1,075,381	106,047
事業法人向け（特定貸付債権を除く）	1,003,052	100,093
特定貸付債権	22,278	1,911
ソブリン向け	14,094	1,132
金融機関等向け	35,956	2,909
リテール向け	207,913	22,082
居住用不動産向け	153,204	15,318
適格リボルビング型リテール向け	2,674	333
その他リテール（事業性）向け	34,195	4,501
その他リテール（消費性）向け	17,838	1,929
株式等	49,041	3,923
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等	—	—
上記以外の株式等	49,041	3,923
みなし計算	107,872	8,323
ルック・スルー方式	104,872	8,083
マンデート方式	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—	—
フォールバック方式	3,000	240
購入債権	8,767	735
その他資産等	74,896	19,888
<b>証券化エクspoージャー</b>	—	—
CVAリスク相当額を8%で除して得た額（限定的なBA-CVA）	52,051	6,406
<b>中央清算機関等</b>	—	—
<b>合計</b>	1,617,046	169,077

#### ハ. オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額	7,446
うち粗利益配分手法	7,446

(注) オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額は「オペレーション・リスク相当額を8%で除して得た額」に8%を乗じた額で算出しております。

#### 二. 標準的計測手法による、オペレーション・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額及びオペレーション・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
オペレーション・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	97,329
オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額	7,786

(注) オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額は「オペレーション・リスク相当額を8%で除して得た額」に8%を乗じた額で算出しております。

#### ホ. BI・BICの額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
BIの額	64,886
BICの額	7,786

(注) オペレーション・リスク算出に使用するILMは自己資本比率告示第306条第1項第3号に基づき「1」を使用しております。

#### ヘ. リスク・アセットの合計額及び連結総所要自己資本額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日	2024年9月30日
リスク・アセットの合計額		2,254,454
連結総所要自己資本額	95,210	90,178

(注) 1. 総所要自己資本額は「リスク・アセットの合計額」に4%を乗じた額で算出しております。

2. 2023年9月期は、粗利益配分手法を採用しております。

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的  
(連結情報)  
開示事項

定量的  
(単体情報)  
開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

## 三. 信用リスクに関する事項

### イ. 信用リスクに関するエクスポートヤー及び延滞又はデフォルトしたエクスポートヤーの中間期末残高 (種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

	2023年9月30日					
	信用リスクエクスポートヤー中間期末残高					三月以上延滞又は デフォルトした エクスポートヤー
	貸出金等	債券	デリバティブ	その他	計	
標準的手法が適用されるエクスポートヤー	240	—	—	41,385	41,625	514
内部格付手法が適用されるエクスポートヤー	3,987,789	677,804	2,426	668,747	5,336,766	77,699
<b>種類別計</b>	<b>3,988,029</b>	<b>677,804</b>	<b>2,426</b>	<b>710,132</b>	<b>5,378,392</b>	<b>78,214</b>
国内計	3,988,029	677,804	2,426	690,436	5,358,696	78,214
国外計	—	—	—	19,696	19,696	—
<b>地域別計</b>	<b>3,988,029</b>	<b>677,804</b>	<b>2,426</b>	<b>710,132</b>	<b>5,378,392</b>	<b>78,214</b>
製造業	355,774	42,960	34	7,032	405,802	13,345
農業、林業	5,308	—	—	0	5,309	381
漁業	12	—	—	—	12	—
鉱業、採石業、砂利採取業	1,116	—	—	—	1,116	—
建設業	204,985	10,457	—	199	215,642	5,634
電気・ガス・熱供給・水道業	48,759	—	—	202	48,961	26
情報通信業	14,903	4,578	—	368	19,850	131
運輸業、郵便業	166,958	10,452	2	4,761	182,175	3,886
卸売業、小売業	314,393	5,764	12	4,953	325,123	10,440
金融業、保険業	173,850	92,961	—	91,605	358,418	—
不動産業、物品賃貸業	1,099,360	18,966	30	15,398	1,133,756	22,713
各種サービス業	370,563	9,434	14	2,024	382,036	9,062
国・地方公共団体	212,023	482,228	—	92,646	786,897	—
個人	1,019,779	—	—	667	1,020,447	12,043
その他	240	—	2,331	490,270	492,842	548
<b>業種別計</b>	<b>3,988,029</b>	<b>677,804</b>	<b>2,426</b>	<b>710,132</b>	<b>5,378,392</b>	<b>78,214</b>
1年以下	623,162	44,583	9	324,905	992,661	31,133
1年超3年以下	321,268	142,277	3	36,990	500,539	5,574
3年超5年以下	465,839	187,479	—	9,053	662,372	3,220
5年超7年以下	301,125	38,972	336	96,057	436,491	5,386
7年超10年以下	326,900	79,709	14	6,797	413,422	5,067
10年超	1,949,464	184,781	2,062	73,897	2,210,206	26,576
期間の定めのないもの	268	—	—	162,430	162,699	1,256
<b>残存期間別計</b>	<b>3,988,029</b>	<b>677,804</b>	<b>2,426</b>	<b>710,132</b>	<b>5,378,392</b>	<b>78,214</b>

- (注) 1. 「貸出金等」とは、貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引であります。  
 2. 「三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポートヤー」には、標準的手法を適用したエクスポートヤーのうち元本又は利息の支払が3ヶ月以上延滞しているもの、内部格付手法を適用したエクスポートヤーのうち与信先の債務者格付が「要管理先」以下のものを記載しております。  
 3. 中央清算機関連エクスポートヤーを含みません。

(種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

	2024年9月30日					
	信用リスクエクスポート中間期末残高					延滞又は デフォルトした エクスポート
	貸出金等	債券	デリバティブ	その他	計	
標準的手法が適用されるエクスポート	1,265	—	—	39,061	40,326	488
内部格付手法が適用されるエクスポート	4,060,452	742,885	318	586,828	5,390,485	76,865
<b>種類別計</b>	<b>4,061,717</b>	<b>742,885</b>	<b>318</b>	<b>625,889</b>	<b>5,430,811</b>	<b>77,354</b>
国内計	4,061,717	742,885	318	594,719	5,399,640	77,354
国外計	—	—	—	31,170	31,170	—
<b>地域別計</b>	<b>4,061,717</b>	<b>742,885</b>	<b>318</b>	<b>625,889</b>	<b>5,430,811</b>	<b>77,354</b>
製造業	370,757	40,611	61	6,322	417,753	9,329
農業、林業	4,836	—	—	0	4,837	302
漁業	11	—	—	—	11	—
鉱業、採石業、砂利採取業	996	—	—	—	996	39
建設業	215,677	10,891	—	217	226,785	6,602
電気・ガス・熱供給・水道業	47,102	298	—	448	47,849	25
情報通信業	13,931	4,953	—	370	19,255	328
運輸業、郵便業	167,837	13,841	2	1,989	183,671	3,441
卸売業、小売業	307,234	7,051	154	6,516	320,958	10,059
金融業、保険業	166,524	93,589	—	104,793	364,908	4
不動産業、物品賃貸業	1,122,827	15,842	81	12,592	1,151,344	20,391
各種サービス業	381,030	9,339	18	10,278	400,667	14,210
国・地方公共団体	209,390	546,465	—	81,392	837,247	—
個人	1,052,290	—	—	456	1,052,747	11,903
その他	1,265	—	—	400,510	401,775	716
<b>業種別計</b>	<b>4,061,717</b>	<b>742,885</b>	<b>318</b>	<b>625,889</b>	<b>5,430,811</b>	<b>77,354</b>
1年以下	638,201	46,759	129	235,620	920,711	31,580
1年超3年以下	334,781	159,318	26	16,990	511,117	4,946
3年超5年以下	439,083	162,596	36	41,180	642,897	2,778
5年超7年以下	337,543	66,303	—	86,146	489,993	8,687
7年超10年以下	305,880	73,208	69	15,760	394,919	3,096
10年超	2,005,994	234,699	55	84,485	2,325,235	25,477
期間の定めのないもの	232	—	—	145,705	145,937	788
<b>残存期間別計</b>	<b>4,061,717</b>	<b>742,885</b>	<b>318</b>	<b>625,889</b>	<b>5,430,811</b>	<b>77,354</b>

(注) 1. 「貸出金等」とは、貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引であります。

2. 「延滞又はデフォルトしたエクスポート」には、標準的手法を適用したエクスポートのうち、自己資本比率告示第71条及び第72条に規定するエクスポート並びに内部格付手法を適用したエクスポートのうち与信先の債務者格付が「要管理先」以下のものを記載しております。

3. 中央清算機関連エクスポートを含みません。

**口. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中増減額**

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	期首残高	期中増減額	中間期末残高	期首残高	期中増減額	中間期末残高
一般貸倒引当金	11,317	△479	10,838	8,289	△259	8,029
個別貸倒引当金	8,439	△450	7,988	8,797	△1,281	7,516
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—
合計	19,756	△929	18,826	17,086	△1,540	15,545

自己資本の構成  
に関する開示事項定量的  
(連結)  
な開示事項定量的  
(単体)  
な開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	期首残高	期中増減額	中間期末残高	期首残高	期中増減額	中間期末残高
国内計	8,439	△450	7,988	8,797	△1,281	7,516
国外計	—	—	—	—	—	—
<b>地域別計</b>	<b>8,439</b>	<b>△450</b>	<b>7,988</b>	<b>8,797</b>	<b>△1,281</b>	<b>7,516</b>
製造業	2,276	56	2,333	3,428	△2,567	860
農業、林業	16	35	51	0	0	0
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	427	△16	410	319	46	366
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—
情報通信業	3	△0	3	0	133	134
運輸業、郵便業	127	357	484	136	109	245
卸売業、小売業	735	△427	308	262	88	351
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—
不動産業、物品賃貸業	1,432	△146	1,286	1,241	929	2,171
各種サービス業	335	△31	303	820	77	898
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人	92	△23	68	112	△41	71
その他	2,992	△255	2,736	2,474	△57	2,416
<b>業種別計</b>	<b>8,439</b>	<b>△450</b>	<b>7,988</b>	<b>8,797</b>	<b>△1,281</b>	<b>7,516</b>

## ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
製造業	149	539
農業、林業	295	114
漁業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建設業	150	683
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	9
運輸業、郵便業	91	239
卸売業、小売業	765	295
金融業、保険業	—	—
不動産業、物品賃貸業	1,110	446
各種サービス業	116	362
国・地方公共団体	—	—
個人	94	654
その他	692	703
<b>業種別計</b>	<b>3,468</b>	<b>4,048</b>

二. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについてリスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高並びに1250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2023年9月30日	
	格付有り	格付無し
0%	—	0
10%	—	—
20%	0	2,889
35%	—	—
50%	—	—
75%	—	120
100%	—	37,957
150%	—	514
250%	—	141
1250%	—	—
合 計	0	41,624

(注) 1. 格付有無は、元のエクスポージャー又は債務者の格付の有無で分類しておりますが、「格付有り」には、ソブリン格付を参照したものも含みます。  
2. 中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

	2024年9月30日	
	格付有り	格付無し
0%	—	—
10%	—	—
20%	—	—
35%	—	—
50%	—	—
75%	—	—
100%	—	—
150%	—	—
250%	—	—
1250%	—	—
合 計	—	—

ホ. 標準的手法が適用されるエクspoージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクspoージャーについて、ポートフォリオの区分ごとのエクspoージャーの額並びに信用リスク・アセットの額

(単位：百万円)

	2024年9月30日					
	CCF・信用リスク削減手法 適用前エクspoージャー		CCF・信用リスク削減手法 適用後エクspoージャー		信用リスク・ アセットの額	リスク・ウェイト の加重平均値
	オン・バランス	オフ・バランス	オン・バランス	オフ・バランス		
ソブリン向け	5	—	5	—	—	—
金融機関等向け	286	—	286	—	57	19.99%
法人等向け	30,813	—	30,813	—	30,813	100.00%
中堅中小企業等向け及び個人向け	6,150	10,564	6,150	1,056	7,206	100.00%
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
延滞等	488	—	488	—	733	150.00%
その他	1,525	—	1,525	—	1,525	99.99%
合 計	39,270	10,564	39,270	1,056	40,336	100.02%

(注) 1. 「リスク・ウェイトの加重平均値」とは、「信用リスク・アセットの額」を「CCF・信用リスク削減手法適用後エクspoージャー」の「オン・バランス」の額と「オフ・バランス」の額の合計額で除して算出しております。  
2. 「ソブリン向け」とは、「日本国政府及び日本銀行向け」、「外国の中央政府及び中央銀行向け」、「国際決済銀行向け」、「我が国的地方公共団体向け」、「外国の中央政府等以外の公共部門向け」、「地方公共団体金融機関向け」、「我が国の政府関係機関向け」、「地方三公社向け」、「国際開発銀行向け」のエクspoージャーであります。  
3. 「金融機関等向け」とは、「金融機関向け」、「第一種金融商品取引業者向け」、「保険会社向け」のエクspoージャーであります。  
4. 「不動産関連向け」とは、「自己居住用不動産等向け」、「賃貸用不動産向け」、「事業用不動産関連」、「その他不動産関連」、「ADC向け」のエクspoージャーであります。  
5. 「その他」とは、「株式等」、「取立未済手形」等のエクspoージャーであります。

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的  
(連結)  
開示事項

定量的  
(単体)  
開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

ヘ. 標準的手法が適用されるエクスポージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクスポージャーについて、ポートフォリオの区分ごとのエクスポージャーの額並びにリスク・ウェイトの内訳

(単位：百万円)

	2024年9月30日								
	40%未満	40%以上75%未満	75%以上100%未満	100%以上150%未満	150%以上250%未満	250%以上400%未満	400%以上1250%未満	1250%	合計
ソブリン向け	5	—	—	—	—	—	—	—	5
金融機関等向け	286	—	—	—	—	—	—	—	286
法人等向け	—	—	—	30,813	—	—	—	—	30,813
中堅中小企業等向け 及び個人向け	—	—	—	7,206	—	—	—	—	7,206
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等	—	—	—	—	488	—	—	—	488
その他	—	—	—	1,525	—	—	—	—	1,525
合 計	292	—	—	39,545	488	—	—	—	40,326

(注) 1. 「ソブリン向け」とは、「日本国政府及び日本銀行向け」、「外国の中央政府及び中央銀行向け」、「国際決済銀行向け」、「我が国的地方公共団体向け」、「外国の中央政府等以外の公共部門向け」、「地方公共団体金融機関向け」、「我が国の中の政府関係機関向け」、「地方三公社向け」、「国際開発銀行向け」のエクスポージャーであります。

2. 「金融機関等向け」とは、「金融機関向け」、「第一種金融商品取引業者向け」、「保険会社向け」のエクspoージャーであります。

3. 「不動産関連向け」とは、「自己居住用不動産等向け」、「賃貸用不動産向け」、「事業用不動産関連」、「その他不動産関連」、「ADC向け」のエクspoージャーであります。

4. 「その他」とは、「株式等」、「取立未済手形」等のエクspoージャーであります。

ト. 標準的手法が適用されるエクspoージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクspoージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとのエクspoージャーの額

(単位：百万円)

	2024年9月30日				
	CCF・信用リスク削減手法適用前エクspoージャー		CCF加重平均値	CCF・信用リスク削減手法適用後エクspoージャー	
	オン・バランス	オフ・バランス			
40%未満	292	—	—	—	292
40%以上75%未満	—	—	—	—	—
75%以上100%未満	—	—	—	—	—
100%以上150%未満	38,489	10,564	10.00%	39,545	
150%以上250%未満	488	—	—	488	
250%以上400%未満	—	—	—	—	
400%以上1250%未満	—	—	—	—	
1250%	—	—	—	—	
合 計	39,270	10,564	10.00%	40,326	

チ. 内部格付手法が適用されるエクspoージャーのうち、スロッティング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイトの区分ごとの残高

(1) プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付

(単位：百万円)

スロッティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
優	2.5年未満	50%	3,246	2,120
	2.5年以上	70%	23,026	28,600
良	2.5年未満	70%	—	—
	2.5年以上	90%	137	1,036
可	—	115%	91	229
弱い	—	250%	—	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計			26,501	31,987

(注) 「スロッティング・クライテリア」とは、告示第153条に規定された5つのランク（優、良、可、弱い、デフォルト）のことです。

## (2) ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付

(単位：百万円)

スロッティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
優	2.5年未満	70%	—	—
	2.5年以上	95%	—	—
良	2.5年未満	95%	—	—
	2.5年以上	120%	—	—
可	—	140%	—	—
弱い	—	250%	—	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計			—	—

(注) 「スロッティング・クライテリア」とは、告示第153条に規定された5つのランク（優、良、可、弱い、デフォルト）のことです。

## リ. 内部格付手法が適用されるエクスポートージャーのうち、マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポートージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高

(単位：百万円)

上場／非上場	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
上場	300%	1,085	—
非上場	400%	530	—
合 計		1,615	—

(注) 「マーケット・ベース方式の簡易手法」とは、上場株式については300%、非上場株式については400%のリスク・ウェイトを乗じた額をリスク・アセットの額とする手法です。

## ヌ. 内部格付手法が適用されるポートフォリオについての事項

## (1) 事業法人向け、ソブリン向け、金融機関等向けエクスポートージャーに係る債務者格付ごとのパラメータ、リスク・ウェイト等

(単位：百万円)

2023年9月30日						
債務者格付	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポートージャー		2.92%	42.23%	46.24%	2,457,320	28,225
上位格付	正常先	0.16%	43.24%	29.63%	1,465,466	24,876
中位格付	正常先	0.80%	40.45%	73.91%	831,583	2,588
下位格付	要注意先	7.21%	41.03%	86.00%	104,480	760
デフォルト	要管理先以下	100.00%	44.30%	1.40%	55,790	—
ソブリン向けエクスポートージャー		0.00%	44.99%	1.18%	1,200,648	87,776
上位格付	正常先	0.00%	44.99%	1.18%	1,199,620	84,776
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	6.73%	45.00%	—	1,028	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポートージャー		0.04%	38.97%	23.09%	80,474	36,184
上位格付	正常先	0.04%	38.96%	23.06%	80,374	36,184
中位格付	正常先	0.84%	45.00%	67.75%	100	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポートージャー		0.06%	90.00%	110.35%	17,889	—
上位格付	正常先	0.03%	90.00%	108.70%	17,733	—
中位格付	正常先	0.70%	90.00%	220.27%	70	—
下位格付	要注意先	5.19%	90.00%	363.22%	85	—
デフォルト	要管理先以下	100.00%	90.00%	—	—	—

(注) 1. 「上位格付」とは格付区分S～B～、「中位格付」とは格付区分C～D～、「下位格付」とは格付区分E～E～、「デフォルト」とは格付区分F～Z～です。

2. 特定貸付債権、購入債権は含んでいません。

3. リスク・ウェイト加重平均値はスケーリング・ファクター（自己資本比率告示第152条において規定された乗数=1.06）を乗じた後の信用リスク・アセットの額をもとに算出しております。

4. EADはエクスポートージャー額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。

5. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛け）適用後のエクスポートージャーを使用しております。

6. PD/LGD方式適用の株式等エクスポートージャーのリスク・ウェイト加重平均値は期待損失額に12.5を乗じた額を加算したリスク・ウェイトをもとに算出しております。

自己資本の構成に関する開示事項

定量的（連結情報）開示事項

定量的（単体情報）開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

(単位：百万円)

2024年9月30日						
債務者格付	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポート		2.81%	35.91%	39.30%	2,533,686	18,466
上位格付	正常先	0.17%	37.72%	28.15%	1,535,499	15,902
中位格付	正常先	0.81%	32.61%	59.07%	852,349	2,257
下位格付	要注意先	6.86%	35.15%	67.09%	89,950	289
デフォルト	要管理先以下	100.00%	37.41%	1.58%	55,887	16
ソブリン向けエクスポート		0.00%	44.99%	1.13%	1,168,851	74,321
上位格付	正常先	0.00%	44.99%	1.13%	1,167,890	74,321
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	6.59%	45.00%	—	961	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポート		0.05%	42.84%	25.25%	84,301	57,080
上位格付	正常先	0.05%	42.84%	25.25%	84,301	57,079
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	5.18%	45.00%	133.72%	0	1
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—

- (注) 1. 「上位格付」とは格付区分S～B-、「中位格付」とは格付区分C+～D、「下位格付」とは格付区分E～E-、「デフォルト」とは格付区分F～Zです。  
 2. 特定貸付債権、購入債権は含んでいません。  
 3. EADはエクスポート額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。  
 4. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛目）適用後のエクスポートを使用しております。

(2) 居住用不動産向け、適格リボルビング型リテール及びその他リテール向けエクスポートに係るプール区分別パラメータ等

(単位：百万円)

プール区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント 未引出し額	掛目加重平均値
					オン・バランス	オフ・バランス		
居住用不動産向け エクスポート	1.84%	20.79%	—	16.08%	940,683	—	—	—
非延滞先	0.52%	20.78%	—	15.72%	927,495	—	—	—
延滞先	33.75%	21.26%	—	105.57%	1,095	—	—	—
デフォルト	100.00%	21.47%	18.66%	34.98%	12,092	—	—	—
適格リボルビング型 リテール向け エクスポート	1.70%	45.81%	—	15.58%	4,175	7,247	11,465	63.21%
非延滞先	1.01%	45.72%	—	14.98%	4,074	7,233	11,443	63.21%
延滞先	34.91%	55.05%	—	137.40%	52	2	3	61.96%
デフォルト	100.00%	53.31%	51.59%	17.68%	48	12	19	63.60%
その他リテール向け エクスポート (事業性)	5.91%	21.18%	—	10.56%	220,047	5,275	9,430	54.73%
非延滞先	1.16%	21.06%	—	10.87%	209,021	5,268	9,426	54.73%
延滞先	47.36%	25.46%	—	16.86%	380	1	3	54.73%
デフォルト	100.00%	23.46%	23.33%	3.93%	10,644	4	1	54.73%
その他リテール向け エクスポート (消費性)	2.46%	24.13%	—	18.86%	65,299	794	2,439	32.56%
非延滞先	0.71%	24.20%	—	19.16%	64,112	791	2,431	32.56%
延滞先	39.33%	34.96%	—	61.47%	37	—	—	—
デフォルト	100.00%	19.71%	19.71%	0.94%	1,149	2	8	32.56%

- (注) 1. 「ELdefault」とは、デフォルトしたエクスポートに生じうる期待損失のことです。  
 2. リスク・ウェイト加重平均値はスケーリング・ファクター（自己資本比率告示第152条において規定された乗数=1.06）を乗じた後の信用リスク・アセットの額をもとに算出しております。  
 3. EADはエクスポート額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。  
 4. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛目）適用後のエクスポートを使用しております。

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的な開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(単体情報)

(単位：百万円)

プール区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント 未引出し額	
					オン・バランス	オフ・バランス	掛目加重平均値	
居住用不動産向け エクスポージャー	1.76%	20.57%	—	15.72%	974,574	—	—	—
非延滞先	0.51%	20.56%	—	15.28%	961,806	—	—	—
	34.22%	20.53%	—	106.56%	881	—	—	—
	100.00%	21.14%	17.57%	44.30%	11,887	—	—	—
適格リボルビング型 リテール向け エクspoージャー	2.60%	65.39%	—	32.82%	4,282	3,865	10,549	33.25%
非延滞先	1.52%	65.34%	—	30.48%	4,148	3,850	10,518	33.25%
	35.30%	68.57%	—	191.32%	82	7	11	31.03%
	100.00%	68.09%	55.00%	109.66%	51	7	20	32.25%
その他リテール向け エクspoージャー (事業性)	6.20%	30.38%	—	15.51%	218,921	1,503	9,241	11.32%
非延滞先	1.20%	30.32%	—	15.77%	207,452	1,495	9,233	11.32%
	48.86%	31.65%	—	23.41%	586	3	1	11.32%
	100.00%	31.36%	22.78%	10.02%	10,881	4	6	11.32%
その他リテール向け エクspoージャー (消費性)	2.53%	33.31%	—	26.56%	66,383	776	2,363	16.18%
非延滞先	0.71%	33.36%	—	26.90%	65,080	772	2,355	16.18%
	39.40%	35.36%	—	72.02%	130	—	—	—
	100.00%	30.68%	19.61%	2.13%	1,172	3	8	16.18%

(注) 1. 「Eldefault」とは、デフォルトしたエクspoージャーに生じうる期待損失のことです。  
2. EADはエクspoージャー額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。  
3. オフ・バランス項目のEADIはCCF(掛目)適用後のエクspoージャーを使用しております。

## ル. 内部格付手法を適用するエクspoージャーごとの直前期における損失の実績値及び当該実績値と過去の実績値の対比並びに要因分析

(単位：百万円)

区分	2023年9月30日	2024年9月30日
事業法人向け	13,458	10,831
ソブリン向け	—	—
金融機関等向け	—	—
PD/LGD方式を適用する株式等	—	—
居住用不動産向け	2,798	2,359
適格リボルビング型リテール向け	26	10
その他リテール向け	1,755	1,938
合 計	18,039	15,139

(注) 1. 損失額の定義は以下の合計額であります。  
・過去1年間に生じた直接償却額及び貸出債権売却損失額  
・部分直接償却額、個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の期末時点残高  
2. 価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却は含めておりません。

### 〈要因分析〉

事業法人向けエクspoージャーにおける引当金の減少を主因に、損失額の実績値は前年度比減少しました。

# 定量的な開示事項（連結情報）

## ヲ. 内部格付手法を適用するエクスポートヤーごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

2023年9月30日			
区分	損失額の実績値（A）	損失額の推計値（B）	対比（A）－（B）
事業法人向け	13,458	26,894	△13,436
ソブリン向け	—	5	△5
金融機関等向け	—	20	△20
PD/LGD方式を適用する株式等	—	3	△3
居住用不動産向け	2,798	3,655	△856
適格リボルビング型リテール向け	26	91	△65
その他リテール向け	1,755	1,702	52
合 計	18,039	32,372	△14,333

(単位：百万円)

2024年9月30日			
区分	損失額の実績値（A）	損失額の推計値（B）	対比（A）－（B）
事業法人向け	10,831	25,502	△14,670
ソブリン向け	—	5	△5
金融機関等向け	—	19	△19
居住用不動産向け	2,359	3,301	△942
適格リボルビング型リテール向け	10	84	△74
その他リテール向け	1,938	1,562	375
合 計	15,139	30,475	△15,336

## 四. 信用リスク削減手法に関する事項

### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポートヤー

(単位：百万円)

	2023年9月30日			
	適格金融 資産担保	適格資産 担保	適格保証	クレジット・ デリバティブ
標準的手法適用部分	—	—	—	—
内部格付手法適用部分	32,398	627,925	287,319	—
事業法人向け	16,771	627,427	192,112	—
ソブリン向け	—	497	5,799	—
金融機関等向け	15,627	—	—	—
居住用不動産向け	—	—	678	—
適格リボルビング型リテール向け	—	—	1,398	—
その他リテール向け	—	—	87,330	—
合 計	32,398	627,925	287,319	—

(注) 1. 適格金融資産担保とは、現預金、債券、上場株式等です。

2. 適格資産担保とは、法的に有効な不動産担保等です。

3. 信用リスク削減手法が適用される前のエクスポートヤー区分ごとに記載しております。

(単位：百万円)

	2024年9月30日			
	適格金融 資産担保	適格資産 担保	適格保証	クレジット・ デリバティブ
標準的手法適用部分	—	—	—	—
内部格付手法適用部分	20,869	572,933	268,445	—
事業法人向け	14,108	572,597	172,868	—
ソブリン向け	—	336	8,194	—
金融機関等向け	6,760	—	—	—
居住用不動産向け	—	—	955	—
適格リボルビング型リテール向け	—	—	704	—
その他リテール向け	—	—	85,721	—
合 計	20,869	572,933	268,445	—

(注) 1. 適格金融資産担保とは、現預金、債券、上場株式等です。

2. 適格資産担保とは、法的に有効な不動産担保等です。

3. 信用リスク削減手法が適用される前のエクスポートヤー区分ごとに記載しております。

## 五. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

### イ. 与信相当額の算出に用いる方式

先渡、スワップ、オプションその他の派生商品取引及び長期決済期間取引の与信相当額は、SA-CCRにて算出しております。

### ロ. グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る。）の合計額

(単位：百万円)

2023年9月30日	2024年9月30日
11,826	14,366

### ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

(派生商品取引にあっては、取引の区分ごとの与信相当額を含む。)

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	与信相当額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
外国為替関連取引及び金関連取引	1,769	
金利関連取引	18,039	
株式関連取引	823	
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	
その他のコモディティ取引	209	
派生商品取引	20,841	
クレジット・デリバティブ	340	
合 計	21,181	

### ニ. ロ.に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額からハ.に掲げる額を差し引いた額

該当ありません。

### ホ. 担保の種類別の額

該当ありません。

### ヘ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	与信相当額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
外国為替関連取引及び金関連取引	1,769	9,172
金利関連取引	18,039	29,707
株式関連取引	823	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ取引	209	—
派生商品取引	20,841	38,879
クレジット・デリバティブ	340	522
合 計	21,181	39,402

### ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、プロ

テクションの購入又は提供の別に区分した額

該当ありません。

### チ. 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

## 六. 証券化エクスポージャーに関する事項

### イ. 連結グループがオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

当行グループは、オリジネーターとして証券化を実施していないことから、定量的な開示事項はありません。

### ロ. 連結グループが投資家である証券化エクスポージャーに関する次に掲げる事項

当行グループは、投資家として証券化エクスポージャーを保有していないことから、定量的な開示事項はありません。

# 定量的な開示事項（連結情報）

## 七. CVAリスクに関する事項

(単位：百万円)

	2024年9月30日	
	構成要素の額	CVAリスク相当額を8%で除して得た額
CVAリスクのうち取引先共通の要素	10,636	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	4,124	
合 計		52,051

(注) 1. 「CVAリスクのうち取引先共通の要素」とは、自己資本比率告示第270条の3の3に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合における $K_{\text{reduced}}$ の算式において、 $\rho$ を1と仮定した場合に算出される $K_{\text{reduced}}$ の値であります。

2. 「CVAリスクのうち取引先固有の要素」とは、自己資本比率告示第270条の3の3に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合における $K_{\text{reduced}}$ の算式において、 $\rho$ を0と仮定した場合に算出される $K_{\text{reduced}}$ の値であります。

## 八. 出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

### イ. 中間連結貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中間連結貸借対照表計上額

#### (1) 出資等又は株式等エクスポージャー

(単位：百万円)

	中間連結貸借対照表計上額		時 価	
	2023年9月30日	2024年9月30日	2023年9月30日	2024年9月30日
上場している出資等又は株式等エクスポージャーの中間連結貸借対照表計上額	49,500	57,058		
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャーの中間連結貸借対照表計上額	1,676	1,661		
合 計	51,177	58,720	51,177	58,720

#### (2) 子会社及び関連会社株式等

(単位：百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
子会社・子法人等	—	—
関連法人等	119	125
合 計	119	125

### ロ. 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	2023年度中間		2024年度中間	
	2023年度中間	2024年度中間	2023年度中間	2024年度中間
売却損益		197		416
償却額		0		0

### ハ. 中間連結貸借対照表で認識され、かつ、中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

2023年9月30日	2024年9月30日
31,687	39,118

### 二. 中間連結貸借対照表及び中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ありません。

### ホ. 株式等エクスポージャーのポートフォリオの区分ごとの額

(単位：百万円)

	2023年9月30日
PD/LGD方式が適用される株式等エクspoージャー	17,889
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用されるエクspoージャー	1,615
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用されるエクspoージャー	—
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクspoージャー	—
合 計	19,505

(単位：百万円)

	2024年9月30日
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等	—
上記以外の株式等	19,616
合 計	19,616

## 九. リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの区分ごとの額

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
ルック・スルー方式	108,441	114,540
マンデート方式	—	—
蓋然性方式（250%）	—	—
蓋然性方式（400%）	—	—
フォールバック方式	244	240
合 計	108,685	114,780

- (注) 1. 「ルック・スルー方式」とは、当該エクスポージャーの裏付となる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げ信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。  
 2. 「マンデート方式」とは、当該エクspoージャーの運用基準（マンデート）に基づき、資産構成を保守的に想定して信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。  
 3. 「蓋然性方式（250%）」とは、当該エクspoージャーのリスク・ウェイトが250%以下である蓋然性が高いことを疎明した場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。  
 4. 「蓋然性方式（400%）」とは、当該エクspoージャーのリスク・ウェイトが400%以下である蓋然性が高いことを疎明した場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。  
 5. 「フォールバック方式」とは、上記1. 2. 3. 4. の方式が適用できない場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。

## 十. 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

### IRRBB1：金利リスク

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当中間期末	前中間期末	当中間期末	前中間期末
1	上方パラレルシフト	3,643	6,683	14	1,111
2	下方パラレルシフト	5,568	0	1,968	84
3	スティープ化	6,044	6,950		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	6,044	6,950	1,968	1,111
		ホ		ヘ	
		当中間期末		前中間期末	
8	自己資本の額		232,522		223,259

(注) 金利リスクは銀行単体のみを対象としております。

自己資本の構成  
に関する開示事項

定量的  
(連結)  
連続情報  
開示事項

定量的  
(単体)  
開示事項

# 定量的な開示事項（連結情報）

## 十一. 内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項

### イ. 信用リスクに関する事項

(単位:百万円)

	2024年9月30日			
	内部格付手法適用分の 信用リスク・アセットの額	内部格付手法適用分の 信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出 した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出 した信用リスク・アセット の額（フロア掛目前）
事業法人向けエクスポート	1,003,052	1,944,128	1,034,571	1,975,646
ソブリン向けエクスポート	14,094	11,574	14,094	11,574
金融機関等向けエクスポート	35,956	40,402	36,013	40,459
居住用不動産向けエクスポート	153,204	476,124	153,204	476,124
適格リボルビング型リテール向 けエクスポート	2,674	4,029	2,674	4,029
その他リテール向けエクスポート	52,033	164,594	59,268	171,829
株式等エクスポート	49,041	19,616	49,041	19,616
特定貸付債権	22,278	31,510	22,278	31,510
購入債権	8,767	12,160	8,767	12,160
合 計	1,341,104	2,704,140	1,379,914	2,742,951

### ロ. 証券化エクスポートに関する事項

当行グループでは、該当する取引はございません。

# 定量的な開示事項（単体情報）

## 一. 自己資本の充実度に関する事項

### イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
<b>標準的手法が適用されるエクスポージャー</b>	200
内部格付手法の段階的適用資産	—
内部格付手法の適用除外資産	200
<b>内部格付手法が適用されるエクスポージャー</b>	180,015
事業法人等向け	128,462
事業法人向け（特定貸付債権を除く）	123,207
特定貸付債権	1,619
ソブリン向け	1,297
金融機関等向け	2,337
リテール向け	20,848
居住用不動産向け	15,983
適格リボルビング型リテール向け	235
その他リテール（事業性）向け	3,263
その他リテール（消費性）向け	1,366
株式等	3,107
うちPD/LGD方式適用部分	2,487
うちマーケット・ベース方式の簡易手法適用部分	619
うちマーケット・ベース方式の内部モデル手法適用部分	—
うちリスク・ウェイト100%を適用部分	—
みなし計算	10,352
ルック・スルー方式	10,107
マンデート方式	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—
フォールバック方式	244
購入債権	910
その他資産等	16,333
<b>証券化エクスポージャー</b>	—
<b>CVAリスク相当額を8%で除した金額</b>	1,584
<b>中央清算機関等</b>	—
<b>合計</b>	181,799

自己資本の構成に  
関する開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(単体情報)

# 定量的な開示事項（単体情報）

## 口. 信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日	
	信用リスク・アセットの額	所要自己資本の額
<b>標準的手法が適用されるエクスポージャー</b>	2,168	86
内部格付手法の段階的適用資産	—	—
内部格付手法の適用除外資産	2,168	86
<b>内部格付手法が適用されるエクスポージャー</b>	1,540,253	159,249
事業法人等向け	1,078,687	106,315
事業法人向け（特定貸付債権を除く）	1,006,358	100,362
特定貸付債権	22,278	1,911
ソブリン向け	14,094	1,132
金融機関等向け	35,956	2,909
リテール向け	207,694	21,965
居住用不動産向け	152,986	15,214
適格リボルビング型リテール向け	2,674	333
その他リテール（事業性）向け	34,195	4,501
その他リテール（消費性）向け	17,838	1,916
株式等	63,988	5,119
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等	—	—
上記以外の株式等	63,988	5,119
みなし計算	107,872	8,323
ルック・スルー方式	104,872	8,083
マンデート方式	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—	—
フォールバック方式	3,000	240
購入債権	8,767	735
その他資産等	73,242	16,790
<b>証券化エクスポージャー</b>	—	—
CVAリスク相当額を8%で除して得た額（限定的なBA-CVA）	52,051	6,406
<b>中央清算機関等</b>	—	—
<b>合計</b>	<b>1,594,473</b>	<b>165,742</b>

#### ハ. オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日
オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額	7,288
うち粗利益配分手法	7,288

(注) オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額は「オペレーション・リスク相当額を8%で除して得た額」に8%を乗じた額で算出しております。

#### 二. 標準的計測手法による、オペレーション・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額及びオペレーション・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
オペレーション・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	87,735
オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額	7,018

(注) オペレーション・リスクに対する所要自己資本の額は「オペレーション・リスク相当額を8%で除して得た額」に8%を乗じた額で算出しております。

#### ホ. BI・BICの額

(単位：百万円)

項目	2024年9月30日
B Iの額	58,490
B I Cの額	7,018

(注) オペレーション・リスク算出に使用するILMは自己資本比率告示第306条第1項第3号に基づき「1」を使用しております。

#### ヘ. リスク・アセットの合計額及び単体総所要自己資本額

(単位：百万円)

項目	2023年9月30日	2024年9月30日
リスク・アセットの合計額		2,197,961
単体総所要自己資本額	92,969	87,918

(注) 1. 総所要自己資本額は「リスク・アセットの合計額」に4%を乗じた額で算出しております。

2. 2023年9月期は、粗利益配分手法を採用しております。

自己資本の構成に  
関する開示事項  
(連結情報)

定量的開示事項  
(連結情報)

定量的開示事項  
(単体情報)

## 定量的な開示事項（単体情報）

## 二. 信用リスクに関する事項

#### イ. 信用リスクに関するエクスポージャー及び延滞又はデフォルトしたエクspoージャーの中間期末残高(種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

	2023年9月30日						三ヶ月以上延滞又は デフォルトした エクスポートジャー	
	信用リスクエクスポートジャー中間期末残高					計		
	貸出金等	債券	デリバティブ	その他				
標準的手法が適用されるエクスポートジャー	—	—	—	7,066	7,066	271	三ヶ月以上延滞又は デフォルトした エクスポートジャー	
	内部格付手法が適用されるエクスポートジャー	3,999,501	676,309	2,426	669,721	5,347,958	76,970	
<b>種類別計</b>	3,999,501	676,309	2,426	676,788	5,355,024	77,242		
国内計	3,999,501	676,309	2,426	657,139	5,335,376	77,242		
国外計	—	—	—	19,648	19,648	—		
<b>地域別計</b>	3,999,501	676,309	2,426	676,788	5,355,024	77,242		
製造業	355,774	42,960	34	7,032	405,801	13,345		
農業、林業	5,308	—	—	0	5,309	381		
漁業	12	—	—	—	—	12	—	
鉱業、採石業、砂利採取業	1,116	—	—	—	—	1,116	—	
建設業	204,983	10,457	—	196	215,637	5,629		
電気・ガス・熱供給・水道業	48,759	—	—	202	48,961	26		
情報通信業	14,903	4,578	—	727	20,208	131		
運輸業、郵便業	166,958	10,452	2	4,761	182,175	3,886		
卸売業、小売業	314,393	5,764	12	4,953	325,123	10,440		
金融業、保険業	174,652	92,961	—	96,003	363,617	—		
不動産業、物品賃貸業	1,110,297	18,966	30	16,668	1,145,964	22,713		
各種サービス業	370,563	9,434	14	2,192	382,203	9,054		
国・地方公共団体	212,023	480,733	—	89,146	781,903	—		
個人	1,019,754	—	—	—	1,019,754	11,350		
その他	—	—	2,331	454,903	457,234	282		
<b>業種別計</b>	3,999,501	676,309	2,426	676,788	5,355,024	77,242		
1年以下	632,517	44,583	9	324,766	1,001,877	31,133		
1年超3年以下	322,793	142,277	3	36,990	502,063	5,574		
3年超5年以下	466,189	186,980	—	8,053	661,223	3,220		
5年超7年以下	301,125	38,972	336	95,054	435,489	5,386		
7年超10年以下	327,410	78,713	14	5,301	411,440	5,067		
10年超	1,949,464	184,781	2,062	73,897	2,210,206	26,576		
期間の定めのないもの	—	—	—	132,724	132,724	284		
<b>残存期間別計</b>	3,999,501	676,309	2,426	676,788	5,355,024	77,242		

(注) 1 「貸出金等」とは、貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引であります。

1. 「貴山立等」ことは、貴山立、ゴーベンスン、及び他の他のアーティストやアクトのファンへの貢献にあります。

「二以上述文部省はノオルトのエヌヌル・ノウルト」には、係官の方法と適用したエヌヌル・ノウルトのノウルト本文部省は別途、支拂が付瀧しているもの、内部格付手法を適用したエヌヌル・ノウルトのうちと信旨の債務者格付が「要管理先」以下のものを記載しております。

### 3 中央清算機閣連工クスポージヤーを含みません。

(種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

	2024年9月30日					
	信用リスクエクスポート中間期末残高					延滞又は デフォルトした エクスポート
	貸出金等	債券	デリバティブ	その他	計	
標準的手法が適用されるエクスポート	—	—	—	2,038	2,038	258
内部格付手法が適用されるエクスポート	4,071,905	741,389	318	587,936	5,401,550	76,308
<b>種類別計</b>	<b>4,071,905</b>	<b>741,389</b>	<b>318</b>	<b>589,975</b>	<b>5,403,589</b>	<b>76,567</b>
国内計	4,071,905	741,389	318	558,851	5,372,466	76,567
国外計	—	—	—	31,123	31,123	—
<b>地域別計</b>	<b>4,071,905</b>	<b>741,389</b>	<b>318</b>	<b>589,975</b>	<b>5,403,589</b>	<b>76,567</b>
製造業	370,757	40,611	61	6,322	417,752	9,328
農業、林業	4,836	—	—	0	4,837	302
漁業	11	—	—	—	11	—
鉱業、採石業、砂利採取業	996	—	—	—	996	39
建設業	215,677	10,891	—	214	226,783	6,600
電気・ガス・熱供給・水道業	47,102	298	—	448	47,849	25
情報通信業	13,931	4,953	—	730	19,615	328
運輸業、郵便業	167,837	13,841	2	1,971	183,653	3,423
卸売業、小売業	307,234	7,051	154	6,478	320,920	10,021
金融業、保険業	167,325	93,589	—	109,184	370,098	4
不動産業、物品賃貸業	1,133,504	15,842	81	13,893	1,163,321	20,391
各種サービス業	381,030	9,339	18	10,446	400,835	14,202
国・地方公共団体	209,390	544,969	—	77,893	832,253	—
個人	1,052,268	—	—	—	1,052,268	11,424
その他	—	—	—	362,390	362,390	474
<b>業種別計</b>	<b>4,071,905</b>	<b>741,389</b>	<b>318</b>	<b>589,975</b>	<b>5,403,589</b>	<b>76,567</b>
1年以下	646,321	46,759	129	235,334	928,545	31,580
1年超3年以下	335,681	159,318	26	16,490	511,517	4,946
3年超5年以下	440,033	162,096	36	40,680	642,848	2,778
5年超7年以下	337,543	65,803	—	84,173	487,520	8,687
7年超10年以下	306,330	72,712	69	15,262	394,374	3,096
10年超	2,005,994	234,699	55	84,485	2,325,235	25,477
期間の定めのないもの	—	—	—	113,548	113,548	1
<b>残存期間別計</b>	<b>4,071,905</b>	<b>741,389</b>	<b>318</b>	<b>589,975</b>	<b>5,403,589</b>	<b>76,567</b>

(注) 1. 「貸出金等」とは、貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引であります。

2. 「延滞又はデフォルトしたエクスポート」には、標準的手法を適用したエクスポートのうち、自己資本比率告示第71条及び第72条に規定するエクスポート並びに内部格付手法を適用したエクスポートのうち与信先の債務者格付が「要管理先」以下のものを記載しております。

3. 中央清算機関連エクスポートを含みません。

自己資本の構成に  
関する開示事項定量的開示事項  
(連結情報)定量的開示事項  
(単体情報)

## 口. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中増減額

(単位：百万円)

	2023年度中間			2024年度中間		
	期首残高	期中増減額	中間期末残高	期首残高	期中増減額	中間期末残高
一般貸倒引当金	10,808	△469	10,339	7,830	△207	7,623
個別貸倒引当金	5,550	△267	5,283	6,357	△1,059	5,298
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—
合計	16,359	△736	15,623	14,188	△1,266	12,921

# 定量的な開示事項（単体情報）

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

(単位：百万円)

	2023年度中間	2024年度中間				
		期首残高	期中増減額	中間期末残高	期首残高	期中増減額
国内計	5,550	△267	5,283	6,357	△1,059	5,298
国外計	—	—	—	—	—	—
<b>地域別計</b>	<b>5,550</b>	<b>△267</b>	<b>5,283</b>	<b>6,357</b>	<b>△1,059</b>	<b>5,298</b>
製造業	2,276	56	2,333	3,428	△2,567	860
農業、林業	16	35	51	0	0	0
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	427	△16	410	319	46	366
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—
情報通信業	3	△0	3	0	133	134
運輸業、郵便業	127	357	484	136	109	245
卸売業、小売業	735	△427	308	262	88	351
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—
不動産業、物品賃貸業	1,432	△146	1,286	1,241	929	2,171
各種サービス業	335	△31	303	820	77	898
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人	92	△23	68	112	△41	71
その他	103	△72	31	34	164	198
<b>業種別計</b>	<b>5,550</b>	<b>△267</b>	<b>5,283</b>	<b>6,357</b>	<b>△1,059</b>	<b>5,298</b>

## ハ. 業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
製造業	149	539
農業、林業	295	114
漁業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建設業	150	683
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	9
運輸業、郵便業	91	239
卸売業、小売業	765	295
金融業、保険業	—	—
不動産業、物品賃貸業	1,110	446
各種サービス業	116	362
国・地方公共団体	—	—
個人	94	654
その他	4	0
<b>業種別計</b>	<b>2,780</b>	<b>3,345</b>

二. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについてリスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高並びに1250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

(単位:百万円)

	2023年9月30日	
	格付有り	格付無し
0%	—	—
10%	—	—
20%	—	2,751
35%	—	—
50%	—	—
75%	—	—
100%	—	4,043
150%	—	271
250%	—	—
1250%	—	—
合 計	—	7,066

(注) 1. 格付有無は、元のエクスポージャー又は債務者の格付の有無で分類しておりますが、「格付有り」には、ソブリン格付を参照したものも含みます。  
2. 中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

(単位:百万円)

	2024年9月30日	
	格付有り	格付無し
0%	—	—
10%	—	—
20%	—	—
35%	—	—
50%	—	—
75%	—	—
100%	—	—
150%	—	—
250%	—	—
1250%	—	—
合 計	—	—

ホ. 標準的手法が適用されるエクspoージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクspoージャーについて、ポートフォリオの区分ごとのエクspoージャーの額並びに信用リスク・アセットの額

(単位:百万円)

	2024年9月30日					
	CCF・信用リスク削減手法 適用前エクspoージャー		CCF・信用リスク削減手法 適用後エクspoージャー		信用リスク・ アセットの額	リスク・ウェイト の加重平均値
	オン・バランス	オフ・バランス	オン・バランス	オフ・バランス		
ソブリン向け	—	—	—	—	—	—
金融機関等向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け	1,780	—	1,780	—	1,780	100.00%
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	—	—	—
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
延滞等	258	—	258	—	387	150.00%
その他	—	—	—	—	—	—
合 計	2,038	—	2,038	—	2,168	106.34%

(注) 1. 「リスク・ウェイトの加重平均値」とは、「信用リスク・アセットの額」を「CCF・信用リスク削減手法適用後エクspoージャー」の「オン・バランス」の額と「オフ・バランス」の額の合計額で除して算出しております。  
2. 「ソブリン向け」とは、「日本国政府及び日本銀行向け」、「外国の中央政府及び中央銀行向け」、「国際決済銀行向け」、「我が国の地方公共団体向け」、「外国の中央政府等以外の公共部門向け」、「地方公共団体金融機関向け」、「我が国の政府関係機関向け」、「地方三公社向け」、「国際開発銀行向け」のエクspoージャーであります。  
3. 「金融機関等向け」とは、「金融機関向け」、「第一種金融商品取引業者向け」、「保険会社向け」のエクspoージャーであります。  
4. 「不動産関連向け」とは、「自己居住用不動産等向け」、「賃貸用不動産向け」、「事業用不動産関連」、「その他不動産関連」、「ADC向け」のエクspoージャーであります。  
5. 「その他」とは、「株式等」、「取立未済手形」等のエクspoージャーであります。

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的な開示事項  
(連結情報)

定量的な開示事項  
(単体情報)

# 定量的な開示事項（単体情報）

ヘ. 標準的手法が適用されるエクスポージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクスポージャーについて、ポートフォリオの区分ごとのエクスポージャーの額並びにリスク・ウェイトの内訳

(単位：百万円)

	2024年9月30日								
	40%未満	40%以上75%未満	75%以上100%未満	100%以上150%未満	150%以上250%未満	250%以上400%未満	400%以上1250%未満	1250%	合計
ソブリン向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融機関等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	1,780	—	—	—	—	1,780
中堅中小企業等向け 及び個人向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等	—	—	—	—	258	—	—	—	258
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	1,780	258	—	—	—	2,038

- (注) 1. 「ソブリン向け」とは、「日本国政府及び日本銀行向け」、「外国の中央政府及び中央銀行向け」、「国際決済銀行向け」、「我が国の地方公共団体向け」、「外国の中央政府等以外の公共部門向け」、「地方公共団体金融機関向け」、「我が国の政府関係機関向け」、「地方三公社向け」、「国際開発銀行向け」のエクスポージャーであります。  
 2. 「金融機関等向け」とは、「金融機関向け」、「第一種金融商品取引業者向け」、「保険会社向け」のエクspoージャーであります。  
 3. 「不動産関連向け」とは、「自己居住用不動産等向け」、「賃貸用不動産向け」、「事業用不動産関連」、「その他不動産関連」、「ADC向け」のエクspoージャーであります。  
 4. 「その他」とは、「株式等」、「取立未済手形」等のエクspoージャーであります。

ト. 標準的手法が適用されるエクspoージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条まで及び第77条の2の規定に該当するエクspoージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとのエクspoージャーの額

(単位：百万円)

	2024年9月30日				
	CCF・信用リスク削減手法適用前エクspoージャー		CCF加重平均値	CCF・信用リスク削減手法適用後エクspoージャー	
	オン・バランス	オフ・バランス			
40%未満	—	—	—	—	—
40%以上75%未満	—	—	—	—	—
75%以上100%未満	—	—	—	—	—
100%以上150%未満	1,780	—	—	—	1,780
150%以上250%未満	258	—	—	—	258
250%以上400%未満	—	—	—	—	—
400%以上1250%未満	—	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—	—
合 計	2,038	—	—	—	2,038

チ. 内部格付手法が適用されるエクspoージャーのうち、スロッティング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイトの区分ごとの残高

(1) プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付

(単位：百万円)

スロッティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
優	2.5年未満	50%	3,246	2,120
	2.5年以上	70%	23,026	28,600
良	2.5年未満	70%	—	—
	2.5年以上	90%	137	1,036
可	—	115%	91	229
弱い	—	250%	—	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計			26,501	31,987

(注) 「スロッティング・クライテリア」とは、告示第153条に規定された5つのランク（優、良、可、弱い、デフォルト）のことです。

## (2) ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付

(単位：百万円)

スロッティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
優	2.5年未満	70%	—	—
	2.5年以上	95%	—	—
良	2.5年未満	95%	—	—
	2.5年以上	120%	—	—
可	—	140%	—	—
弱い	—	250%	—	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計		—	—	—

(注) 「スロッティング・クライテリア」とは、告示第153条に規定された5つのランク（優、良、可、弱い、デフォルト）のことです。

## リ. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高

(単位：百万円)

上場／非上場	リスク・ウェイト	2023年9月30日	2024年9月30日
上場	300%	1,036	—
非上場	400%	1,047	—
合 計	—	2,084	—

(注) 「マーケット・ベース方式の簡易手法」とは、上場株式については300%、非上場に400%のリスク・ウェイトを乗じた額をリスク・アセットの額とする手法です。

## ヲ. 内部格付手法が適用されるポートフォリオについての事項

## (1) 事業法人向け、ソブリン向け、金融機関等向けエクスポージャーに係る債務者格付ごとのパラメータ、リスク・ウェイト等

(単位：百万円)

2023年9月30日						
債務者格付	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクspoージャー		2.90%	42.25%	46.18%	2,469,037	28,225
上位格付	正常先	0.16%	43.25%	29.65%	1,477,183	24,876
中位格付	正常先	0.80%	40.45%	73.91%	831,583	2,588
下位格付	要注意先	7.21%	41.03%	86.00%	104,480	760
デフォルト	要管理先以下	100.00%	44.30%	1.40%	55,790	—
ソブリン向けエクspoージャー		0.00%	44.99%	1.19%	1,195,654	84,776
上位格付	正常先	0.00%	44.99%	1.19%	1,194,626	84,776
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	6.73%	45.00%	—	1,028	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクspoージャー		0.04%	38.97%	23.09%	80,473	36,184
上位格付	正常先	0.04%	38.96%	23.06%	80,373	36,184
中位格付	正常先	0.84%	45.00%	67.75%	100	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式を適用する株式等エクspoージャー		0.09%	90.00%	124.54%	23,398	—
上位格付	正常先	0.07%	90.00%	123.37%	23,242	—
中位格付	正常先	0.70%	90.00%	220.27%	70	—
下位格付	要注意先	5.19%	90.00%	363.22%	85	—
デフォルト	要管理先以下	100.00%	90.00%	—	—	—

(注) 1. 「上位格付」とは格付区分S～B～、「中位格付」とは格付区分C+～D、「下位格付」とは格付区分E～E～、「デフォルト」とは格付区分F～Zです。  
2. 特定貸付債権、購入債権は含んでいません。

3. リスク・ウェイト加重平均値はスケーリング・ファクター（自己資本比率告示第152条において規定された乗数=1.06）を乗じた後の信用リスク・アセットの額をもとに算出しております。

4. EADはエクspoージャー額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。

5. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛け）適用後のエクspoージャーを使用しております。

6. PD/LGD方式適用の株式等エクspoージャーのリスク・ウェイト加重平均値は期待損失額に12.5を乗じた額を加算したリスク・ウェイトをもとに算出しております。

# 定量的な開示事項（単体情報）

(単位：百万円)

2024年9月30日						
債務者格付	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポート		2.80%	35.93%	39.25%	2,545,179	18,466
上位格付	正常先	0.17%	37.74%	28.15%	1,546,998	15,902
中位格付	正常先	0.81%	32.61%	59.07%	852,349	2,257
下位格付	要注意先	6.86%	35.15%	67.10%	89,955	289
デフォルト	要管理先以下	100.00%	37.41%	1.58%	55,875	16
ソブリン向けエクスポート		0.00%	44.99%	1.13%	1,163,856	74,321
上位格付	正常先	0.00%	44.99%	1.13%	1,162,895	74,321
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	6.59%	45.00%	—	961	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポート		0.05%	42.84%	25.25%	84,300	57,080
上位格付	正常先	0.05%	42.84%	25.25%	84,300	57,079
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	5.18%	45.00%	133.72%	—	1
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—

- (注) 1. 「上位格付」とは格付区分S～B～、「中位格付」とは格付区分C～D、「下位格付」とは格付区分E～E～、「デフォルト」とは格付区分F～Zです。  
 2. 特定貸付債権、購入債権は含んでいません。  
 3. EADはエクスポート額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。  
 4. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛け）適用後のエクスポートを使用しております。

(2) 居住用不動産向け、適格リボルビング型リテール及びその他リテール向けエクスポートに係るプール区分別パラメータ等

(単位：百万円)

プール区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント 未引出し額	掛目加重平均値
					オン・バランス	オフ・バランス		
居住用不動産向け エクスポート	1.77%	20.79%	—	16.06%	940,023	—	—	—
非延滞先	0.52%	20.78%	—	15.72%	927,495	—	—	—
延滞先	33.75%	21.26%	—	105.57%	1,095	—	—	—
デフォルト	100.00%	21.45%	18.65%	34.90%	11,432	—	—	—
適格リボルビング型 リテール向け エクスポート	1.70%	45.81%	—	15.58%	4,175	7,247	11,465	63.21%
非延滞先	1.01%	45.72%	—	14.98%	4,074	7,233	11,443	63.21%
延滞先	34.91%	55.05%	—	137.40%	52	2	3	61.96%
デフォルト	100.00%	53.31%	51.59%	17.68%	48	12	19	63.60%
その他リテール向け エクスポート (事業性)	5.91%	21.18%	—	10.56%	220,047	5,275	9,430	54.73%
非延滞先	1.16%	21.06%	—	10.87%	209,021	5,268	9,426	54.73%
延滞先	47.36%	25.46%	—	16.86%	380	1	3	54.73%
デフォルト	100.00%	23.46%	23.33%	3.93%	10,644	4	1	54.73%
その他リテール向け エクスポート (消費性)	2.44%	24.12%	—	18.87%	65,280	794	2,439	32.56%
非延滞先	0.71%	24.20%	—	19.16%	64,112	791	2,431	32.56%
延滞先	39.33%	34.96%	—	61.47%	37	—	—	—
デフォルト	100.00%	19.27%	19.27%	0.95%	1,131	2	8	32.56%

- (注) 1. 「ELdefault」とは、デフォルトしたエクスポートに生じうる期待損失のことです。  
 2. リスク・ウェイト加重平均値はスケーリング・ファクター（自己資本比率告示第152条において規定された乗数=1.06）を乗じた後の信用リスク・アセットの額をもとに算出しております。  
 3. EADはエクスポート額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。  
 4. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛け）適用後のエクスポートを使用しております。

(単位：百万円)

プール区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント 未引出し額	掛目加重平均値	
					オン・バランス	オフ・バランス			
居住用不動産向け エクスポートージャー	1.71%	20.57%	—	15.70%	974,081	—	—	—	
	非延滞先	0.51%	20.56%	—	15.28%	961,806	—	—	
	延滞先	34.22%	20.53%	—	106.56%	881	—	—	
	デフォルト	100.00%	21.15%	17.58%	44.30%	11,394	—	—	
適格リボルビング型 リテール向け エクスポートージャー	2.60%	65.39%	—	32.82%	4,282	3,865	10,549	33.25%	
	非延滞先	1.52%	65.34%	—	30.48%	4,148	3,850	10,518	33.25%
	延滞先	35.30%	68.57%	—	191.32%	82	7	11	31.03%
	デフォルト	100.00%	68.09%	55.00%	109.66%	51	7	20	32.25%
その他リテール向け エクスポートージャー (事業性)	6.20%	30.38%	—	15.51%	218,921	1,503	9,241	11.32%	
	非延滞先	1.20%	30.32%	—	15.77%	207,452	1,495	9,233	11.32%
	延滞先	48.86%	31.65%	—	23.41%	586	3	1	11.32%
	デフォルト	100.00%	31.36%	22.78%	10.02%	10,881	4	6	11.32%
その他リテール向け エクスポートージャー (消費性)	2.49%	33.31%	—	26.57%	66,354	776	2,363	16.18%	
	非延滞先	0.71%	33.36%	—	26.90%	65,080	772	2,355	16.18%
	延滞先	39.40%	35.36%	—	72.02%	130	—	—	—
	デフォルト	100.00%	30.31%	18.96%	2.18%	1,143	3	8	16.18%

(注) 1. 「Eldefault」とは、デフォルトしたエクスポートージャーに生じうる期待損失のことです。

2. EADはエクスポートージャー額から貸出金と自行預金の相殺分を控除しております。

3. オフ・バランス項目のEADはCCF（掛目）適用後のエクスポートージャーを使用しております。

#### ル. 内部格付手法を適用するエクスポートージャーごとの直前期における損失の実績値及び当該実績値と過去の実績値の対比並びに要因分析

(単位：百万円)

区分	2023年9月30日	2024年9月30日
事業法人向け	13,316	10,734
ソブリン向け	—	—
金融機関等向け	—	—
PD/LGD方式を適用する株式等	—	—
居住用不動産向け	104	121
適格リボルビング型リテール向け	—	—
その他リテール向け	1,667	1,831
合 計	15,087	12,687

(注) 1. 損失額の定義は以下の合計額であります。

- ・過去1年間に生じた直接償却額及び貸出債権売却損失額
- ・部分直接償却額、個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の期末時点残高

2. 価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却は含めておりません。

#### 〈要因分析〉

事業法人向けエクスポートージャーにおける引当金の減少を主因に、損失額の実績値は前年度比減少しました。

自己資本の構成に  
関する開示事項定量的  
(連結情報)  
開示事項定量的  
(単体情報)  
開示事項

# 定量的な開示事項（単体情報）

## ヲ. 内部格付手法を適用するエクスポートジャーポジションごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

2023年9月30日			
区分	損失額の実績値（A）	損失額の推計値（B）	対比（A）－（B）
事業法人向け	13,316	26,899	△13,582
ソブリン向け	—	5	△5
金融機関等向け	—	20	△20
PD/LGD方式を適用する株式等	—	13	△13
居住用不動産向け	104	3,545	△3,441
適格リボルビング型リテール向け	—	91	△91
その他リテール向け	1,667	1,675	△8
合 計	15,087	32,250	△17,162

(単位：百万円)

2024年9月30日			
区分	損失額の実績値（A）	損失額の推計値（B）	対比（A）－（B）
事業法人向け	10,734	25,503	△14,768
ソブリン向け	—	5	△5
金融機関等向け	—	19	△19
居住用不動産向け	121	3,176	△3,054
適格リボルビング型リテール向け	—	84	△84
その他リテール向け	1,831	1,554	277
合 計	12,687	30,342	△17,655

## 三. 信用リスク削減手法に関する事項

### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポートジャーポジション

(単位：百万円)

	2023年9月30日			
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証	クレジット・デリバティブ
標準的手法適用部分	—	—	—	—
内部格付手法適用部分	32,398	627,977	287,319	—
事業法人向け	16,771	627,480	192,112	—
ソブリン向け	—	497	5,799	—
金融機関等向け	15,627	—	—	—
居住用不動産向け	—	—	678	—
適格リボルビング型リテール向け	—	—	1,398	—
その他リテール向け	—	—	87,330	—
合 計	32,398	627,977	287,319	—

(注) 1. 適格金融資産担保とは、現預金、債券、上場株式等です。

2. 適格資産担保とは、法的に有効な不動産担保等です。

3. 信用リスク削減手法が適用される前のエクスポートジャーポジション区分ごとに記載しております。

(単位：百万円)

	2024年9月30日			
	適格金融 資産担保	適格資産 担保	適格保証	クレジット・ デリバティブ
<b>標準的手法適用部分</b>	—	—	—	—
<b>内部格付手法適用部分</b>	20,869	572,933	268,445	—
事業法人向け	14,108	572,597	172,868	—
ソブリン向け	—	336	8,194	—
金融機関等向け	6,760	—	—	—
居住用不動産向け	—	—	955	—
適格リボルビング型リテール向け	—	—	704	—
その他リテール向け	—	—	85,721	—
<b>合 計</b>	<b>20,869</b>	<b>572,933</b>	<b>268,445</b>	<b>—</b>

- (注) 1. 適格金融資産担保とは、現預金、債券、上場株式等です。  
 2. 適格資産担保とは、法的に有効な不動産担保等です。  
 3. 信用リスク削減手法が適用される前のエクスポート区分ごとに記載しております。

#### 四. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

##### イ. 与信相当額の算出に用いる方式

先渡、スワップ、オプションその他の派生商品取引及び長期決済期間取引の与信相当額は、SA-CCRにて算出しております。

##### ロ. グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る。）の合計額

(単位：百万円)

2023年9月30日	2024年9月30日
11,826	14,366

##### ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

(派生商品取引にあっては、取引の区分ごとの与信相当額を含む。)

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	与信相当額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
外国為替関連取引及び金関連取引	1,769	
金利関連取引	18,039	
株式関連取引	823	
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	
その他のコモディティ取引	209	
<b>派生商品取引</b>	<b>20,841</b>	
クレジット・デリバティブ	340	
<b>合 計</b>	<b>21,181</b>	

##### ニ. ロ.に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額からハ.に掲げる額を差し引いた額

該当ありません。

##### ホ. 担保の種類別の額

該当ありません。

自己資本の構成に  
関する開示事項

定量的開示事項  
(連結情報)

定量的開示事項  
(単体情報)

# 定量的な開示事項（単体情報）

## ヘ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	与信相当額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
外国為替関連取引及び金関連取引	1,769	9,172
金利関連取引	18,039	29,707
株式関連取引	823	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ取引	209	—
派生商品取引	20,841	38,879
クレジット・デリバティブ	340	522
合 計	21,181	39,402

ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、プロセクションの購入又は提供の別に区分した額  
該当ありません。

チ. 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額  
該当ありません。

## 五. 証券化エクスポートに関する事項

### イ. 銀行がオリジネーターである証券化エクスポートに関する事項

当行は、オリジネーターとして証券化を実施していないことから、定量的な開示事項はありません。

### ロ. 銀行が投資家である証券化エクスポートに関する次に掲げる事項

当行は、投資家として証券化エクスポートを保有していないことから、定量的な開示事項はありません。

## 六. CVAリスクに関する事項

(単位：百万円)

	2024年9月30日	
	構成要素の額	CVAリスク相当額を8%で除して得た額
CVAリスクのうち取引先共通の要素	10,636	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	4,124	
合 計		52,051

(注) 1. 「CVAリスクのうち取引先共通の要素」とは、自己資本比率告示第270条の3の3に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合における $K_{\text{reduced}}$ の算式において、 $\rho$ を1と仮定した場合に算出される $K_{\text{reduced}}$ の値であります。  
2. 「CVAリスクのうち取引先固有の要素」とは、自己資本比率告示第270条の3の3に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合における $K_{\text{reduced}}$ の算式において、 $\rho$ を0と仮定した場合に算出される $K_{\text{reduced}}$ の値であります。

## 七. 出資等又は株式等エクスポートに関する事項

### イ. 中間貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中間貸借対照表計上額

#### (1) 出資等又は株式等エクスポート

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額		時 価	
	2023年9月30日	2024年9月30日	2023年9月30日	2024年9月30日
上場している出資等又は株式等エクスポートの中間貸借対照表計上額	47,961	55,303		
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポートの中間貸借対照表計上額	1,663	1,648		
合 計	49,625	56,951	49,625	56,951

## (2) 子会社及び関連会社株式等

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額	
	2023年9月30日	2024年9月30日
子会社・子法人等	6,039	6,039
関連法人等	41	41
合 計	6,081	6,081

## 口. 出資等又は株式等エクスポートの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	2023年度中間	2024年度中間
売却損益	197	416
償却額	0	0

## ハ. 中間貸借対照表で認識され、かつ、中間損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

2023年9月30日	2024年9月30日
30,196	37,411

## 二. 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ありません。

## ホ. 株式等エクスポートのポートフォリオの区分ごとの額

(単位：百万円)

	2023年9月30日
PD/LGD方式が適用される株式等エクスポート	23,398
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用されるエクスポート	2,084
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用されるエクスポート	—
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクスポート	—
合 計	25,483

(単位：百万円)

	2024年9月30日
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等	—
上記以外の株式等	25,595
合 計	25,595

## ハ. リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポートの区分ごとの額

(単位：百万円)

	2023年9月30日	2024年9月30日
ルック・スルー方式	108,441	114,540
マンデート方式	—	—
蓋然性方式（250%）	—	—
蓋然性方式（400%）	—	—
フォールバック方式	244	240
合 計	108,685	114,780

- (注) 1. 「ルック・スルー方式」とは、当該エクスポートの裏付となる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げ信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。
2. 「マンデート方式」とは、当該エクスポートの運用基準（マンデート）に基づき、資産構成を保守的に想定して信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。
3. 「蓋然性方式（250%）」とは、当該エクスポートのリスク・ウェイトが250%以下である蓋然性が高いことを疎明した場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。
4. 「蓋然性方式（400%）」とは、当該エクスポートのリスク・ウェイトが400%以下である蓋然性が高いことを疎明した場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。
5. 「フォールバック方式」とは、上記1. 2. 3. 4. の方式が適用できない場合に、信用リスク・アセットの額を算出する方式であります。

# 定量的な開示事項（単体情報）

## 九. 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

### IRRBB1：金利リスク

項目番号	説明	イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当中間期末	前中間期末	当中間期末	前中間期末
1	上方パラレルシフト	3,643	6,683	14	1,111
2	下方パラレルシフト	5,568	0	1,968	84
3	スティープ化	6,044	6,950		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	6,044	6,950	1,968	1,111
		ホ		ヘ	
		当中間期末		前中間期末	
8	自己資本の額		217,630		208,607

## 十. 内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項

### イ. 信用リスクに関する事項

(単位：百万円)

	2024年9月30日			
	内部格付手法適用分の 信用リスク・アセットの額	内部格付手法適用分の 信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出 した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出 した信用リスク・アセット の額（フロア掛目前）
事業法人向けエクスポート	1,006,358	1,955,615	1,008,526	1,957,783
ソブリン向けエクスポート	14,094	11,574	14,094	11,574
金融機関等向けエクスポート	35,956	40,402	35,956	40,402
居住用不動産向けエクスポート	152,986	476,124	152,986	476,124
適格リボルビング型リテール向 けエクスポート	2,674	4,029	2,674	4,029
その他リテール向けエクスポート	52,033	164,594	52,033	164,594
株式等エクスポート	63,988	25,595	63,988	25,595
特定貸付債権	22,278	31,510	22,278	31,510
購入債権	8,767	12,160	8,767	12,160
合計	1,359,138	2,721,606	1,361,306	2,723,774

### ロ. 証券化エクスポートに関する事項

当行では、該当する取引はございません。

# 法定開示項目一覧

## 銀行法施行規則に基づく開示項目

### □連結情報

銀行及び子会社等の主要な業務に関する事項	
営業の概況	4
主要な経営指標等の推移	17
銀行及び子会社等の財産の状況に関する事項	
中間連結貸借対照表	21
中間連結損益計算書	22
中間連結株主資本等変動計算書	23
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	17
危険債権額	17
三月以上延滞債権額	17
貸出条件緩和債権額	17
正常債権額	17
自己資本の充実状況	52~53、56~71
セグメント情報	18~20
金融商品取引法に基づく監査証明	21

### □単体情報

概況及び組織に関する事項	
大株主一覧	4
主要な業務に関する事項	
営業の概況	2~3
主要な経営指標等の推移	30
業務に関する指標	
○主要な業務の状況を示す指標	
業務粗利益、業務粗利益率、	
業務純益、実質業務純益、	
コア業務純益及びコア業務純益	
(投資信託解約損益を除く。)	30~31
資金運用収支、役務取引等収支、	
その他業務収支	30、33
資金運用勘定・資金調達勘定平均残高等	31
資金利鞘	32
受取利息・支払利息の分析	32
経常利益率、中間純利益率	32
○預金に関する指標	
科目別預金残高	40
定期預金の残存期間別残高	40
○貸出金に関する指標	
科目別貸出金残高	41
貸出金の残存期間別残高	41
貸出金業種別内訳	41
貸出金使途別内訳	42
中小企業等に対する貸出金残高	42
貸出金及び支払承諾見返の担保別内訳	42
特定海外債権残高	42
預貸率	42

### ○有価証券に関する指標

有価証券の種類別残高	44
有価証券の残存期間別残高	44
商品有価証券の平均残高	45
預証率	45

### ○信託業務に関する指標

信託報酬	30
信託財産額	30
信託勘定貸出金残高	30
信託勘定有価証券残高	30
信託勘定電子決済手段残高及び履行保証電子決済手段残高	30
信託勘定暗号資産残高及び履行保証暗号資産残高	30
信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高	30
信託財産残高表	50
受託残高	50
元本補填契約のある信託の種類別の受託残高	50
信託期間別の元本残高	50
金銭信託等の種類別の貸出金及び有価証券の区分ごとの運用残高	50
金銭信託等に係る貸出金の科目別の残高	50
金銭信託等に係る貸出金の契約期間別の残高	50
担保の種類別の金銭信託等に係る貸出金残高	50
使途別の金銭信託等に係る貸出金残高	50
業種別の金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	50
中小企業等に対する金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	50
金銭信託等に係る有価証券の種類別の残高	50
電子決済手段の種類別の残高	50
暗号資産の種類別残高	50

### 業務の運営に関する事項

中小企業の経営改善及び地域活性化のための取組み状況	6~15
---------------------------	------

### 財産の状況に関する事項

中間貸借対照表	34
中間損益計算書	35
中間株主資本等変動計算書	36~37
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	43
危険債権額	43
三月以上延滞債権額	43
貸出条件緩和債権額	43
正常債権額	43
元本補填契約のある信託に係る債権のうち破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額、三月以上延滞債権額並びに貸出条件緩和債権額に該当するものの額並びにこれらの合計額並びに正常債権額に該当するものの額	50
自己資本の充実状況	54~55、72~87
有価証券、金銭の信託、デリバティブ取引、電子決済手段、暗号資産、取得原価または契約価額、時価、評価損益	46~49
貸倒引当金の内訳	43
貸出金償却	43
金融商品取引法に基づく監査証明	34

## 金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示項目

□資産の査定の公表	43
-----------	----

# 自己資本比率規制の第3の柱（市場規律）に基づく開示事項一覧

<b>自己資本の構成に関する開示事項</b>	52～55
<b>定量的な開示事項</b>	
(連結情報)	
一.その他金融機関等であって銀行の子法人等であるもののうち、 規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額	56
二.自己資本の充実度に関する事項	56～58
三.信用リスクに関する事項	59～67
四.信用リスク削減手法に関する事項	67
五.派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	68
六.証券化エクスポートジャーマーに関する事項	68
七.CVAリスクに関する事項	69
八.出資等又は株式等エクスポートジャーマーに関する事項	69
九.リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用される エクスポートジャーマーの区分ごとの額	70
十.金利リスクに関する事項	70
十一.内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項	71
(単体情報)	
一.自己資本の充実度に関する事項	72～74
二.信用リスクに関する事項	75～83
三.信用リスク削減手法に関する事項	83～84
四.派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	84～85
五.証券化エクスポートジャーマーに関する事項	85
六.CVAリスクに関する事項	85
七.出資等又は株式等エクスポートジャーマーに関する事項	85～86
八.リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用される エクスポートジャーマーの区分ごとの額	86
九.金利リスクに関する事項	87
十.内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項	87



<https://www.musashinobank.co.jp>

2025年1月

武藏野銀行 総合企画部

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8

TEL.048-641-6111 (代表)

本誌に掲載している計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。[

UD  
FONT